取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびは ＩＳｉＳ をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**アイシス**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。
●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の9章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただく方のために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転をする前に

ドアの開閉、シート、シートベルトなどの取り扱いを説明しています。

第4章：運転をするときに

エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第5章：室内装備の取り扱い

エアコン、室内装備品（グローブボックス、カップホルダーなど）の取り扱いを説明しています。

第6章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ABSなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第7章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境に配慮した経済的な運転方法などについて説明しています。

第8章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第9章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

警告　記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること

注意　記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

トヨタ販売店にご連絡・ご相談していただきたい場合や、点検整備を行っていただきたい場合を下記のマークで記載しています。

トヨタ販売店にご連絡・ご相談していただきたいとき

トヨタ販売店で点検整備を行っていただきたいとき

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為。

操作説明（3〜9章）の見方

操作説明（3〜9章）の基本的な読み方について説明しています。

■本書では新計量法の施行に伴い国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

※ このページはサンプルですので、記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

タイトルからさがす

- ■「目次」
- ■「ツメタイトル」
- ■「各章のはじめの目次」

取りつけ位置からさがす

- ■「イラスト目次」

名称からさがす

➡ 542ページ

- ■「五十音さくいん」

警告灯からさがす

➡ 550ページ

- ■「警告灯さくいん」

症状からさがす

➡ 542ページ

- ■「五十音さくいん」
  （色つき文字の項目）

目 次

イラスト目次

インストルメントパネル

※装備の違い、注文装備なども含んでいます。

発炎筒 ➡512ページ
アッパーグローブボックス ➡400ページ
助手席ＳＲＳエアバッグ ➡408ページ
グローブボックス ➡400ページ
エアコン操作部 ➡360ページ
非常点滅灯スイッチ ➡339ページ

SRS AIRBAG

カップホルダー ➡394ページ
センターロアボックス ➡400ページ
シフトレバー ➡276、278ページ
パーキングブレーキペダル ➡290ページ
ステアリングスイッチ ➡404ページ
運転席ＳＲＳエアバッグ ➡408ページ
運転席ロアボックス ➡400ページ
ボンネットオープナー ➡190ページ

※装備の違い、注文装備なども含んでいます。
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

イラスト目次

室　内

※装備の違い、注文装備なども含んでいます。

イラスト目次

車　両　外　観

バックドア ➡134ページ

リヤワイパー ➡333ページ

制動灯、尾灯➡472、495ページ

ボンネット➡190ページ

フロントワイパー➡333ページ

番号灯➡472、495ページ

リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、後退灯 ➡472、495ページ

フロントフォグランプ ➡472、495ページ

ヘッドランプ、車幅灯、フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯➡472、495ページ

タイヤ ➡463ページ

ドアミラー ➡256ページ

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 ➡472、495ページ

フロントドア➡130ページ

チャイルドプロテクター➡165ページ

スライドドア➡154ページ

フューエルリッド➡186ページ

PLATANAを除く

フロントフォグランプ ➡472、495ページ

※装備の違い、注文装備なども含んでいます。

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1. 点検整備実施のお願い

**点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。**

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
日常点検（➡480ページ参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。

販売店	定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、12か月ごとに実施する点検です。 定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車とつき合っていくうえで最も大切なことです。

●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

販売店	日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

2. お出かけ前の注意

お出かけ前に、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②エンジン冷却水温が低い間は、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
●低水温表示灯（青色）が消灯すれば暖機は十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（➡324ページ参照）が点灯します。

④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

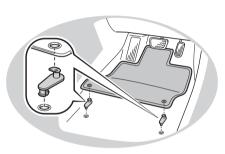
●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

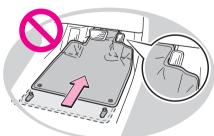
●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。必要に応じ、ラゲージルームのデッキフックを使用して、荷物をネットやロープなどで固定してください。（➡402ページ参照）

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じたとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 地面に油のもれたあとが残っているとき。
- メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき。

⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

- 飲酒運転は法律で禁止されています。
- 飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

- エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①指定以外の燃料を使用しないでください。

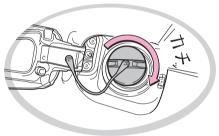
- ●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- ●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

- ●エンジンは必ず停止してください。
- ●車のドア、窓は閉めてください。
- ●タバコなど火気を近づけないでください。
- ●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

ツマミ部分

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください（再帯電のおそれがあります）。
●給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。

4. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中はエンジンを停止しないでください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、誤って“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続け、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

●運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

⑤ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑦車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●パワーステアリングモーターが、過熱により損傷するおそれがあります。
●停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防ぐため、パワーステアリング制御が制限されハンドル操作が重くなります。この場合は、しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約10分が経過すると、通常の重さにもどります。
●過熱防止の制限がかかるような操作を繰り返すと、システムの故障の原因になります。

⑨ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑩大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。
- 駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき。
- 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき。
- 輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき。
- 凹凸やわだちのある道を走行するとき。
- くぼみ（穴）などを通過するとき。
- 平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき。

⑪ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑫冠水した道路は走行しないでください。

販売店	冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。 万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。 ●ブレーキの効き具合 ●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。） ●プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

⑬湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

●外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑭スタック※したときは

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。

●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
- シフトレバーを🅓または🅡に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってからブレーキ操作をしてください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

販売店	けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑮洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑯走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰窓から手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑱ドアガラスを閉めるときは、ほかの人の手や頭などを挟まないように注意してください。

●ドアガラスに挟まれると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑲グローブボックスや小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉑走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中は、ドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（➡308ページ参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。

ブレーキ警告灯

販売店

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。

この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。

●ブレーキ警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯（ＶＳＣ装着車）、またはＡＢＳ警告灯（ＶＳＣ装着車を除く）と同時に点灯したままのとき。

この場合、ＡＢＳ、またはブレーキアシスト（ＶＳＣ装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
- ハンドルが取られるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品・タイヤ・ディスクホイール・駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

販売店	もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

販売店	警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。 警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。

●エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6. 駐停車するときの注意

**駐停車するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

●車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- シフトレバーをⓅにする。
- パーキングブレーキをかける。
- エンジンを停止する。
- ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。

●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を約30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。

●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。（➲448ページ参照）

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

7. 排気ガスに対する注意

次の事項を必ずお守りください。
排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれており、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

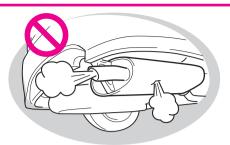
①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

販売店

排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

- 開けたまま走行すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

- すべての窓を全開にしてください。
- 空調の内外気切り替えを外気導入にして風量を最大にし、新鮮な外気を車内に入れてください。

販売店

すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、➡165ページを参照してください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（➡240ページ参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア・ドアガラスなどはお子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●チャイルドプロテクター（➡165ページ参照）やウインドゥロックスイッチ（➡180ページ参照）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。
また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥなどのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対に“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたままお子さまを車内に残さないでください。

1. シートについての注意

シートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢を取らないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、➡192ページを参照してください。

②シートを調整、またはシートアレンジしたあとは、シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの調整、またはシートアレンジをしないでください。

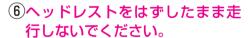
●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレスト効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⑦ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⑧フロントシートにはＳＲＳエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。（ＳＲＳサイドエアバッグ装着車）

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（➡192ページの「シートの調整」の警告文を参照してください。）

⑨助手席シートにこの車専用のトヨタ純正品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。

●この車専用のトヨタ純正品以外のものを取りつけると、助手席シートベルトの正常な作動のさまたげとなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

⑩サードシートへの乗りおりについては、次のことをお守りください。

●サードシートへ乗りおりしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。固定させていないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、乗員に当たるなどして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪シートバックテーブルについては次のことをお守りください。

●走行中は操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●テーブル状態にしたまま走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートをもどしたときは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。シートが確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●テーブルの上には絶対にのらないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

⑫タンブルさせた助手席シートをもどしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。

●タンブルさせたシートをもどしたときは（➡214ページ参照）、シートを軽くゆさぶりシート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。確実に固定されていないと走行中にシートが動き、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●タンブルさせた助手席シートの上に手荷物などをのせて走行する場合は、運転操作や運転の際の視界の妨げにならないよう確実に固定してください。固定していないと、走行中に手荷物が移動し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タンブルさせた助手席シートの上に手荷物などをのせて走行する場合は、手荷物より後部の座席に座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに手荷物が移動し、後部座席の乗員が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑬サードシートを格納した状態からもとにもどすときはシート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートをもどしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。確実に固定されていないとシートが固定されず、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑭サードシートを格納したあとで、背もたれを起こして座らないでください。

●シートを格納したあとで、背もたれを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑮シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●シートアレンジをする、またはもとにもどすときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけ、エンジンを停止させてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ、またはもとにもどす操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ラゲージスペースにするときは、次のことをお守りください。
●のせた手荷物等は確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに荷物が移動して、乗員が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■フリースペースにするときは、次のことをお守りください。
●フリースペースにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■フラットシートにするときは、次のことをお守りください。
●フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■長尺物収納スペースにするときは、次のことをお守りください。
●倒した背もたれの上に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

2. 子供専用シートについての注意

子供専用シートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートを使用するときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはリヤシートに取りつけてください。

●運転席側セカンドシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側に取りつけてください。

⚠ 警　告　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。

また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。

●うしろ向きに取りつけた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず、前向きに助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取りつけてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取りつけるときは、固定専用バーおよびトップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

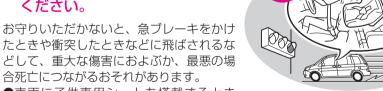
●異物やシートベルトなどをかみ込むと子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。

●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

●ヘッドレストの上に掛けると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取はずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルームに収納し、しっかりと固定しておいてください。

3. シートベルトについての注意

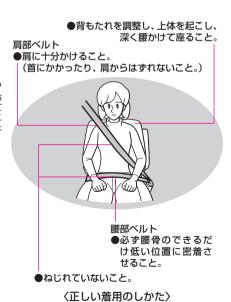
シートベルトについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

〈正しい着用のしかた〉

安全装備について

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、➡192ページを参照してください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。

●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■運転席でアジャスタブルショルダーベルトアンカーを確実に調整してください。（➡241ページ参照）

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■フロントシートのアームレストを使用するときは、必ず腰部ベルトをアームレストの下に通した状態で着用してください。

●アームレストにかかった状態で着用すると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■シートベルトは必ず１人で１本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

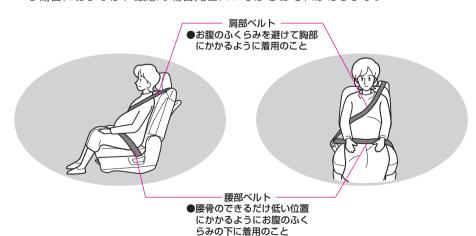
②助手席シートうしろのベルト穴にごみや異物などを入れないでください。

●ごみや異物などが入ると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

⑤シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

販売店

ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■サードシートの3点式シートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていないことを確認してください。

●ベルトハンガーにシートベルトがかかっていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑥シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり危険です。

■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。

販売店

衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。
シートベルトの取りつけ、取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。

販売店

プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

●シートベルトプリテンショナーが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

⑦シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑧助手席シートうしろのベルト穴付近に足などをのせないでください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動したとき、やけどをするおそれがあります。

4. ＳＲＳエアバッグについての注意

ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

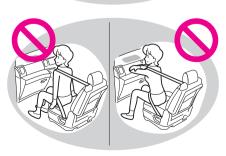
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、➡236ページを参照してください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。

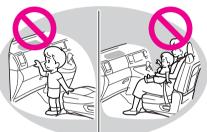
●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

《運転者のかたは》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

《助手席乗員のかたは》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整・正しい姿勢については、➡192ページを参照してください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

販売店

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロント・センターピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

販売店	車両前部または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

■ドアにもたれかかったり、フロント・センターピラーやルーフサイド部に近づかないようにしてください。（ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

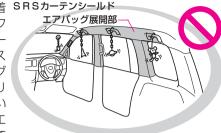
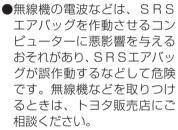
●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントウインドゥガラス、フロントドアガラス、フロント・センターピラー、およびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイク、ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

販売店

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド（運転席ＳＲＳエアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席ＳＲＳエアバッグ）、フロント・センターピラー、およびルーフサイド部（ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ）、フロントシート側面（ＳＲＳサイドエアバッグ）など、ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

5. ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストについての注意

ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストについては、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

警告

①ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。

●ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分に取ってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

ＶＳＣ・ＴＲＣについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＶＳＣを過信しないでください。

●ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（➡305ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②ＴＲＣを過信しないでください。

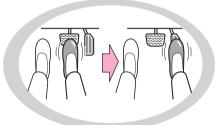
●ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（➡305ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

1. オートマチック車についての注意

オートマチック車については、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①オートマチック車の特性

■クリープ現象
エンジンがかかっているとき、シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

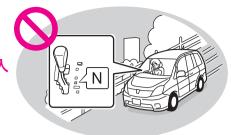
●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるⓅに入れ、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃに入れないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

●Ⓟ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅに入れてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、シフトレバーを7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車はⒹ・Ⓢ・Ⓑ、7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車はⒹ・Ⓜに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にⓇに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫その他にも以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

2. 4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WD（アクティブトルクコントロール4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

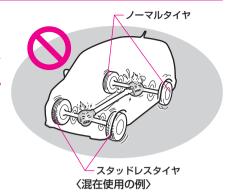
●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

販売店

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目を点検してください。
●ブレーキの効き具合
●エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
●プロペラシャフト・各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

〈混在使用の例〉

●タイヤはすべて、指定サイズで同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
  - 空気圧が指定値からはずれているとき。
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（➡463ページ参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（➡499ページ参照）

3.クリアランスソナー&バックソナーについての注意

クリアランスソナー&バックソナーについては、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①車両を前進・後退させるときは、必ず車両周辺の安全を確認しながらゆっくり運転してください。

●クリアランスソナー&バックソナーの感知範囲は、前部バンパー周辺、後部バンパー周辺に限られています。車両を前進・後退させるときは、必ず車両周辺の安全を確認しながら、ブレーキで車速を十分制御し、ゆっくり運転してください。

②センサーが感知する範囲には、アクセサリー用品などを取りつけないでください。

●クリアランスソナー&バックソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③センサー部についた異物を取り除いてください。

●センサー部に泥や氷雪が付着すると、クリアランスソナー&バックソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなったり、感知できないことがあります。

●障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなったり、感知できないことがありますので、必ず周囲の状況を確認しながら運転してください。

⑤次の場合、装置が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次の場合、装置が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
- センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）。
- センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）。
- センサーを手でふさいだとき。
  ※とくに低温時には凍結などにより異常表示が出る、障害物があっても感知しない場合があります。
- 車両姿勢が大きく傾いたとき。
- 炎天下や寒冷時。
- 凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など。
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナー＆バックソナーなどの超音波を発生するものが近づいたとき。
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき。
- 市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車につけたとき。
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき。
- 標識等の物体によっては検知距離が短くなることがあります。
- バンパーの真下付近は感知しません。センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近づきすぎると、作動しないことがあります。

●次のようなものは感知しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
- 針金、フェンス、ロープなどの細いもの。
- 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの。
- 鋭角的な形を持つもの。
- 背が高く上部が張り出しているもの。
- 背の低いもの。

販売店

異常表示が出ている場合、まずセンサーの状態を確認してください。泥、氷雪がないのに異常表示が出る場合はセンサーの故障が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⑥車両を前進・後退させるときは必ず車両周辺の安全を確認しながらゆっくり運転してください。

●ソナーの感知範囲、作動速度には限界があります。車両を前進・後退させるときは、必ず車両周辺（とくに車両側面など）ソナー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくりと運転してください。
- ソナーの感知範囲は車両前部バンパー周辺、後部コーナー周辺に限られます。
- 障害物を感知してから、表示やブザーがでるまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーがでる前に、障害物まで約25cm以内に接近するおそれがあります。
- 路面状況（雨、砂利など）により、制動距離が変化します。

4.スマートエントリー&スタートシステムについての注意

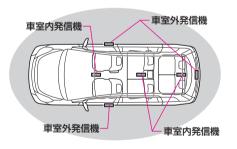
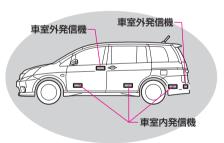
スマートエントリー&スタートシステムについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信器・車室外発信器から約22ｃｍ以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。

●電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください。

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーターなど高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、錆びてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球が冷えてから行ってください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

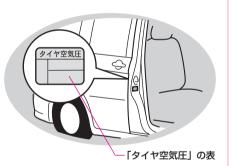
2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

●タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
- タイヤの空気圧。
- タイヤのき裂・損傷の有無。
- タイヤの溝の深さ。
- タイヤの異常な摩耗。（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど。）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

「タイヤ空気圧」の表

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または➲499ページで正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

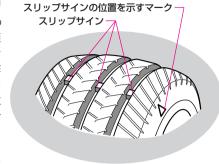
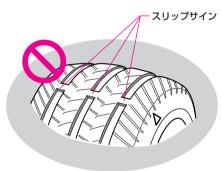
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（➡463ページ参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（➡499ページ参照）
●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト（ＶＳＣ装着車）
- ＶＳＣ・ＴＲＣ
- クリアランスソナー
- バックソナー

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

⑤タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

販売店

異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

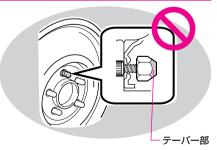
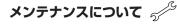
●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。

販売店	確実に締まっていないとディスクホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。 タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。 締めつけトルク：約103N・m ｛1050kgf・cm｝

●必ずナットのテーパー部を内側にして取りつけてください。テーパー部を外側にして取りつけると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫応急用タイヤについては以下の点に注意してください。

●応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに、一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa（4.2kg/㎠）
●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。

（➡525ページ参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや、充電中は、バッテリーに近づかないでください。

●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近づけないでください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取りつけ、ナットを確実に締めつけてください。

●確実に取りつけたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

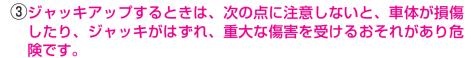
販売店

車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

●万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（➡517ページ参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

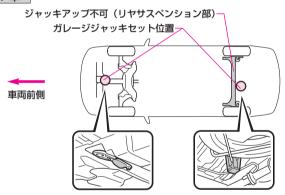
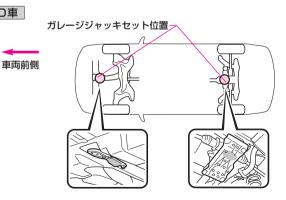
販売店

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部（ＦＦ車）などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

ガレージジャッキ

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認のうえ、使用してください。

ＦＦ車

4WD車

ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。

（➡481ページ参照）

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包み、ゆっくりと開けてください。

次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

2. 万一の事故のときの注意

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしないでください。

●ハンドルがロックされ思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

④発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

販売店

車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①不正改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

販売店

次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
●電装品、無線機などの取りつけ、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

②カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。また、カップホルダー使用していないときは閉めておいてください。

③ウインドゥガラスなどには吸盤をつけないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

④ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥電子キーの電池交換時に、取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。

- お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- イージークローザー装着車では、半ドア状態のときバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- バックドアは、必ず外から押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑧バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがらないでください。

- 手などを挟んだり、ダンパーステーが破損してはずれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

- バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩パワーバックドア装着車では次のことをお守りください。お守りいただかないと、バックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチをＯＦＦにすると、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジンスタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

！ その他の注意

⑪スライドドアを開閉するときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはスライドドアの操作をさせないでください。

●走行中は以下のことをお守りください。お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを必ず着用してください。
- 全てのドアを施錠してください。
- 全てのドアを確実に閉めてください。
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにしてください。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・頭などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが早くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

⑫パワースライドドア装着車では、次のことをお守りください。お守りいただかないと、スライドドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワースライドメインスイッチをＯＦＦにすると、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、“エンジンスタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⑬樹脂バンパーやアルミ部分には、磁石で固定するアクセサリーを取りつけることはできません。

●磁石は樹脂やアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などは取りつけることはできません。

⑭車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないよう注意してください。

販売店

インストルメントパネル、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑮プラズマクラスター®イオン発生器は高電圧を利用しています。

販売店

危険ですので、修理等は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⑯フロントワイパーデアイサー・ミラーヒーター作動中は、フロントウインドゥガラス下部と運転席側フロントピラー部、およびドアミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。（寒冷地仕様車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑰エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。

⑱シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑲メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

⑳内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

2

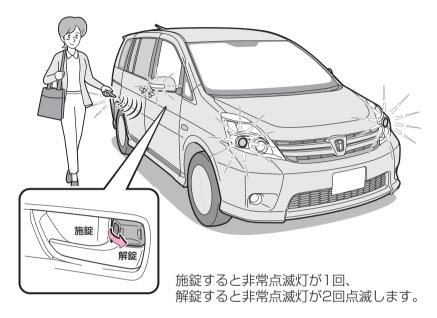
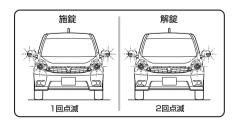
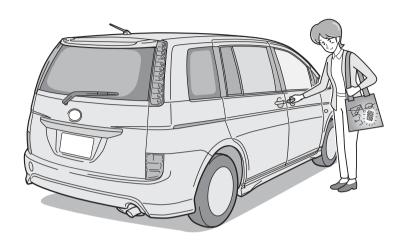
基本操作早わかり

（はじめてこの車にお乗りになるかたへ）

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

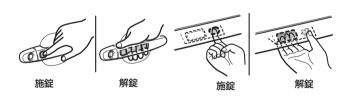
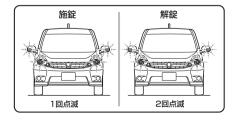
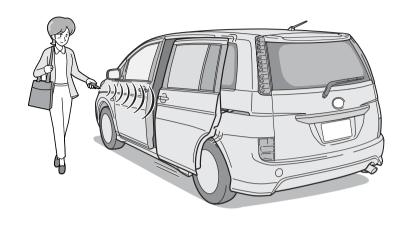
施錠すると非常点滅灯が1回、
解錠すると非常点滅灯が2回点滅します。

ドアの施錠と解錠（リモコンスイッチで）

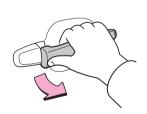
目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき

電子キーを携帯していれば、キーを操作することなくドアを施錠・解錠することができます。

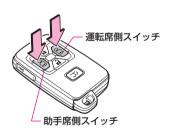
ドアの施錠と解錠（スマートエントリー & スタートシステムで）

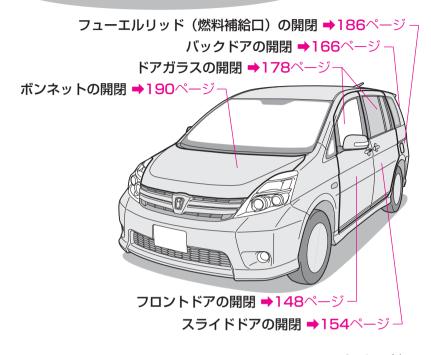
フロントドア　　　バックドア

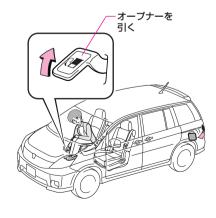
索引

パワースライドドアメインスイッチをＯＮにして、
スライドドアを解錠しておきます。

スライドドアの自動開閉

ハンドルで

ハンドルを引きます。

リモコンスイッチで

リモコンスイッチを約1秒以上押します。

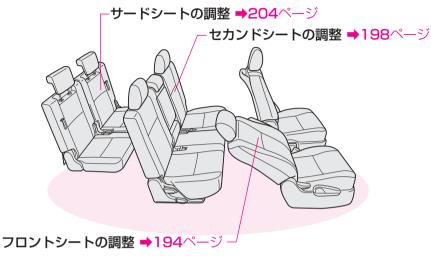
各部の開閉に関する詳しい紹介は

ドアガラスの開閉

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

運転席の調整機能（その1）

前後位置

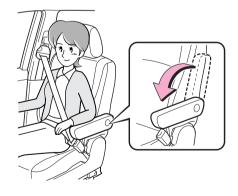
背もたれの角度

シート全体の上げ下げ

シートに関する詳しい紹介は

●シートアレンジについては➡206ページを参照してください。

運転席の調整機能（その2）

ヘッドレスト

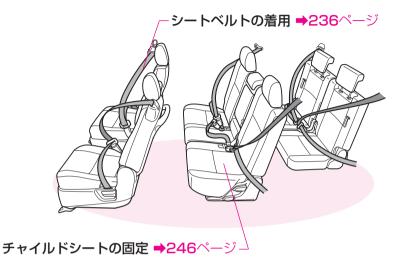
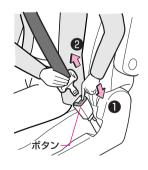
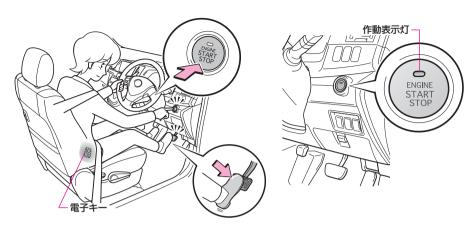
アームレスト（アームレスト装着車）

3点式シートベルトの着用のしかた

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

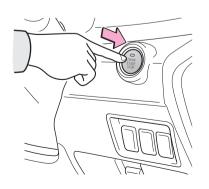
❶“カチッ”という音がするまで差し込みます。

❷運転席シートベルトはアンカーの高さを調整します。

シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。

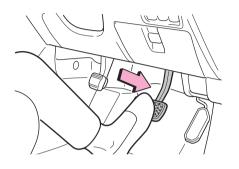
❷ベルトを巻き取らせます。

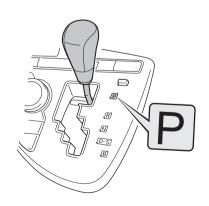
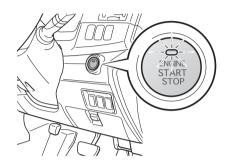
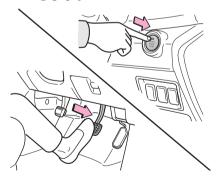
“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションＯＮモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方

1 電子キーを携帯して運転席に座ります。

2 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
スイッチを押すごとにスイッチが、
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。
●アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

エンジン始動のしかた

1 電子キーを携帯して運転席に座り、ブレーキペダルをしっかり踏みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

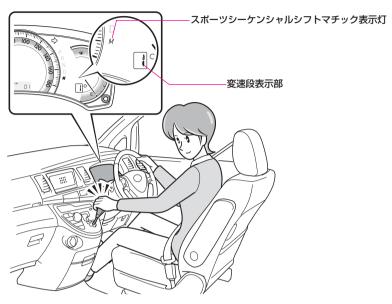
2 作動表示灯が緑色に点灯します。

3 シフトレバーの位置を確認します。

4 ブレーキペダルをしっかり踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

ゆっくり確実に押してください。

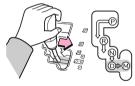
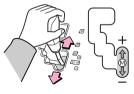
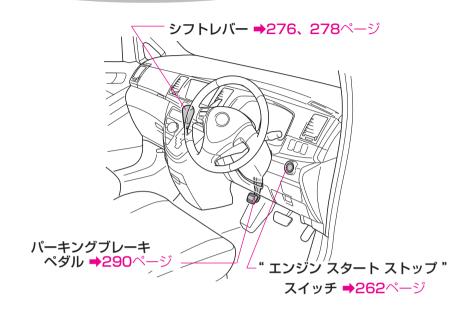
●エンジンが始動すると作動表示灯が消灯します。

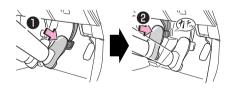
シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

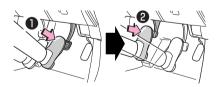
●パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

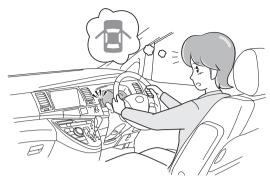
2 シフトレバーをⓅから操作します。

スポーツシーケンシャルシフトモードの使い方

1 シフトレバーをⓂにします。
●スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。

2 シフトアップするときは、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの＋側、シフトダウンするときは−側を操作します。
●1～7の間で選択されている変速段が変速段表示部に表示されます。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

❷左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

かけ方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

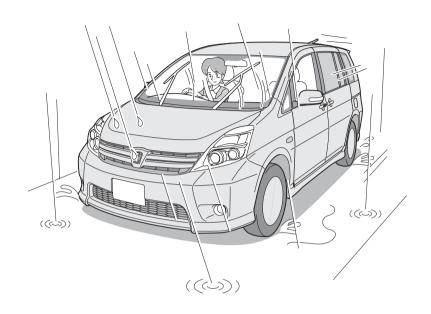
❷左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
	半ドア警告灯	●いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。 ●点滅時は、助手席側ドアのロック機構に異常があります。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。
	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●ＥＢＤの異常です。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
警告灯 E	燃料残量警告灯	燃料切れが近づいています。 （約8Ｌ以下で点灯）
VSC	ＶＳＣ警告灯	ＶＳＣシステムの異常です。 （ＶＳＣ装着車）
	パワーステアリング警告灯	パワーステアリングシステムの異常です。
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。

警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
ABS	ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯 ＡＢＳ警告灯	ＡＢＳまたはブレーキアシスト（ＶＳＣ装着車）の異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
− ＋	充電警告灯	充電系統の異常です。
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプのオートレベリングシステムの異常です。（ディスチャージヘッドランプ装着車）
4WD	4WD警告灯	4WDシステムの異常です。 （4WD車）
	高水温警告灯 （赤色）	エンジン冷却水温度の異常です。
	スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	電子キーが車室内発信機の検知エリア内にありません。

※この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合もあります。
　詳しくは➡300ページを参照してください。

夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

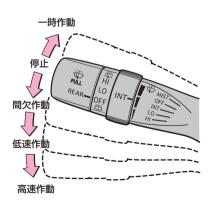
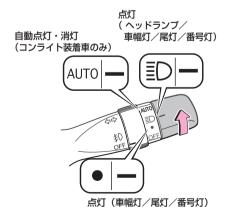
ランプのつけ方

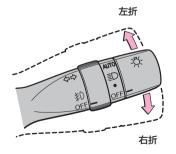
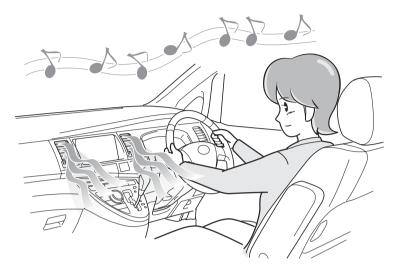
スイッチに関する詳しい紹介は

非常点滅灯スイッチ ➡339ページ

ワイパー&
ウォッシャースイッチ ➡333ページ

ライトスイッチ ➡328ページ

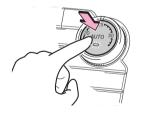
方向指示レバー ➡332ページ

他車への合図

方向指示灯

非常点滅灯

オートエアコンの使い方

1 ＡＵＴＯスイッチを押します。

2 温度調整ダイヤルで希望温度に合わせます。

3 エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エアコン・ステアリングスイッチに関する詳しい紹介は

ステアリングスイッチ★ ➡404ページ

エアコン ➡360ページ

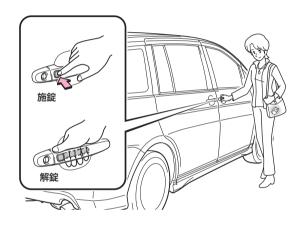
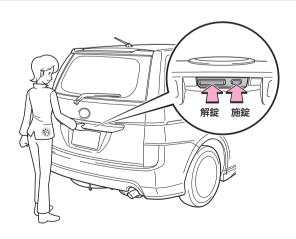
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

3 運転をする前に

スマートエントリー ＆ スタートシステム

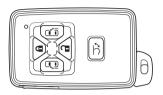
スマートエントリー ＆ スタートシステムについて

スマートエントリー ＆ スタートシステムは電子キーを携帯しているだけで、ドアの施錠・解錠、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの切り替え、エンジンの始動・停止をすることができます。

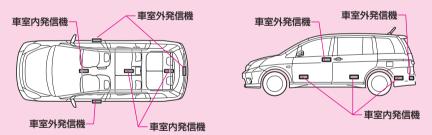
ドアの施錠・解錠（➡130ページ参照）

バックドアの施錠・解錠（➡134ページ参照）

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え（➡262ページ参照）

エンジンの始動・停止（➡265ページ参照）

電子キー

電子キーと車両が通信を行い、スマートエントリー & スタートシステムが作動します。

電子キーは運転者が必ず携帯してください。

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22ｃｍ以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22ｃｍ以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。
●磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
●電子キーの表面にシールなどを貼らないでください。
●テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
●超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
●電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
●車から離れるときは、
1.シフトレバーをⓅにし、
2.パーキングブレーキをかけ、
3.“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして、
必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。
●スマートエントリー & スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー & スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが正常に作動しない場合があります。その場合は、➡146ページの「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
- 電子キーのバッテリー（電池）が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズを発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
- 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコン、市販の電機製品などの電波を発信するような製品を同時に携帯または使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

知識

電子キーについて

●電子キーは2個あります。
●電子キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止などに使います。
●ワイヤレスドアロックリモコンの操作については➡182ページを参照してください。
●電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失した場合は、電子キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、ただちに **トヨタ販売店**にご相談ください。
●電子キーの作製には特殊な処理が必要になりますので、トヨタ販売店以外では購入できません。
●スマートエントリー ＆ スタートシステムの故障等で **トヨタ販売店**に車両を持っていく場合は、車両に装備されている電子キーをすべてお持ちください。
●盗難防止システムについては➡437ページを参照してください。

電子キーのバッテリーについて

●電子キーのバッテリー（電池）は常に消耗しています。
電子キーは車両との通信のために常時受信動作をしており、電子キーに内蔵されたバッテリーを消費しています。電池の寿命は使用状況によりますが約1～2年程度です。（まったく使用しなくても電池は消耗します。）バッテリー電圧が低下した場合、新しい電池と交換してください。電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが（➡464ページ参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、 **トヨタ販売店**での交換をおすすめします。
●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（➡140ページ参照）

知識

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子キーの保管について

電子キーを家電製品の近くに保管しないでください。家電製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。
影響のある主な電化製品（常時約1m以上離すのが望ましいものの例）
テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス電話器および携帯電話

電子キーの使用数について

同じ車両で使用できる電子キーの数を変更することができます。詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

キーナンバープレートについて

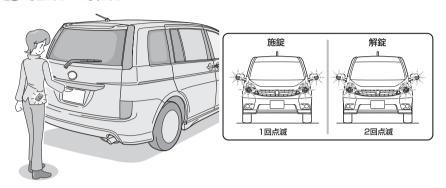
お客様以外にキーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

- キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、 **トヨタ販売店**でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。
- 万一、電子キーを1個でも紛失した場合、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

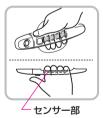
スマートエントリー ＆ スタートシステムの解除について

スマートエントリー ＆ スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

ドアの施錠・解錠のしかた

施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、フロントドアハンドルのロックスイッチを押します。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠ができます。
●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。
●必ず施錠されたことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れるようにドアハンドルを握ります。

●すべてのドア（バックドアを含む）の解錠ができます。
●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

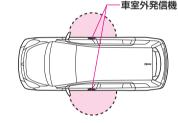
注意 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

- 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
- ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

知識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアから周囲約70cm以内）

- ドアガラスやドアハンドルに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

検知エリア
各フロントドアハンドルから周囲約70ｃｍ以内

作動条件について

- 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、車室内外で、IDコードの照合を行い車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると施錠されます。
  - 電子キーを検知しているドアハンドルでのみ、ドアの施錠・解錠を行うことができます。
  - 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときやドアガラスやドアハンドルに近づきすぎたときは正常に作動しない場合があります。
  - 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
  - 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
  - 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- インストメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、➲146ページの「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知識

施錠・解錠について

●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（➲140ページ参照）が鳴ります。
- いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
- ドアの開閉中

●解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドル裏側のセンサー部以外に触れても解錠されません。
- 皮手袋、スキー手袋などを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部に触れた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。

- 他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。

●急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（➲182ページ参照）、メカニカルキー（➲146ページ参照）、ドアロックスイッチ（➲148ページ参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。
●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。
●電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでフロントドアハンドルに多量の水がかかるとスマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態、電子キーを携帯した状態での検知エリア内への進入と連動して、フロント室内灯（ の位置のとき）・センター室内灯（ＤＯＯＲの位置のとき）、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明が点灯・消灯します。

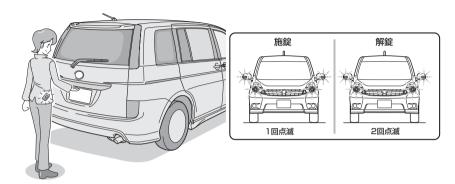
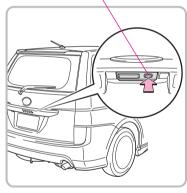
●電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア外から検知エリア内に入ると点灯し、約15秒後に消灯します。ただし、検知エリア内から検知エリア外へ出て、約3秒以内に検知エリア内にもどった場合や、検知エリア内に留まっている場合は作動しません。
●いずれかのドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにすると点灯し、約15秒後に消灯します。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。
●次のような場合は、ただちに消灯します。
- すべてのドアを閉め、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしたとき。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにして、すべてのドアを閉めたとき。
- すべてのドアを閉め施錠したとき。

バッテリーあがり防止機能

いずれかのドア（バックドアを除く）が開いた状態で、フロント室内灯（ の位置のとき）、センター室内灯（ＤＯＯＲの位置のとき）、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き自動的に消灯します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする 前に
運転をする ときに
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

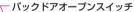
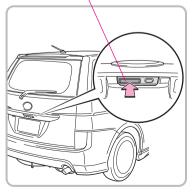
バックドアの施錠・解錠のしかた

施錠・解錠のしかた

■**施錠するときは**

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、バックドアロックスイッチを押します。

●すべてのドアの施錠ができます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

●必ず施錠作動したことを確認してください。

■**解錠するときは**

電子キーを携帯し、バックドアオープンスイッチを押します。

●すべてのドアの解錠ができます。

●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

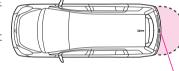
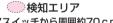
●バックドアの開閉については、➡166ページの「バックドアの開閉のしかた」を参照してください。

⚠注意 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

●車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
●ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

知識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（バックドアスイッチから周囲約70cm以内）
●ドアガラスやバックドアスイッチに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

作動条件について

●車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入り、バックドアオープンスイッチを押すと、ＩＤコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でバックドアロックスイッチを押すと、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると、施錠されます。
- 車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるとき、バックドアガラスやリヤバンパーに近づけ過ぎたときは正常に作動しない場合があります。
- 電子キーが車室外発信機（バックドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、➲146ページの「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知識

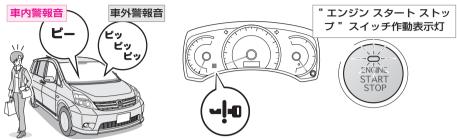
施錠・解錠について

●バックドアロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、バックドアロックスイッチを押さないでください。バックドアロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（➡140ページ参照）が鳴ります。
　●いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
　●ドアの開閉中
●急な車室外発信機（バックドア）の検知エリア内への接近や急なバックドアロックスイッチおよびバックドアオープンスイッチの操作では、施錠・解錠されない場合があります。その場合は、もう一度ゆっくりと操作してください。

節電機能

車室外発信機の検知エリア内（フロントドア、バックドア）に長時間電子キーを放置していると、電子キーと車両が定期的に通信を行うため、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。
そのため、電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止するため、次のときはスマートエントリー & スタートシステムが自動で停止します。
●14日以上、電子キーから応答がないとき
●10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

スマートエントリー & スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかの操作を行ってください。
●車両に近づいて電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押す。
●フロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押し、施錠操作をする。

警報音・警告灯

スマートエントリー & スタートシステムでは、予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などをふせぐため、警報音や警告灯または、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯の点滅で注意をうながします。
警報音が鳴ったり、メーター内のスマートエントリー & スタートシステム警告灯が点灯したときは、必ず車両および電子キーの確認を行ってください。

■シフトレバーがⓅ以外での電源切り忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外、シフトレバーがⓅ以外で、運転席ドアを開けたとき

- 車内警報音 “ピー”と連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、シフトレバーをⓅに入れてください。

■シフトレバーがⓅ以外での運転者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピー”と連続で鳴ります。
- 車外警報音 “ピー”と連続で鳴ります。
- スマートエントリー & スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、シフトレバーをⓅに入れて、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてください。

■シフトレバーがⓅでの運転者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピー”と鳴ります。
- 車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ”と鳴ります。
- スマートエントリー & スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■スマートドアロックでの電源切り忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドル、またはバックドアハンドルのロックスイッチを押して施錠しようとしたとき

- 車外警報音 “ピー”と約60秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。
警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてください。

■同乗者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、運転席ドア以外のドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピー”と鳴ります。
- 車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ”と鳴ります。
- スマートエントリー & スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、降車した同乗者が電子キーを持っていないか確認してください。

■キーリマインダ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードで、運転席ドアを開けたとき

- 車内警報音 “ピー、ピー、ピー”と連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして運転席ドアを閉めてください。

■キーエリア外警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピー”と鳴ります。
- スマートエントリー & スタートシステム警告灯 8秒間点灯します。

警報が鳴ったら、車室内の検知エリア内に電子キーがあるか確認してください。電子キーがある場合は、電子キーのバッテリー切れが考えられます。電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押して、電子キーのＬＥＤが点灯するか確認してください。点灯しない場合は、電子キーのバッテリーを交換してください。（➡464ページ参照）

■キー置き忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドル、またはバックドアハンドルのロックスイッチを押したとき

● 車外警報音 “ピー”と2秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。
警報が鳴ったら、車内にある電子キーを携帯して、もう一度ドアロック操作をしてください。

知 識

キー置き忘れ警報について

- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、グローブボックス内（P.400参照）などに置いた場合、キー置き忘れ警報が鳴らないことがあります。
- 電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近づけすぎた場合、キー置き忘れ警報が鳴ることがあります。

■キーバッテリー低下警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したとき

● 車内警報音 “ピー”と鳴ります。

警報が鳴ったら、電子キーのバッテリーを交換してください。（➲464ページ参照）

■半ドア警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いている状態で、フロントドアハンドルまたはバックドアハンドルのロックスイッチを押したとき

● 車外警報音 “ピー”と10秒間連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、すべてのドア（バックドアを含む）を閉めてから、もう一度ドアロック操作をしてください。

知 識

半ドア警報について

ドア（バックドアを含む）を開閉するときにロックスイッチに触れると、半ドア警報が作動します。ドアを開閉するときはロックスイッチに触れないでください。

■ステアリングロック未解除警報

エンジン始動操作時、ステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかったとき

- “エンジン スタート ストップ”スイッチ作動表示灯 15秒間緑色に点滅します。

ハンドルを左右に動かしながら、エンジン始動操作をしてください。

■ステアリングロック異常警報／電源異常警報

ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知したとき

- “エンジン スタート ストップ”スイッチ作動表示灯 橙色に点滅します。

すみやかに **トヨタ販売店**に連絡してください。

■警報音および警告灯・表示灯の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー & スタートシステム警告灯	状　況
ピー （連続吹鳴）	―	―	**Ⓟ以外での電源切り忘れ警報（➲138ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けた。
ピー （連続吹鳴）	ピー （連続吹鳴）	点灯	**Ⓟ以外での運転者キー持ち出し警報（➲138ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	点灯	**Ⓟでの運転者キー持ち出し警報（➲138ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
―	ピー （約60秒間吹鳴）	―	**スマートドアロックでの電源切り忘れ警報（➲139ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、ロックスイッチを押した。
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	点灯	**同乗者のキー持ち出し警報（➲139ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外のとき、同乗者が電子キーを車外に持ち出した。
ピー、ピー、ピー （断続吹鳴）	―	―	**キーリマインダ警報（➲139ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードのとき、運転席ドアを開けた。
ピー （1回吹鳴）	―	点灯 （8秒間）	**キーエリア外警報（➲139ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押したとき、車室内のＩＤコード照合で、電子キーがないと判断した。
―	ピー （2秒間吹鳴）	―	**キー置き忘れ警報（➲140ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押した。

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー & スタートシステム警告灯	状　況
ピー （1回吹鳴）	―	―	**キーバッテリー低下警報（➲140ページ参照）** 電子キーのバッテリー電圧が低下した。
―	ピー （10秒間吹鳴）	―	**半ドア警報（➲140ページ参照）** “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが半ドアの状態または、フロントドア、バックドア開閉中、ロックスイッチを押した。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ作動表示灯	状況
緑色に点滅 （15秒間）	**ステアリングロック未解除警報（➲141ページ参照）** エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかった。
橙色に点滅	**ステアリングロック異常警報／電源異常警報（➲141ページ参照）** ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知した。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

こんなときは

ここでは、様々な「こんなときは」の場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー ＆ スタートシステムを扱ううえでの参考にしてください。

警報音が鳴っているときは／警告灯が点灯しているときは

➡138ページの「警報音・警告灯」を参照して該当する指示にしたがってください。

スマートエントリー ＆ スタートシステムが作動しないときは

以下のことを確認してください。

- 電子キーが通信できない状況にある。（➡127ページ参照）
- 電子キーのバッテリー（電池）がない。
- 節電機能が働いている。（➡137ページ参照）

ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして、電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。

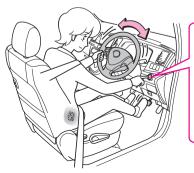
- 必ず施錠されていることを確認してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車するときは

スマートエントリー & スタートシステムでの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロックリモコン（➡182ページ参照）またはメカニカルキー（➡146ページ参照）を使って解錠してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車しているときは

スマートエントリー & スタートシステムでの施錠ができません。
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロックリモコン（➡182ページ参照）またはメカニカルキー（➡146ページ参照）を使って施錠してください。

エンジン始動操作後に作動表示灯が緑色に点滅しているときは

エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷によりステアリングロックが解除されていません。
ハンドルを軽く左右にまわしながら、エンジン始動操作をしてください。

電子キーが正常に作動しないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり、電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが使用できなくなります。

運転席ドアの施錠・解錠のしかた

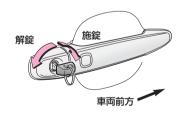
電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用して、運転席ドアを施錠・解錠します。

■メカニカルキーの取り出し方

ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを取り出します。

■メカニカルキーの格納のしかた

メカニカルキーを図のように差し込みます。

■メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

知 識

メカニカルキーについて

●メカニカルキーを使用したときは、必ず電子キーに格納しておいてください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

●メカニカルキーを使用する方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（➡ 464ページ参照）

ドア・ドアガラスなどの開閉

フロントドアの開閉

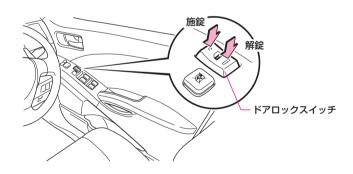
スマートエントリー＆スタートシステムでの施錠・解錠のしかた

➡130ページの「スマートエントリー＆スタートシステム」の「ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

➡146のページ「電子キーが正常に作動しないときは」の「運転席ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

スイッチの前側を押すと施錠、うしろ側を押すと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

知識

作動条件について

●“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。
●スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

便利機能について

衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、数秒後に全ドアが自動的に解除されます。
●SRSエアバッグが作動しないような弱い衝撃のときや、事故の形態によっては作動しないことがあります。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
（窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します。）
以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。
●運転席ドアにキーを差し込んでの施錠。（➲146ページ参照）
●ワイヤレスドアロックリモコンを使っての施錠。（➲182ページ参照）
●ワイヤレスドアロックリモコンによる解錠操作後のドアを開けなかったときの再施錠。（➲185ページ参照）
●スマートエントリー＆スタートシステムを使っての施錠。（➲130ページ参照）
●スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠操作後のドアを開けなかったときの再施錠。（➲132ページ参照）
●ロックレバーによる車外からの施錠。（➲151ページ参照）

知識

オートロック機能の設定変更について

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

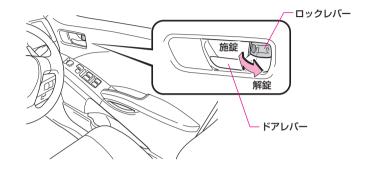
1 すべてのドアを閉め " エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッションONモードにする。(その後10秒以内に手順2を行う)

2 シフトレバーをⓅまたはⓃに入れ、運転席ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を約5秒間押して離す。

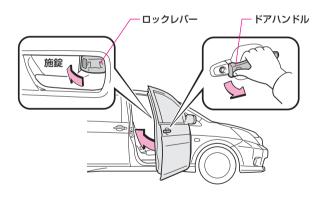
設定または解除を行う機能によってシフトレバーとドアロックスイッチの位置を以下の表から選択します。

機能	作動内容	変更方法	
		シフトレバーの位置	ドアロックスイッチ
シフト連動 オートロック	エンジン回転中にシフトレバーをⓅから動かすと全ドアが施錠されます。	Ⓟの位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。
シフト連動 オートアンロック	シフトレバーをⓅに入れると全ドアが解錠されます。		スイッチの解錠側を約5秒押して離す。
車速感応 オートドアロック	車速が約20km/h以上になると全ドアが施錠されます。	Ⓝの位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。
運転席ドア連動 オートアンロック	" エンジン スタート ストップ " スイッチをOFFにしてから10秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。		スイッチの解錠側を約5秒押して離す。

設定または解錠の切り替え操作が完了すると、全ドアが施錠されたあと、解錠されます。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠のしかた

ロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

知 識

便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

ワイヤレスドアロックのリモコンでの施錠・解錠のしかた

➡182ページの「ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方」を参照してください。

⚠警告　走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中は、ドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまにドアの操作をさせないでください。

- 閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知 識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ワイヤレスドアロック・スマートエントリー＆スタートシステムを使っての解錠、およびドアの開閉と連動して、以下の場合にフロント室内灯（ の位置のとき）・センター室内灯（ＤＯＯＲの位置のとき）・“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が点灯・消灯します。

- ●いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを閉めたあと約15秒経過すると消灯します。
- ●ワイヤレスドアロック・“エンジン スタート ストップ”スイッチでドアロックを解錠すると約15秒間点灯したあと、消灯します。
- ●次のような場合は、点灯中でもただちに消灯します。
  - •すべてのドアを閉めて、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたとき。
  - •すべてのドアを閉めて、運転席のドアを施錠したとき。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

- ●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- ●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- ●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

- ●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

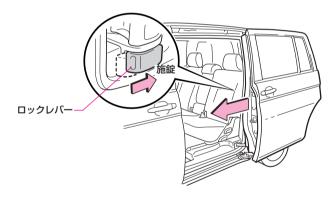
車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内の物を盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

スライドドアの開閉

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押すと施錠、後方に引くと解錠されます。

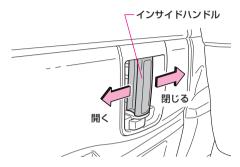
■車外からの施錠

ロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

知 識

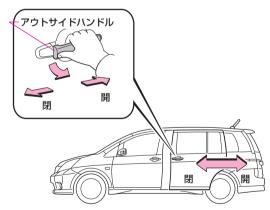
施錠・解錠について

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチや運転席ドアにあるキーシリンダー、ドアロックスイッチ、スマートエントリー&スタートシステムにより、全ドアの施錠・解錠を行うことができます。➲130ページの「ドアの施錠・解錠のしかた」、➲148ページの「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、➲146ページの「メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた」➲182ページの「ワイヤレスドアロックリモコン機能でのドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

開閉のしかた

■車内からの開閉

インサイドハンドルを、スライドドアを動かしたい方向に操作します。

- ●ロックレバーが施錠側のときは（➡154ページ参照）スライドドアは開けられません。
- ●チャイルドプロテクターレバーが施錠側のときは（➡165ページ参照）スライドドアは開けられません。

■車外からの開閉

開けるときは、アウトサイドハンドルを引いてスライドドアを車両後方に操作します。
閉めるときは、アウトサイドハンドルを引いてストッパーを解除させてから、スライドドアを車両前方に操作します。

- ●ロックレバーが施錠側のときは（➡154ページ参照）スライドドアは開けられません。

走行中は以下のことをお守りください。

●走行中は次のことをお守りください。お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 全てのドアを確実に閉めてください。
- 全てのドアを施錠してください。
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにしてください。
- シートベルトを必ず着用してください。
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。

●お子さまを乗せているときは次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

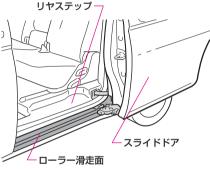
●スライドドアの操作にあたっては、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・腕・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアに当たったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂で乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

注意 スライドドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないよう注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

知識

安全機能について

中間ストッパー
●フューエルリッド（燃料補給口）が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します。）
●中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、フューエルリッドを閉じてから再度ドアを開けてください。

スライドドアイージークローザー★

スライドドアを半ドアの位置まで閉じると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。
イージークローザーは“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく作動します。

警告

スライドドアイージークローザー装着車では、半ドア状態のときイージークローザーが働きスライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

- イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

注意

イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

- イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はスライドドアに無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

知 識

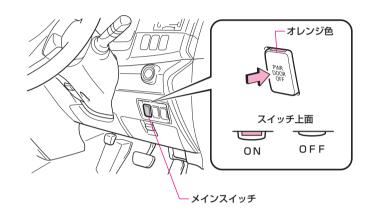
スライドドアイージークローザーについて

スライドドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく作動します。

- イージークローザーの作動中でもインサイドハンドル、アウトサイドハンドル（➡155ページ参照）を引くことによりドアを開けることができます。（ロックレバー、またはチャイルドプロテクターが施錠側のときは除く。）
- スライドドアハンドルを引いたままドアを閉めるとイージークローザーは作動しないことがあります。
- イージークローザーを使わずに手動でドアを全閉にすることもできます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

パワースライドドアの自動開閉のしかた

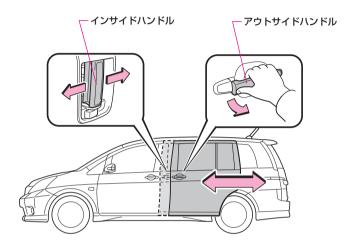
■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワースライドドアを自動で開閉させることはできません。

知識

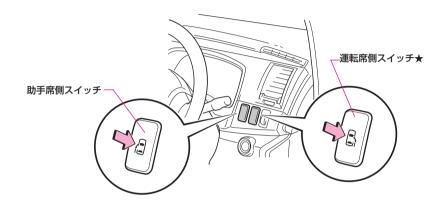
メインスイッチについて

メインスイッチをＯＦＦにすると、同時にパワーバックドアも自動で開閉できなくなります。イージークローザー装着車の場合、メインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。（➡158ページ参照）

■スライドドアハンドルでの自動開閉

パワースライドドアが全閉状態のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで開けると、自動で全開します。また、パワースライドドアが全開状態のときハンドルを引くと、ブザーが鳴り自動で全閉します。閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。

●全開（全閉）作動中に再度ハンドルを操作すると、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度ハンドルを操作しても全閉（全開）作動に切り替わりません。

●チャイルドプロテクターレバーが施錠状態（➡165ページ参照）になっていると、インサイドハンドルによる開操作はできません。

■パワースライドドアスイッチでの自動開閉

パワースライドドアが全閉（全開）状態のとき、パワースライドドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

- ●助手席側パワースライドドアを自動開閉するときは、助手席側スイッチを押します。
- ●運転席側パワースライドドアを自動開閉するときは、運転席側スイッチを押します。（運転席側パワースライドドア装着者）
- ●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。（閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。）
- ●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切り替わります。

■パワースライドドアリモコンスイッチでの自動開閉

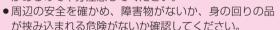
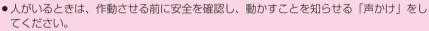
操作方法については、➡183ページの「パワースライドドアの開閉のしかた」を参照してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

パワースライドドア装着車では、次のことをお守りください。お守りいただかないと、スライドドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチをOFFにすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動作動に切り替わる場合があります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切り替わることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。

●挟み込み防止機能作動中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意 パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

<助手席側パワースライドドア>

<運転席側パワースライドドア装着車>

知識

パワースライドドアの作動について

（“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。）

●メインスイッチがＯＮで、次の作動可能条件をすべて満たしているときに自動で開閉できます。

〈作動可能条件〉

- パワースライドドアが解錠されているとき
- フューエルリッドが閉まっているとき（助手席側パワースライドドアのみ）
- 車速が約3km/h未満のとき
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのときは、上記に加え、次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。
  - ・シフトレバーがⓅのとき
  - ・パーキングブレーキがかかっているとき
  - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワースライドドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異状を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約2cm手前の範囲で異状を感知すると、その位置で作動を停止します。

●連続して2回目以上同方向への異状を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチをＯＦＦにしたのち、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

知識

安全機能について

挟み込み防止機構
パワースライドドアの前端部には、センサーがついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

<助手席側パワースライドドア>

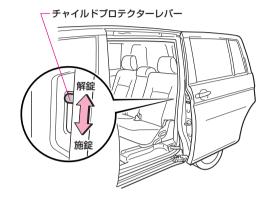
<運転席側パワースライドドア装着車>

給油口開警告ブザー
- ●フューエルリッド（燃料補給口）が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとするとブザーが鳴り、開いていることを知らせると同時に、作動を中止します。
- ●助手席側パワースライドドアの自動開閉中にフューエルリッド（燃料補給口）を開けると、ブザーが鳴り、作動を停止し、手動作動に切り替えます。

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などでバッテリーとの接続が断たれたときは、パワースライドドアの初期設定をしてください。
パワースライドドアの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。(ただし、スライドドア全閉の状態でバッテリーとの切断が断たれたときは、初期設定をする必要はありません。)
- ●パワースライド機構
- ●挟み込み防止機構

■初期設定のしかた
〈設定手順〉
スライドドアのアウトサイドハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。(➡155ページ参照)

チャイルドプロテクターの使い方

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のインサイドハンドルでスライドドアを開けることができなくなります。

知 識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のインサイドハンドル操作ではスライドドアが開かないように施錠できます。

バックドアの開閉

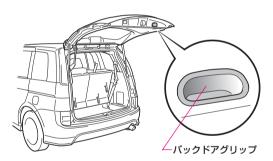
開閉のしかた

■開け方

バックドアスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げます。

●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。

●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

バックドアグリップを持ってバックドアをおろし、バックドア下端を押さえつけロックします。

警告　走行中はバックドアを閉めてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行中はバックドアを閉めてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを乗せているときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●バックドアの操作にあたっては、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

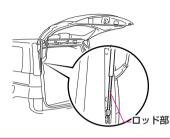
走行中はバックドアを閉めてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

● バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

● バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
● バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
● バックドアにキャリアなどの重いものを取りつけると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取りつけは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする
前に
運転をする
ときに
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

注意 **バックドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させないでください。
●ロッド部を軍手などで触れないでください。
●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけないでください。
●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。

施錠・解錠について

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチや運転席ドアにあるキーシリンダー、ドアロックスイッチ、スマートエントリー ＆ スタートシステムにより、全ドアの施錠・解錠を行うことができます。➡130ページの「ドアの施錠・解錠のしかた」、➡148ページの「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、➡146ページの「メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた」、➡182ページの「ワイヤレスドアロックリモコン機能でのドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

便利機能について

ラゲージルームランプ（➡397ページ参照）

ラゲージルームランプのスイッチがＯＮのとき、バックドアを開けるとラゲージルームランプが点灯します。夜間などの荷物確認に便利です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

バックドアイージークローザー★

バックドアイージークローザー装着車は、バックドアを半ドアの位置まで閉めるとイージークローザーが働き、自動的に全閉になります。イージークローザーは“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく作動します。

バックドアイージークローザー装着車では、半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

注意

バックドアイージークローザー装着車では、イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。

●バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

知識

バックドアイージークローザーについて

バックドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく作動します。

●パワーバックドアのメインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。

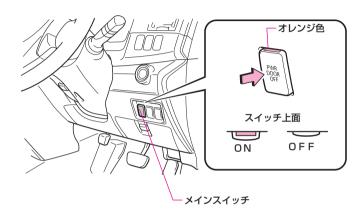
●イージークローザーの作動中でも、バックドアスイッチ（➡166ページ参照）を押すことによりバックドアを開けることができます。

●バックドアスイッチを押したままドアを閉めるとイージークローザーは作動しないことがあります。

●イージークローザーを使わずに手動でバックドアを全閉にすることもできます。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする
前に
運転をする
ときに
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

パワーバックドアの自動開閉のしかた★

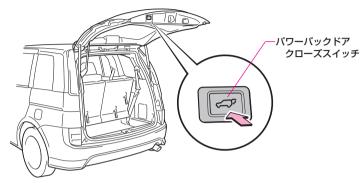
■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアを自動で開閉させることはできません。

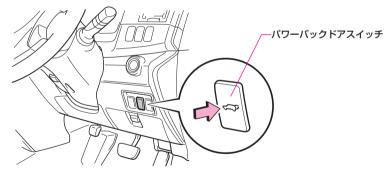
知識

メインスイッチについて

メインスイッチをＯＦＦにすると、同時にパワースライドドアも自動で開閉できなくなります。メインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。（➡前ページ参照）

■パワーバックドアクローズスイッチによる自動閉作動

バックドアが全開状態のときパワーバックドアクローズスイッチを押すと、バックドアが自動で閉まります。

●閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●閉作動中に再度スイッチを押すと、全開方向に反転作動します。

■パワーバックドアスイッチによる自動開閉

バックドアが全閉（全開）状態のときパワーバックドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●開閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

■パワーバックドアリモコンスイッチでの自動開閉

操作方法については、➡184ページの「ワイヤレスドアロック機能でのパワーバックドアの開閉のしかた」を参照してください。

目次

警告

基本操作 早わかり

運転をする前に

運転をするときに

室内装備の取り扱い

安全・快適装備の解説と注意

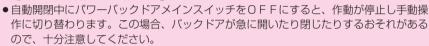
車との上手な付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

警告 次のことをお守りください。お守りいただかないと、バックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

- 自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチをＯＦＦにすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが落ちる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切り替わることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
  ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  ・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにキャリアなどの重いものを取りつけると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取りつけは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、誤ってスイッチに触れたときにバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意 **パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。**

●パワーバックドアの故障を防ぐために、以下のことを必ずお守りください。
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼りつきがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（➡177ページ参照）を刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

知 識

パワーバックドアの作動について

（“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。）

●メインスイッチがONで、次の作動可能条件をすべて満たしているときに自動で開閉できます。

〈作動可能条件〉
- パワーバックドアが解錠されているとき
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき開作動するには、上記に加え、シフトレバーがⓅとなっていることが必要です。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアの自動開閉中に、バックドアスイッチを押すと、手動作動に切り替わります。

●パワーバックドアの自動開閉中に、人や異物などにより異状を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

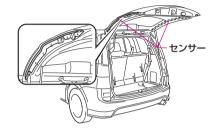
●連続して2回目以上の閉方向の異状を感知すると、ブザーが鳴り手動作動に切り替わります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

安全機能について

挟み込み防止機構

パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。
ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などでバッテリーとの接続が断たれたときは、パワーバックドアの初期設定をしてください。
パワーバックドアの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。(ただし、パワーバックドア全閉の状態でバッテリーとの切断が断たれたときは、初期設定をする必要はありません。)

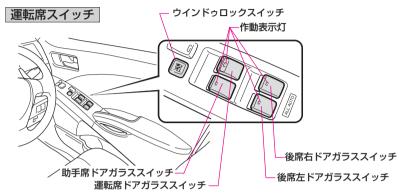
- パワーバックドア機構
- 挟み込み防止機構

■初期設定のしかた

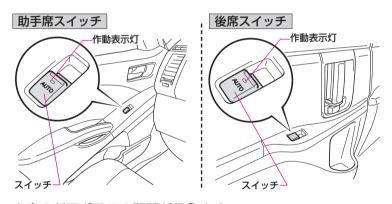
〈設定手順〉

バックドアを手動で一度全閉にします。

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

運転席スイッチ

運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉が行えます。

助手席スイッチ　後席スイッチ

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉のしかた

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

知識

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。ただし、助手席・後席スイッチはウインドゥロックスイッチ（➡180ページ参照）がＯＮになっているときは開閉しません。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

●各スイッチの作動表示灯が点滅しているときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。

安全機能について

挟み込み防止機構

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

パワーウインドゥを閉めることができないときは

挟み込み防止機構が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドゥスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードの状態で、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機構の初期化を次の手順で実施してください。

1. **パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続けます**
2. **パワーウインドゥスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間押し続けます**
3. **再度、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続けます**

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

ドアガラスは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

●キーＯＦＦ後作動が機能している間は、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。

●パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
- 運転席スイッチでの助手席、後席ドアガラスの開閉
- ドアガラスの自動開閉
- 挟み込み防止機構
- キーＯＦＦ後作動機能

●パワーウインドゥの初期設定がされていないドアガラスは、スイッチの作動表示灯が点滅します。

■初期設定のしかた

パワーウインドゥの初期設定は、各ドアガラスごとに、各席スイッチで行います。
運転席スイッチで助手席、後席ドアガラスのパワーウインドゥの初期設定をすることはできません。

〈設定手順〉

1 **“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにします。**

2 **スイッチを下に押し続け、半分くらいまでドアガラスを開けます。**

3 **スイッチを上に引き続け、ドアガラスを全閉します。**

全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けてください。

パワーウインドゥの初期設定が完了すると、スイッチの作動表示灯が点滅から点灯にかわります。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは開閉しません。

●スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラススイッチ以外のドアガラススイッチの作動表示灯が消灯します。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

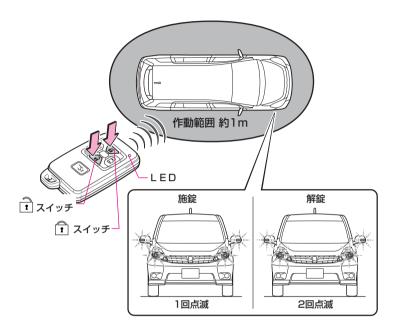
走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

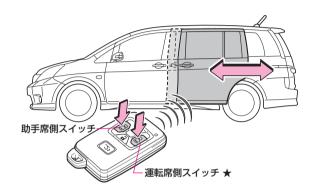
●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。
●ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方

ドアの施錠・解錠のしかた

- スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
- スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。
- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅します。
  解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅します。
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- スイッチを押すとＬＥＤが点灯します。
- スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

パワースライドドアの開閉のしかた

スライドドアが全閉（全開）状態のときパワースライドドアリモコンスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●助手席側スライドドアを開閉させるときは、リモコンスイッチの 側（助手席側スイッチ）を押してください。

●運転席側スライドドアを開閉させるときは、リモコンスイッチの 側（運転席側スイッチ）を押してください。

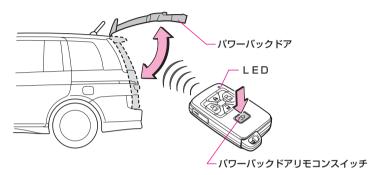
●閉作動開始時にブザーが鳴ります。

●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。

●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

パワーバックドアの開閉のしかた

パワーバックドアが全閉（全開）状態のときパワーバックドアリモコンスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。
●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●開閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●スイッチを押すとＬＥＤが点灯します。

注意　**電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。**

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。
●磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
●テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。

作動条件について

●バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からリモコンの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
- 金属を含有するウインドゥフィルム。
- その他の金属物。(トヨタ純正品以外のアンテナなど)

●リモコンスイッチは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外では作動しません。
●スイッチは、いずれかのドア(バックドアを含む)が開いているときは作動しません。
●スイッチ・スイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。(非常点滅灯が1回点滅します。)
●パワーバックドアリモコンスイッチは、運転席にあるメインスイッチがＯＦＦになっているときは作動しません。
●パワーバックドアリモコンスイッチを押して、うまく開閉作動されなかったとき、スイッチを約1秒以上押し続けても開閉操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●パワーバックドアが施錠しているときは、パワーバックドアリモコンスイッチは作動しません。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム(➡153ページ参照)
リモコンによる施錠・解錠などと連動して、フロント室内灯(の位置のとき)・センター室内灯(ＤＯＯＲの位置のとき)、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明が点灯・消灯します。

電池交換について

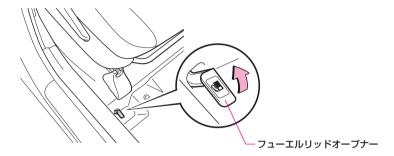
リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
電池の交換は市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます。➡.464ページの「キーの電池交換」を参照してください。(**トヨタ販売店**でも交換できます。)

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

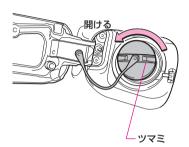
紛失について

リモコンを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

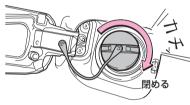
運転席側右下にあるフューエルリッドオープナー（　）を引くと開きます。閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルリッドオープナーを足で踏まないでください。

オープナーが破損して、フューエルリッドが開かなくおそれがあります。

フューエルキャップの開閉

■開けるときは

キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。

■閉めるときは

キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。
  気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
  フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
  その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。（再帯電することがあります。）
- 給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

注意 指定以外の燃料を使用しないでください。

- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
- 給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
- 車両助手席側のスライドドアが、全開またはフューエルリッド近くまで開いているときは、フューエルリッドを開けないでください。フューエルリッドがスライドドアに当たり傷や汚れがつく原因となるおそれがあります。

知 識

フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は助手席側車両後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約60Ｌです。

安全機能について

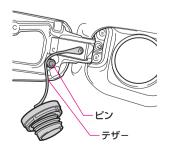
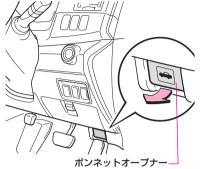
給油口開警告ブザー

- フューエルリッド（燃料補給口）が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとするとブザーが鳴り、開いていることを知らせると同時に、作動を中止します。
- 助手席側パワースライドドアの自動開閉中にフューエルリッド（燃料補給口）を開けると、ブザーが鳴り、作動を停止し、手動作動に切り替えます。

フューエルキャップテザーについて

燃料給油時に、テザーをフューエルリッドの裏面にあるピンにかけておきます。

ボンネットの開閉

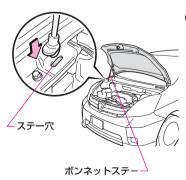
開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席側インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

ボンネットフック

レバー

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。

3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 ボンネットステーをはずします。

ボンネットステーをはずし固定します。

2 ボンネットを閉めます。

ボンネットを約20～25cmの位置から静かに落として閉めます。

3 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

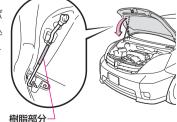
走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

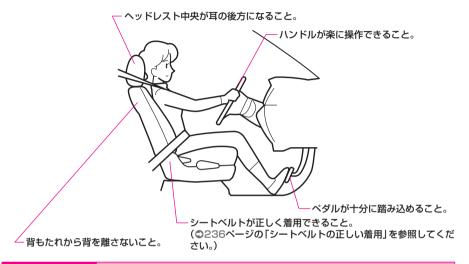
注意

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

- ●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ●長時間走行したあとにボンネットを開けるときは、ボンネットステーの樹脂部分を持ってステー穴に差し込んでください。樹脂部分以外を持つと、ステーが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるように、次の事項に注意してシートを調整します。

⚠警告　走行中は運転席シートの調整をしないでください。

- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
- 背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。また、シートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告　助手席シートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。

●この車専用のトヨタ純正用品以外のものを取りつけると、助手席シートベルトの正常な作動のさまたげとなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。
- フロントシート表皮の張り替えやフロントシートの取りつけ・取りはずし・修理が必要なときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。また、フロントシートの改造などはしないでください。
- フロントシート側面などＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど過度の力を加えないでください。

注意　シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意して行ってください。

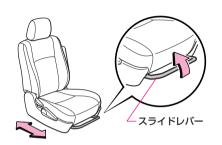
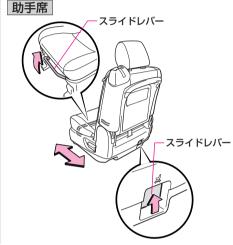
●シートレールの上にマットなどを敷かないでください。
シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷させるおそれがあります。

フロントシートの調整

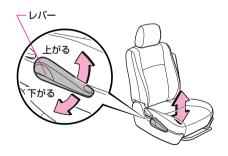
シート調整のしかた

■前後位置調整

運転席

助手席

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。
調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。
●助手席は、2カ所あるレバーのどちらでも操作できます。

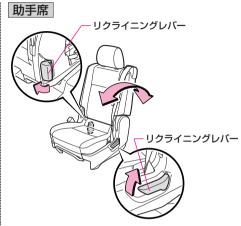
■上下調整

運転席

シートを上げるときは上に、下げるときは下にレバーを動かして調整します。
●レバーを動かすごとに、シート全体の高さがかわります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■リクライニング調整

運転席

助手席

リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。
調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。
●助手席は、2カ所あるレバーのどちらでも操作できます。

警告 **走行中はシートの前後位置調整をしないでください。**

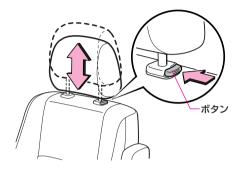
走行中は前後位置調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、操作してください。**

背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

知 識

リクライニング調整について

助手席は、リクライニングレバーの操作だけでは、背もたれの調整ができないことがあります。その場合、背もたれを手で持ちながら操作してください。

ヘッドレストの調整のしかた

■上下調整

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告　ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●フロントシートのヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。他のヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

知識

便利機能について

アームレスト★

角度調整式

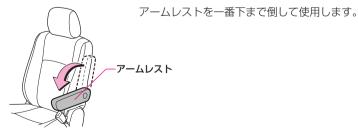
1 アームレストを一度、一番下から約60°以上持ち上げ（❶）、そのあと一番下まで下げます（❷）。

（アームレストの位置が一番下から約60°以上あるときは、そのまま下げます。）

2 一番下から約60°までのあいだで、アームレストをお好みの位置まで上げると、その位置で固定されます。

- ●アームレストが固定されると、その位置から下に直接下げることができません。
- ●アームレストを下げるときは、*1*の手順で一番下まで下げます。

角度調整式を除く

アームレストを一番下まで倒して使用します。

セカンドシートの調整

シート調整のしかた

■前後位置調整

スライドレバー（下側）を引いたまま、シートを前後に動かして調整します。
調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■リクライニング調整

リクライニングレバー（上側）を引きながら、背もたれを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

知 識

リクライニング調整について

セカンドシートは、リクライニングレバーの操作だけでは、背もたれの調整ができないことがあります。その場合、背もたれを手で持ちながら操作してください。

警告 走行中はシートの前後位置調整をしないでください。

走行中は前後位置調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

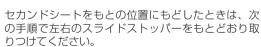
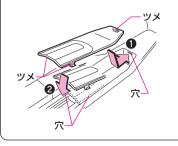
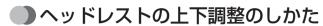
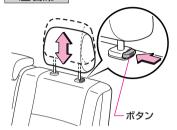
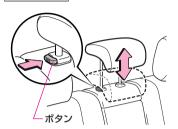
注意 背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、操作してください。

- 背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
- シートを調整するときは、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。けがをするおそれがあります。

知識

前後位置の調整範囲を拡大するときは（スライドストッパーについて）

セカンドシートの左右シートレール後方にスライドストッパーが取りつけられています。
セカンドシートを後方いっぱいまで移動させるときは、下記の手順で取りはずしてからセカンドシートを移動させてください。

1. **セカンドシートを前方に移動させます。**
   スライドレバーを引いてセカンドシートを前方に移動させます。
2. **スライドストッパーを取りはずします。**
   スライドストッパーの先端を持ち上げて、取りはずします。
3. **セカンドシートを後方に移動させます。**
   スライドレバーを引いてセカンドシートを後方いっぱいまで移動させます。

セカンドシートをもとの位置にもどしたときは、次の手順で左右のスライドストッパーをもとどおり取りつけてください。
❶スライドストッパー後端のツメをレールカバーの穴に差し込みます。
❷スライドストッパー先端のツメ（2カ所）をレールの穴に差し込みます。

ヘッドレストの上下調整のしかた

左右席

中央席

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告　**ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。**

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●セカンドシートのヘッドレストはセカンドシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。他のヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

知識

便利機能について

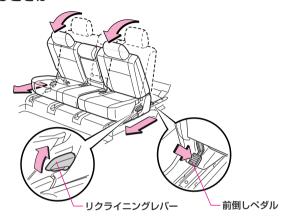
アームレスト★

手前に倒すと、アームレストとして使用できます。

ヘッドレストについて

中央席のヘッドレストの上下調整は、引き上げたときと押し下げたときの2段階のみになります。

サードシートへの乗りおり

■乗りおりするときは

リクライニングレバーを引き上げるか、またはシートうしろ側の前倒しペダルを踏み込むと、背もたれが自動的に前に倒れます。
●前に倒れた背もたれを押しながら、シート全体を前方に移動させます。

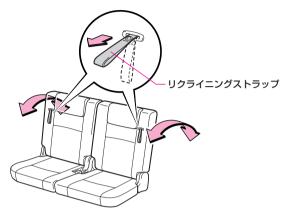
■乗りおりしたあとは

背もたれを“カチッ”という音がするまで起こし、前後位置を調整します。
●調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

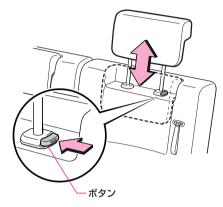
警告　サードシートへ乗りおりしたあとは、必ずセカンドシートを固定してください。

サードシートへ乗りおりしたあとは、必ずセカンドシートを固定してください。固定していないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、乗員に当たるなどして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　サードシートに乗るときは、スライドストッパーを必ず取りつけてください。

サードシートに乗るときは、スライドストッパーを必ず取りつけてください。（➡199ページ参照）取りつけないと、サードシートの乗員がシートレールに手や足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。

リクライニング調整のしかた

リクライニングストラップを手前に引きながら、背もたれを前後に動かし、背もたれを止めたいところでストラップをはなします。
調整後、背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

ヘッドレストの上下調整のしかた

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、固定ボタンを押したまま引き抜きます。

警告 ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●サードシートのヘッドレストはサードシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。他のヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

 知 識

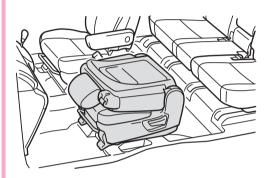
ヘッドレストについて

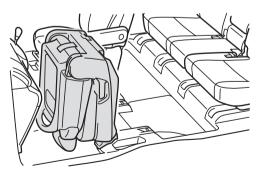
ヘッドレストの上下調整は、引き上げたときと押し下げたときの2段階のみになります。

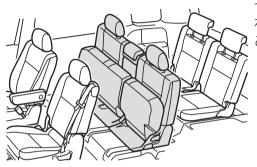
シートアレンジ

各列シートのアレンジ

各列シートのアレンジは、それぞれの説明ページをよくお読みになってから行ってください。

シートバックテーブルのつくり方……………………210ページ

助手席シートの背もたれを前に倒して、テーブルにすることができます。

助手席シートのタンブルのしかた……………………212ページ

助手席シート全体を前倒し（タンブル）させることができます。

セカンドシートのチップアップのしかた…………➡216ページ

セカンドシートのクッションをチップアップ（はね上げる）ことができます。

サードシートの格納のしかた…………………………➡218ページ

サードシートを格納することができます。

シートアレンジをするまえに

車両を安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかけます。

シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートアレンジをしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。また、シートクッションをもとにもどしたときは、シートクッション後部を持ち上げ、確実に固定されていることを確認してください。
固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

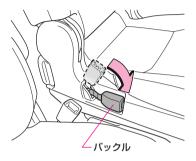
●シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。
シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **シートを操作するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。**

- ●シートを操作するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- ●シートを操作しているときは、シートの下やロック機構部分、動いている部分の近くに手や足を近づけないでください。指や手、足を挟みけがをするおそれがあります。

シートバックテーブルのつくり方

テーブルにするときは

助手席

1 **助手席シートのシートベルトのバックルを収納します。**

2 **助手席シートのリクライニングレバーを引いて、背もたれを前に倒しロックさせます。**

●背もたれのハンドル部を持ちながら、リクライニングレバーを引きます。
●2カ所あるレバーのどちらからも操作できます。
●助手席シートの前後位置が前の方にあるとき、インストルメントパネルにぶつかることがあります。
その場合、前後位置をうしろの方に調整してください。
(➡194ページ参照)

3 **助手席シートの背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。**

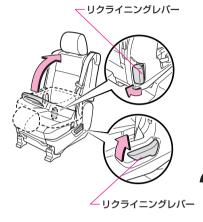
知 識

シートバックテーブルについて

駐車中に助手席シートの背もたれを倒すことにより、テーブルとして使用することができます。

シートベルトのバックルについて

シートベルトのバックルを起こしたまま、背もたれを前倒しすると、シートにバックルのあとが残ることがあります。

もとにもどすときは

1 **助手席シートのリクライニングレバーを引きながら、ハンドル部を持って背もたれをもどします。**

●2カ所あるレバーのどちらからも操作できます。

2 **助手席シートの背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。**

警告 **テーブル状態にしたまま走行しないでください。**

ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **シートバックテーブルの上には絶対に乗らないでください。**

シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。

助手席シートのタンブルのしかた

タンブルするときは

1 **助手席シートのシートベルトのバックルを収納します。**

2 **助手席シートの背もたれが前に倒れているとき（テーブル状態のとき）は、いったん背もたれを起こします。**

リクライニングレバーを引いて、背もたれを起こします。

●2カ所あるレバーのどちらからも操作できます。

3 **助手席シートのヘッドレストを一番下にします。(****➡196ページ参照****)**

4 **助手席シートの前後位置を一番うしろ側にします。**

スライドレバーを引いて、シートを動かします。

●2カ所あるレバーのどちらからも操作できます。

5 **助手席シートを次の手順で引き起こします。**

背もたれのハンドル部を持ち、リクライニングレバーを引いたまま背もたれを前に倒しながら、シート全体を引き起こします。

●2カ所あるレバーのどちらからも操作できます。

6 **助手席シートをさらに前側へ“カチッ”と音がするまで、引き起こしてロックします。**

7 **助手席シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。**

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

もとにもどすときは

1 **助手席シートのロックを解除します。**
ロック解除ベルトを引くと、ロックが解除されます。

2 **助手席シートのシートクッションを後方に倒して確実にロックさせます。**
●安全のため、途中で一度止まる構造になっています。一度止まった位置からシートクッション後端を軽く下に押すとロックできます。

3 **助手席シートの背もたれをもどします。**
リクライニングレバーを引いて、背もたれを起こします。
●2カ所あるレバーのどちらからも操作できます。

4 **助手席シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、確実に固定されていることを確認します。**

警告　タンブルしたシートの上に手荷物などをのせて走行する場合は、次のことに注意してください。

●運転操作や運転の際の視界の妨げにならないように手荷物などをのせて、確実に固定してください。固定していないと手荷物が移動し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タンブルさせたシートの上に手荷物などをのせて走行する場合は、手荷物より後部の座席に座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに手荷物が移動し、後部座席の乗員が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●タンブルさせたシートをもどしたときは、シートを軽くゆさぶりシート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。確実に固定されていないと走行中にシートが動き、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　助手席シートを引き起こすときは、背もたれを前に倒し確実にロックさせてからシート全体を引き起こしてください。

●助手席シートを引き起こすときは、背もたれを前に倒して確実にロックさせてからシート全体を引き起こしてください。背もたれがインストルメントパネルに当たり、傷がつくおそれがあります。

●グローブボックスを開けた状態では助手席シートを引き起こさないでください。グローブボックスが破損したり、傷がつくおそれがあります。
●シートクッションをもどすときは、シートクッションと床面の間に手や足などを挟まないように注意してください。けがをするおそれがあります。
●シートクッションをもどすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。物がある状態でシートクッションをもどすと、シートや物が破損するおそれがあります。
●シートクッションをもどすときは、勢いよく後方に倒さないでください。手や足などを挟んだり、シートを破損するおそれがあります。

知識

シートベルトのバックルについて

バックルを収納せずに背もたれを前倒しすると、シートにバックルのあとが残ることがあります。

セカンドシートのチップアップのしかた

チップアップするときは

1 **シートクッションを持ち上げます。**

●節度により、シートクッションが保持されます。

リクライニング
レバー

2 **リクライニングレバーを引いて、はね上げたクッションに背もたれが当たる位置で固定します。**

3 **スライドレバーを引いて、シートの前後位置を調整し、固定します。**

●シート全体を軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

もとにもどすときは

1 シートクッションを押し下げます。

2 スライドレバーを引いて、シートの前後位置を調整し、固定します。

●シート全体を軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

3 リクライニングレバーを引いて、背もたれの位置を調整します。

●背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

警告　収納スペースに人を乗せたまま走行しないでください。

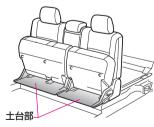
収納スペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　シートを移動させるときは、シートの下やスライド部に手や足を入れないでください。

●シートを移動させるときは、シートの下やスライド部に手や足を入れないでください。シートに挟まれてけがをするおそれがあります。

●シートクッションを起こしたときは、シートクッションの土台部分に乗らないでください。土台部分が損傷するおそれがあります。

●シートクッションを固定するときは、シートクッションの土台部とシートクッションの間に手や足を入れないでください。シートに挟まれてけがをするおそれがあります。

●チップアップさせたシートを前方いっぱいに移動させた状態で、土台部に乗ったり重いものを載せないでください。土台部が変形するおそれがあります。

サードシートの格納のしかた

格納するときは

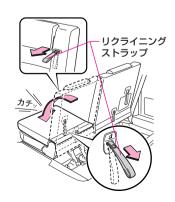
※グレード等により助手席側ベルトハンガーの取りつけ位置が異なります。

1 シートベルトをベルトハンガーにかけます。

2 シートベルトのバックルを収納します。

3 ヘッドレストが上がっている場合は、一番下まで押し下げます。
(➡205ページ参照)

4 リクライニングストラップを引いて、背もたれを前に倒します。

●2カ所あるストラップのどちらからも操作できます。

5 **シートクッションを後方へ引き上げます。**

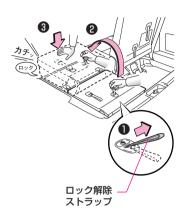
❶ロック解除ストラップを引いて、ロックを解除します。

- ●ロックが解除されないときは、リクライニングストラップを引いて背もたれを一度起こし、再度前に倒してからロック解除ストラップを引いてください。

❷ロック解除ストラップを持ち、シート全体を後方へ引き上げます。

6 **シートを “カチッ” と音がするまで押し下げて固定します。**

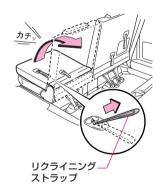
- ●シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します

もとにもどすときは

1 **シートクッションを前方に引き上げます。**

❶ロック解除ストラップを引いて、ロックを解除します。

❷ロック解除ストラップを持ち、シート全体を前方へ引き上げます。

❸“カチッ”と音がするまで背もたれを下に押して固定します。

●シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

2 **リクライニングストラップを引いて、背もたれを起こします**

●背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

警告　シートを格納したあとで、背もたれを起こして座らないでください。

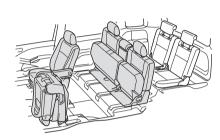
シートを格納したあとで、背もたれを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　シートを格納、またはもとにもどすときは以下の点に注意してください。

●シートを格納するときは、格納部に何も無いことを確認してください。格納部にものを置いたまま格納しようとすると、シートが損傷するおそれがあります。
●リクライニングストラップやロック解除ストラップを強く引っ張りすぎないでください。故障の原因となります。
●シートを格納したあと、またはもとにもどしたときはシートが確実にロックされていることを確認してください。
●シートを格納したあとで、背もたれを起こして座らないでください。格納したまま背もたれを起こして座ると、シートが損傷するおそれがあります。

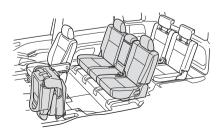
インデックス

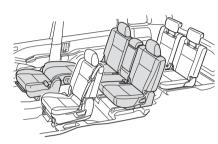
各列のシート調整（➡194～205ページ参照）とシートアレンジ（➡206～235ページ参照）を組み合わせることで、車内空間をフレキシブルにアレンジすることができます。

センターラゲージスペースのつくり方 ……………………………➡224ページ

助手席シートをタンブルして、チップアップさせたセカンドシートを後方いっぱいまで移動させると、車両中央部にラゲージスペースをつくることができます。

リヤラゲージスペースのつくり方 …………………………………➡226ページ

チップアップさせたセカンドシートを前方いっぱいまで移動させ、サードシートを格納すると、車両後部に広いラゲージスペースをつくることができます。

フリースペースのつくり方 ………………………………………➡228ページ

助手席シートをタンブルして、セカンドシート（助手席側）を後方いっぱいまで移動させると、助手席側セカンドシートの足下に広いスペースをつくることができます。

フラットシート（運転席）のつくり方 ………………➡230ページ

運転席の背もたれをフルリクライニングして、セカンドシート（運転席側）を後方いっぱいまで移動させると、平らな空間をつくることができます。

フラットシート（セカンドシートとサードシート）のつくり方 …➡232ページ

セカンドシートとサードシートの背もたれをそれぞれフルリクライニングさせることで、平らな空間をつくることができます。

長尺物収納スペースのつくり方 ………………………………➡234ページ

シートバックテーブル、セカンドシートとサードシートをフルリクライニングさせると、ベッドとしてくつろげるスペース、また長尺物を積むことができるスペースをつくることができます。

センターラゲージスペースのつくり方

センターラゲージスペースにするときは

助手席シートをタンブルして、チップアップさせたセカンドシートを後方いっぱいまで移動させると、車両中央部にラゲージスペースをつくることができます。

1 セカンドシートのシートクッションをはね上げます。
(➲216ページ参照)

2 セカンドシートのリクライニングレバーを引いて、はね上げたクッションに当たる位置で背もたれを固定します。
(➲216ページ参照)

3 セカンドシートのスライドストッパーを取りはずします。
(➲199ページ参照)

4 セカンドシートのスライドレバーを引いて、セカンドシートを後方いっぱいまで移動させます。
(➲216ページ参照)

5 助手席シートをタンブルさせます。
(➲212ページ参照)

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

警告　ラゲージスペースについては、次のことをお守りください。

のせた手荷物等は確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに荷物が移動して、乗員が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　シートに人が乗っている状態で、ラゲージスペースの操作をしないでください。

●シートに人が乗っている状態でラゲージスペースの操作をしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

●助手席シートをタンブルさせたときは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されているか確認してください。固定されていないとシートが後方に倒れたときなどにセカンドシートの乗員が足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。

●セカンドシートを後方に移動させるときにスライドストッパーを取りはずした場合、シート位置をもとにもどしたら、取りはずしたスライドストッパーを必ずもとどおり取りつけてください。取りつけないと、サードシートの乗員などがシートレールに手や足などを挟むなどしてけがをするおそれがあります。

リヤラゲージスペースのつくり方

リヤラゲージスペースにするときは

チップアップさせたセカンドシートを前方いっぱいまで移動させ、サードシートを格納すると、車両後部に広いラゲージスペースをつくることができます。

1 セカンドシートのシートクッションをはね上げます。
(➲216ページ参照)

2 セカンドシートのリクライニングレバーを引いて、はね上げたクッションに当たる位置で背もたれを固定します。
(➲216ページ参照)

3 セカンドシートのスライドレバーを引いて、セカンドシートを前方いっぱいまで移動させます。
(➲216ページ参照)

4 サードシートを格納します。
(➲218ページ参照)

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

ラゲージスペースについては、次のことをお守りください。

のせた手荷物等は確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに荷物が移動して、乗員が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

シートに人が乗っている状態で、ラゲージスペースの操作をしないでください。

シートに人が乗っている状態でラゲージスペースの操作をしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

フリースペースのつくり方

フリースペースにするときは

助手席シートをタンブルして、セカンドシート（助手席側）を後方いっぱいまで移動させると、助手席側セカンドシートの足下に広いスペースをつくることができます。

1 スライドストッパーを取りはずします。
(➲199ページ参照)

2 セカンドシート（助手席側）のスライドレバーを引いて、セカンドシート（助手席側）を後方いっぱいまで移動させます。
(➲198ページ参照)

3 助手席シートをタンブルさせます。
(➲212ページ参照)

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

フリースペースについては、次のことをお守りください。

フリースペースにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意　フリースペースにした状態で、シートの上を走りまわらないでください。

- フリースペースにした状態でシートの上を走りまわらないでください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。
- 助手席シートをタンブルさせたときは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されているか確認してください。固定されていないとシートが後方に倒れたときなどにセカンドシートの乗員が足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。
- セカンドシートを後方に移動させるときにスライドストッパーを取りはずした場合、シート位置をもとにもどしたら、取りはずしたスライドストッパーを必ずもとどおり取りつけてください。取りつけないと、サードシートの乗員などがシートレールに手や足などを挟むなどしてけがをするおそれがあります。

フラットシート（運転席）のつくり方

フラットシートにするときは

運転席の背もたれをフルリクライニングして、セカンドシート（運転席側）を後方いっぱいまで移動させると、平らな空間をつくることができます。

1 スライドストッパー（運転席側）を取りはずします。
(➡199ページ参照)

2 セカンドシート（運転席側）のスライドレバーを引いて、セカンドシートを後方いっぱいまで移動させます。
(➡198ページ参照)

3 運転席シートのスライドレバーを引いて、運転席シートを前方いっぱいまで移動させます。
(➡194ページ参照)

4 運転席シートのヘッドレストを取りはずします。
(➡196ページ参照)

5 運転席シートのリクライニングレバーを引いたまま、背もたれを後方いっぱいまで倒します。
(➡195ページ参照)

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

警告 **フラットシートについては、次のことをお守りください。**

フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **フラットシートにした状態でシートの上を走りまわらないでください。**

●フラットシートにした状態でシートの上を走りまわらないでください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。
●セカンドシートを後方に移動させるときにスライドストッパーを取りはずした場合、シート位置をもとにもどしたら、取りはずしたスライドストッパーを必ずもとどおり取りつけてください。取りつけないと、サードシートの乗員などがシートレールに手や足などを挟むなどしてけがをするおそれがあります。

フラットシート（セカンドシートとサードシート）のつくり方

フラットシートにするときは

セカンドシートとサードシートの背もたれをそれぞれフルリクライニングさせることで、平らな空間をつくることができます。

1 **セカンドシートのスライドレバーを引いたまま、セカンドシートを前方いっぱいまで移動させます。**
(➲198ページ参照)

●セカンドシートがフロントシートに当たる場合は、フロントシートのスライドレバーでフロントシートの前後位置を調整してください。

2 **セカンドシートのヘッドレストを取りはずします。**
(➲200ページ参照)

3 **セカンドシートのリクライニングレバーを引いて、背もたれを後方いっぱいまで倒します。**
(➲198ページ参照)

4 **サードシートのリクライニングストラップを引いて、背もたれを後方いっぱいまで倒します。**
(➲204ページ参照)

●サードシートのヘッドレストは、一番下まで押し下げておいてください。背もたれをうしろにリクライニングさせたときに、ヘッドレストがバックドアに当たります。

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

フラットシートについては、次のことをお守りください。

フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

フラットシートにした状態でシートの上を走りまわらないでください。

フラットシートにした状態でシートの上を走りまわらないでください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。

長尺物収納スペースのつくり方

長尺物収納スペースにするときは

シートバックテーブル、セカンドシートとサードシートをフルリクライニングさせると、ベッドとしてくつろげるスペース、また長尺物を積むことができるスペースをつくることができます。

1 **助手席シートのスライドレバーを引いて前方に移動させてから、助手席シートをシートバックテーブルにします。**
(➡194、210ページ参照)

●シートバックテーブルにした助手席シートのヘッドレストが、グローブボックスに当たらないように、助手席シートの前後位置を調整してください。

2 **セカンドシート（助手席側）のスライドレバーを引いたまま、セカンドシートを前方いっぱいまで移動させます。**
(➡198ページ参照)

●セカンドシートがフロントシートに当たる場合は、フロントシートのスライドレバーでフロントシートの前後位置を調整してください。

3 **セカンドシートのヘッドレストを取りはずします。**
(➡200ページ参照)

4 **セカンドシートのリクライニングレバーを引いたまま、背もたれを後方いっぱいまで倒します。**
(➡198ページ参照)

5 **サードシートのリクライニングストラップを引いたまま、背もたれを後方いっぱいまで倒します。**
(➡204ページ参照)

●サードシートのヘッドレストは、一番下まで押し下げておいてください。背もたれをうしろにリクライニングさせたときに、ヘッドレストがバックドアに当たります。

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

長尺物収納スペースについては、次のことをお守りください。

倒した背もたれの上に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

長尺物収納スペースにした状態でシートの上を走りまわらないでください。

長尺物収納スペースにした状態でシートの上を走りまわらないでください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩部ベルト
肩に十分かけること。（首にかかったり、肩からはずれないこと。）

背もたれを調整し、上体を起こし、
深く腰かけて座ること。

ねじれていないこと。

腰部ベルト
必ず腰骨のできるだけ低い
位置に密着させること。

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。
正しい姿勢については、➡192ページを参照してください。
- 肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする
前に
運転をする
ときに
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告 必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- サードシートの3点式シートベルトを着用する場合は、シートベルトハンガーにシートベルトがかかっていないことを確認してください。シートベルトハンガーにシートベルトがかかっていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けます。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。
- アームレストを使用するときは、必ずシートベルトをアームレストの下に通した状態で正しく着用してください。アームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
  また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のあるかたも必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。

なお、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートについては **トヨタ販売店**にご相談ください。

●シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

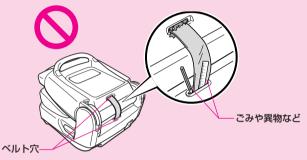
●ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、 **トヨタ販売店**にご相談ください。

●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

⚠警告 助手席シートベルトのうしろの穴にごみや異物を入れないでください。

●助手席シートうしろのベルト穴にごみや異物などを入れないでください。ごみや異物などが入ると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●助手席シートうしろのベルト穴付近に足などをのせないでください。プリテンショナー付シートベルトが作動したとき、やけどをするおそれがあり危険です。

⚠注意 助手席シートベルトを着用するときは、次の点に注意してください。

●助手席の背もたれをリクライニングさせた状態で、ベルトが巻取りにくいときは、背もたれを起こしてください。
●炎天下での駐車後は、シートベルトのプレートが熱くなり、やけどをするおそれがあり危険です。熱くないことを確認してから使用してください。
●シートベルトを背もたれうしろのベルト穴からひっぱり出したり、ベルトに物を引っ掛けたりしないでください。
シートベルトがロックしたまま引き出せなくなります。
ベルトが引き出せなくなったときは、一度背もたれを前に倒せば引き出すことができます。

3点式シートベルトの脱着のしかた

セカンドシート中央席を除く

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

- ●助手席シートベルトが引き出せないときは、一度背もたれを前に倒すとベルトが引き出せます。
- ●サードシートでは、シートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

- ●アームレスト付きシートで、プレートをバックルに差し込みにくいときは、アームレストを上げてください。
- ●フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（➡326ページ参照）が消灯したことを確認してください。

3 腰部ベルトを密着させせます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させせます。

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

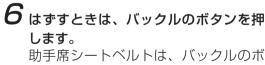
※図はＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車

5 運転席シートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルショルダーベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- ●上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
- ●下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押します。

助手席シートベルトは、バックルのボタンを押したあと、ねじれがないように確実にベルトを巻き取らせてください。

シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●アームレスト付きシートのシートベルトを使用するときは、必ずシートベルトをアームレストの下側に通して着用してください。シートベルトがアームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●アジャスタブルショルダーベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

知識

シートベルトの収納について

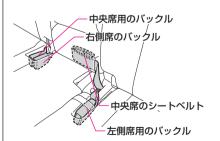
■助手席シートベルトバックル

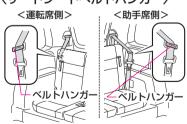
前に倒して収納することができます。

■サードシートベルトバックル

前に倒して収納することができます。

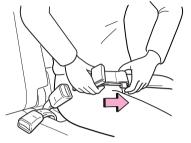
■リヤシートベルト

〈セカンドシートのクッション座面上〉

図のようにシートクッションの穴に収納します。

〈サードシートベルトハンガー〉

※グレード等により助手席側ベルトハンガーの取りつけ位置が異なります。

シートベルトをベルトハンガーにかけます。

2点式シートベルトの脱着のしかた

セカンドシート中央席

1 ベルトの長さを調整します。

プレートを図のようにしてベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。

2 プレートをバックルに差し込みます。

ベルトにねじれがないようにし、プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

●プレートとバックルに「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印があるものどうしで接続してください。
「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印があるものと、ないものでは接続できません。

3 ベルトを密着させます。

ベルトを引いて、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

4 はずすときは、バックルのボタンを押します。

はずしたベルトはバックルにはめておくか、所定の収納場所（➡242ページ参照）に格納します。

⚠警告 2点式シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

2点式シートベルトを着用するときは、必ず左右席の前後位置を合わせて着用してください。お守りいただかないと、シートベルトを正しく着用することができず、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

セカンドシート中央席シートベルトの収納について

シートベルトまたはバックルは図のように収納することができます。

●中央席用シートベルトは、左側席の背もたれ側面にあるポケットに収納します。

セカンドシート中央席シートベルトの結合について

プレートとバックルに「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印があるものどうしで結合してください。「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印のあるものと、ないものとは結合できません。

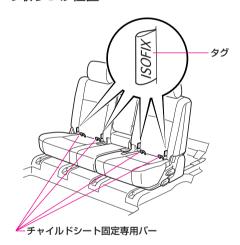
チャイルドシートの固定

セカンドシート左右席

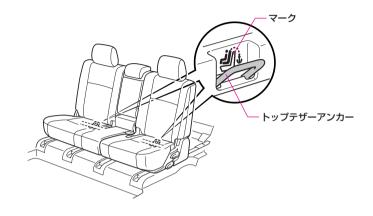
ＩＳＯ※ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーには、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のチャイルドシート・ベビーシートのみ取りつけることができます。お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

※International Organization for Standardization の略で「国際標準化機構」の意味。

取りつけ位置について

■固定専用バーの取りつけ位置

シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグ（表面「ＩＳＯＦＩＸ」・裏面「ＩＳＯＦＩＸ」）がシートについています。

■トップテザーアンカーの取りつけ位置

シートクッションのうしろ側にあります。

●トップテザーアンカーが装備されていることを示すマークが刻印されています。

ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーでの固定

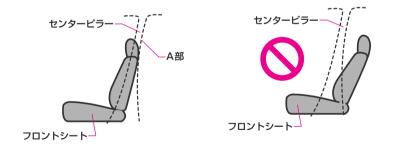
取りつけるときは

1 **セカンドシートの前後位置を一番うしろに調整します。**(➲198ページ参照)

●前後位置を一番うしろに調整するときは、必要に応じてスライドストッパーを取りはずしてください。(➲199ページ参照)

2 **セカンドシートのヘッドレストを一番上まで引き上げます。**
(➲200ページ参照)

3 **フロントシートの前後位置・リクライニング調整をします。**

シートの背もたれ後端が、センターピラーうしろ側（Ａ部）より前になるように調整してください。(➲194ページ参照)

4 **ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーとトップテザーアンカーの位置を確認します。**(➲246、247ページ参照)

5 **子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）をセカンドシートに取りつけます。**

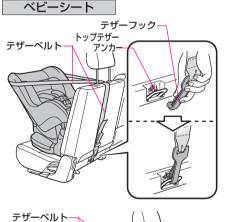
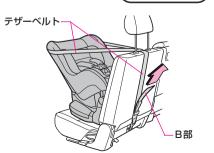
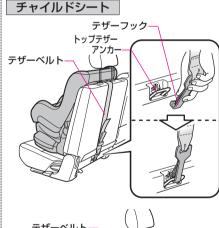
適合する子供専用シートの取りつけ金具を、固定専用バーに取りつけます。次にテザーベルトをトップテザーアンカーに取りつけます。

＊取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

- シートの背もたれおよびシートクッションと子供専用シートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれの角度を調整してから取りつけてください。
- テザーベルトがねじれないように下図のようにヘッドレストの間に通し、テザーフックをシートクッションうしろ側のトップテザーアンカーに掛けます。
- テザーベルトがピンと張るまでＢ部を強く引っ張って、子供専用シートを固定します。

■子供専用シートの取りつけ例

ベビーシート

チャイルドシート

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

6 確実に固定されていることを確認します。

取りつけた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認します。

警告　子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。

●子供専用シートを取りつけるときは、固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

●子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告 **子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。**

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- ●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルームに収納し、しっかりと固定しておいてください。

助手席側セカンドシートにＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシートを装着するときは、助手席シートに子供専用シートを装着しないでください。

助手席に子供専用シートを取りつける場合には助手席シートの前後位置調整を一番うしろにして取りつけるため、助手席側セカンドシートには安全に取りつけられる十分なスペースが確保できません。

知 識

ＩＳＯ※ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

このＩＳＯＦＩＸ対応のチャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、アイシス指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート・ベビーシート）のみ取りつけることができます。詳しくは**トヨタ販売店**にご相談ください。

※ＩＳＯは International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略。

シートベルトでの固定

取りつけるときは

3点式シートベルト

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

●チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

●ロッキングクリップの購入にあたっては、**トヨタ販売店**にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

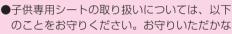
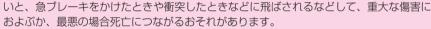
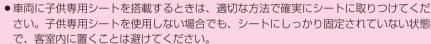
目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　子供専用シートの取りつけは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取りつけてください。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルームに収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについては、➡248ページの「ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーでの固定」を参照してください。）

ハンドル・ミラー・アンテナの調整

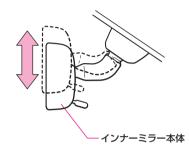
ハンドルの調整

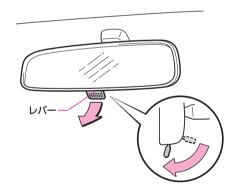
チルト＆テレスコピックステアリングレバーを押し下げ、ハンドルを上下・前後に動かし適切な位置にして、チルト＆テレスコピックステアリングレバーを引き上げると固定されます。

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

- ●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

インナーミラーの調整

調整のしかた

インナーミラー本体を持って調整します。

防眩切り替えのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

走行中はインナーミラーの調整をしないでください。

運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

1 メインスイッチの調整する側を押します。

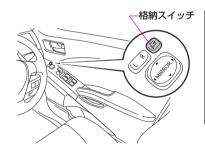
R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

2 角度を調整します。

位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納のしかた

	スイッチの状態	ミラーの状態
ON（格納）		
OFF（復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ON（格納）とOFF（復帰）に切り替わります。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがOFFのときは、手で格納・復帰させることもできます。

警告　走行中はドアミラーの調整をしないでください。

●走行中はドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

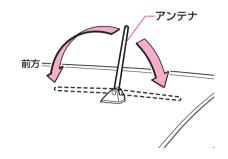
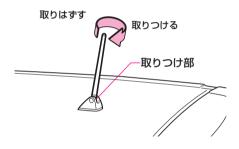
ドアミラーが動いているときは手などを触れたりしないでください。

手などを挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

知 識

作動条件について

● “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすると、格納作動が停止します。
●ドアミラーを手で格納・復帰させたあとに“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにすると、ミラーは格納スイッチの状態にもどります。
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしても、ドアミラーは復帰しません。
一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

アンテナの格納・取りはずし

アンテナは前方にまたは後方に格納することができます。
(ラジオ受信時は節度感のある所まで立てて使用してください)

取りはずすときは、アンテナをまわして取りつけ部から取りはずします。
取りつけるときは、アンテナを取りつけ部にねじ込み、しっかりと固定します。

⚠注意　アンテナの取り扱いにはご注意ください。

- 自動洗車機にかけるときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。
- 次のようなときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。
  - 車庫などにアンテナが当たるとき。
  - カーカバーをかけるとき。
- 洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけてください。

運転をするときに 4

エンジン（イグニッション）スイッチ

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え方

1 **電子キーを携帯し、運転席に座ります。**

2 **ブレーキペダルを踏まずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。**

スイッチを押すごとに、スイッチが

ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…

の順に切り替わります。

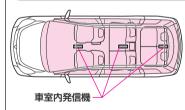
- ●アクセサリーモード、イグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。
- ●イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦは車両が停止しているときに切り替わります。
- ● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを早く押すと、切り替わらないことがあります。目的のスイッチの状態になるまで、１回ごと確実に押してください。

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションＯＮモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

注意	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置しないでください。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかに **トヨタ販売店**に連絡してください。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●炎天下で長時間車両を放置すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
●車幅灯が点灯しても、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明が点灯しないときは、 **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知 識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）
●車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などは “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替えが可能となることがあります。

知 識

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを切り替えることができません。この場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すと、キーなし警告が鳴ります。（➲.139ページ参照）
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（➲.400ページ参照）などに置かないでください。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが切り替わらないことがあります。
●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、➲.146ページの「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを早押しした場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが切り替わらないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが切り替わらないことがあります。（➲.437ページ参照）

便利機能について

オートＯＦＦ機能

シフトレバーが🅟にあるとき、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにした状態で約1時間放置するとバッテリーあがり防止のために、自動的にスイッチがＯＦＦになります。

車両バッテリー脱着時について

車両は常に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、バッテリーをはずす前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。

エンジン始動・停止のしかた

エンジン始動のしかた

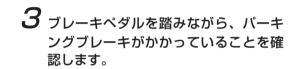
1 **電子キーを携帯し、運転席に座ります。**

2 **ペダルの位置を確認します。**

正しい運転姿勢（➡.192ページ参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

3 **ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

4 **シフトレバーの位置を確認します。**

シフトレバーがⓅにあることを確認します。

●Ⓝでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

5 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

●作動表示灯が点灯するまで強く踏んでください。

●作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

6 **ブレーキペダルを踏みながら“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押して、エンジンを始動します。**

エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。

●完全にエンジンが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

●ブレーキペダルを踏みながら“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押せば、どのスイッチの状態からでもエンジンを始動することができます。

●エンジンが始動しない場合、ブレーキペダルが重くなる場合がありますが、その際には通常よりも強くブレーキペダルを踏んでください。

●クランキングホールド機能（➡.271ページ参照）が作動します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする
前に
運転をする
ときに
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エンジン停止のしかた

車両を完全に停止させ、シフトレバーをⓅに入れて“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。
スイッチがＯＦＦになり、エンジンが停止します。

●シフトレバーがⓅ以外でエンジンを停止しないでください。
万一、シフトレバーが、Ⓟ以外でエンジンを停止した場合、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードになります。そのときは、シフトレバーをⓅに入れ、スイッチを2回押して、スイッチをＯＦＦにします。（確実にスイッチがＯＦＦになっていることを確認してください。）

車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

●車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
●走行中は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチにさわらないでください。誤ってスイッチを押し続け、エンジンが停止すると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンの始動操作をしたときに、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。

● “ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったんスイッチをＯＦＦにすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、すみやかに **トヨタ販売店**に連絡してください。

●走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

● “ エンジン スタート ストップ ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかに **トヨタ販売店**に連絡してください。

● “ エンジン スタート ストップ ”スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。

● “ エンジン スタート ストップ ”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかに **トヨタ販売店**に連絡してください。

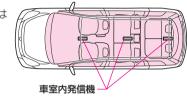
●炎天下で長時間車両を放置すると、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。

●車幅灯が点灯しても、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明が点灯しないときは、 **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

●車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などはエンジンの始動が可能となることがあります。

検知エリア
車両室内

エンジンの緊急停止について

走行中、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを約3秒以上押し続けると、エンジンを停止することができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止しないでください。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチはアクセサリーモードになります。

●この状態ではオートＯＦＦ機能は作動しません。（➡.264ページ参照）

知識

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、エンジンを始動することはできません。この場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すと、キーなし警告が鳴ります。(➲.139ページ参照)
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（➲.400ページ参照）などに置かないでください。エンジンが始動できないことがあります。
●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、➲.146ページの「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷により、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。
●エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンを始動できない場合があります。この場合は約10秒以上待ってから再びエンジンの始動操作をしてください。
●車両のバッテリーがあがっている場合はステアリングロックが作動しないので注意してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、エンジンが始動しないことがあります。(➲.437ページ参照)

車両バッテリー脱着時について

●車両のバッテリー脱着後、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
●車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

知 識

クランキングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。

- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。
  約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

電子キーが正常に作動しないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり、電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムが使用できなくなります。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え方

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに電子キーの（トヨタマーク）のある面で触れることで、スイッチの切り替えが可能になります。
➲.262ページの「“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え方」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルを踏みます。**

2 **電子キーの（トヨタマーク）のある面で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチに触れます。**

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

3 **電子キー認識後、約5秒以内にすべてのペダルから足を離して、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すごとに、スイッチが

アクセサリーモード⇒イグニッションONモード⇒OFF

の順に切り替わります。

知 識

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの切り替えについて

●いったん“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにすると、スイッチを押してもスイッチの切り替えができません。もう一度はじめから操作してください。

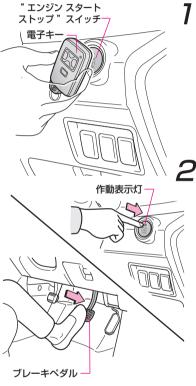
●電子キー認識後、約5秒以上たってから“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押しても、スイッチは切り替わりません。もう一度はじめから操作してください。

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチに触れるスイッチの切り替えは一時的な処置です。電池が切れたときはただちに電池の交換をおすすめします。（➡.464ページ参照）

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ切り替え時の警報について

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ切り替え時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

エンジン始動のしかた

“エンジン スタート ストップ”スイッチに電子キーのⓉ（トヨタマーク）のある面で触れることで、エンジンの始動が可能になります。
➡.265ページ「エンジン始動・停止のしかた」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルをしっかり踏みながら、電子キーのⓉ（トヨタマーク）のある面で“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れます。**

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

●作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

2 **電子キー認識後、約5秒以内にブレーキペダルを踏んだまま“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。**

●ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンが始動しないようになっています。

●エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。

●完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、もう一度、**手順1**からやり直します。このときブレーキペダルが重くなることがありますが、その際には通常よりも強くペダルを踏んでください。

■エンジン停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様です。（➡.267ページ参照）

エンジンの始動について

●電子キー認識後、約5秒以上たってから " エンジン スタート ストップ " スイッチを押しても、エンジンは始動しません。もう一度はじめから操作してください。
● " エンジン スタート ストップ " スイッチに触れるエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときはただちに電池の交換をおすすめします。（➡.464ページ参照）

エンジン始動時の警報について

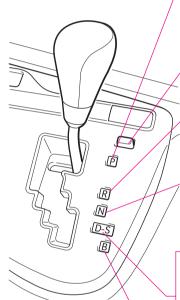
エンジン始動時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

シフトレバーの使い方

シフトレバーの使い方

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車

シフトレバーの働き

駐車およびエンジン始動
駐車のときは、必ずⓅにしてください。

シフトロック解除ボタン（➡次ページ参照）

R
(リバース)

後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

N
(ニュートラル)

動力が伝わらない状態
Ⓝでもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

D
(ドライブ)

通常走行（前進）
スピードとアクセルの踏み加減に応じて変速します。

S
(スポーツドライブ)

坂道走行（前進）
下り坂では、軽いエンジンブレーキが得られます。
上り坂では、不要な変速を制限しなめらかな走行ができます。

急な下り坂走行（前進）
強力なエンジンブレーキが必要な場合に使用します。

シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーの操作

ⓅとⒹの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

⇧⇩ シフトレバーをゲートにそってそのまま動かします。

知 識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。

●シフトレバーがⓅ以外では “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにすることはできません。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。
（Ⓟ以外でスイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。）

●シフトレバーをⓇにすると、ブザーが鳴ります。

- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
（車外の人に対する警告音ではありません。）

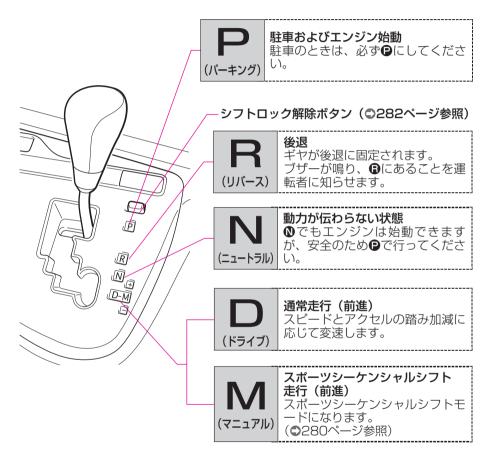
シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅから操作できないときに使用します。

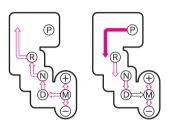
●ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。

●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちに **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車

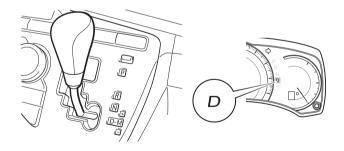
シフトレバーの働き

シフトレバーの取り扱い

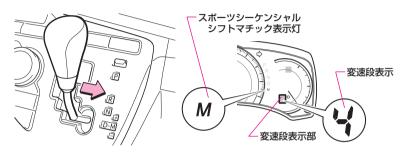
■シフトレバーの操作

Ⓟと Ⓓの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

シフトレバーをゲートにそってそのまま動かします。

■シフトレバーをⒹにしたとき

シフトレバーをⒹにすると、シフトポジション表示のDが点灯します。

スポーツシーケンシャルシフトモードの使い方

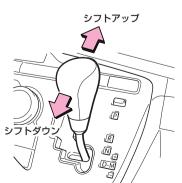
■スポーツシーケンシャルシフトモードへの切り替え方

シフトレバーをⓂにすると、スポーツシーケンシャルシフトモードになり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの＋側または－側を操作することによって、変速段を切り替えることができます。

●1～7の間で選択されている変速段が変速段表示部に表示されます。（➡306ページ参照）

シフトアップ →
1 2 3 4 5 6 7
← シフトダウン

●スポーツシーケンシャルシフトモードにすると、スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。（➡306ページ参照）

●シフトレバーをⒹにすると、スポーツシーケンシャルシフトモードが解除され、通常の制御にもどります。

■シフトレバーでのシフトチェンジのしかた

シフトアップするときは、シフトレバーを＋側に動かします。
シフトダウンするときは、シフトレバーを－側に動かします。

●シフトレバーを操作するごとに、1段ずつ変速します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■パドルシフトスイッチでのシフトチェンジのしかた

シフトアップするときは、スイッチの＋側を引きます。
シフトダウンするときは、スイッチの－側を引きます。

●スイッチを操作するごとに、1段ずつ変速します。

■各変速段の働き

表示	働き
7	変速段がM7に固定されます。
6	変速段がM6に固定されます。
5	変速段がM5に固定されます。
4	変速段がM4に固定されます。
3	変速段がM3に固定されます。
2	変速段がM2に固定されます。
1	変速段がM1に固定されます。

知識

スポーツシーケンシャルシフトモードの変速段について

●1段以外で走行したあと、停車すると自動的に1段へシフトダウンされます。停車後、走行するときは1段からの発進となります。

●停車時は1段に固定されます。

変速段の表示について

シフトレバーをⓂにすると、スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯して、変速段表示部に1～7の間で選択されている変速段数が表示されます。

知 識

警告ブザーについて

安全のため、または走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望する変速段にシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について

●エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に1段シフトアップされます。
●エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に1段シフトダウンされます。

システムの異常について

シフトレバーをⓂにしても、スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯しないときは、システムの異常が考えられます。ただちに **トヨタ販売店**で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをⒹにしているときと同じ制御になります。

安全機能について

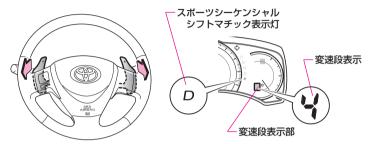
シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。
●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。
 ● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 ●シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。
●シフトレバーがⓅ以外では “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにすることはできません。
 ● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。
 Ⓟ以外でスイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。
 ●シフトレバーをⓇにすると、ブザーが鳴ります。
 ●ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
 ●車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
 （車外の人に対する警告音ではありません。）

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅから操作できないときに使用します。
●ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。
●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちに **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知識

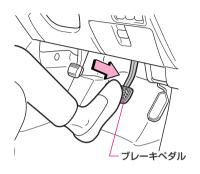
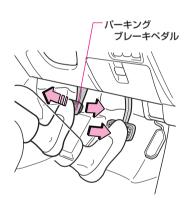
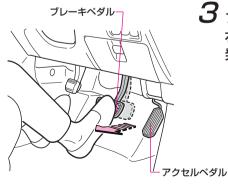
一時的なスポーツシーケンシャルシフトモードについて

シフトレバーをDの位置で走行中、シフトパドルを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション表示のDが点灯し、変速段が表示されます。

一時的なスポーツシーケンシャルシフトマチックモードは次の状態になると解除されます。

●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
●シフトパドルのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき
●車両停止状態のとき

オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを**D**に入れます。

2 左足でパーキングブレーキを解除します。（➡290ページ参照）

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする 前に
運転をする ときに
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

上り坂の発進のしかた

1. パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーを**D**に入れます。

2. 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3. 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。

警告　ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーをⒹに入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。

坂道で走行するときは

■上り坂

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車

勾配に応じてシフトレバーをⓈにしておくと、エンジン回転数の変化が少ないなめらかな走行ができます。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車

シフトレバーをⓂにして、坂道に応じた変速段で走行することによりなめらかな走行ができます。

■下り坂

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

シフトレバーがⒹのままでスピードが出すぎるときは、

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車

シフトレバーをⒷにしてエンジンブレーキを併用します。

●Ⓢにすることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車

シフトレバーをⓂにして、坂道に応じた変速段でエンジンブレーキを併用します。

警告　走行中にはシフトレバーをⓃに入れないでください。

●走行中にはシフトレバーをⓃに入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●坂道などでは、シフトレバーを7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車ではⒹ・Ⓢ・Ⓑ、7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車ではⒹ・Ⓜにしたまま惰性で後退したり、Ⓡにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

注意　シフトレバーをⓃにしたままで走行しないでください。

トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 **車を止めます。シフトレバーは🅓のまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。**
エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 **必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。**
上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、左足でしっかりとパーキングブレーキをかけてください。

3 **長時間停車する場合は、シフトレバーを🅟または🅝に入れます。**

駐車のしかた

1 車を完全に止めます。

2 パーキングブレーキをかけます。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりかけます。

3 シフトレバーをⓅに入れます。

車が動き出さないためにも、必ずⓅに入れてください。

4 エンジンを停止します。

車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

警告 走行中は、シフトレバーをⓅに入れないでください。

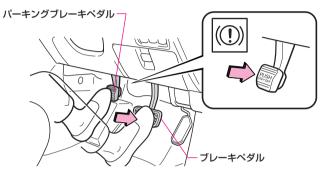
- 走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意 車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

- エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーがⓅ以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーをⒹのままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキペダルの使い方

パーキングブレーキペダルの取り扱い

パーキングブレーキをかけるには

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するには

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのときは、ブレーキ警告灯が消灯します。

⚠注意　パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知識

かけなおすときは

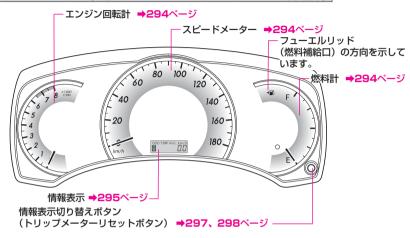
パーキングブレーキをかけたあと、かけなおしたい場合は、一度解除してから踏みなおします。

警告ブザーについて

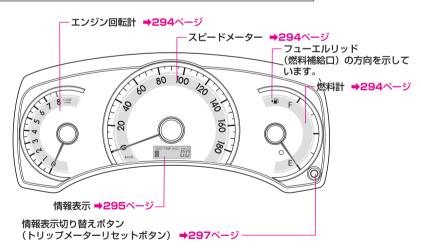
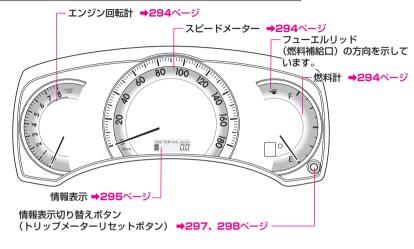
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター

オプティトロンメーター（7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車）

アナログ式メーター（7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車）

オプティトロンメーター（7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車）

知 識

メーターについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。

燃料計

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は約60Ｌです。

知 識

燃料計について

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針がふれることがあります。
●燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
●燃料計にある◀ FUEL DOOR 印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側にあることを示しています。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。

注意 **指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。**

指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

情報表示

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、情報表示切り替えボタン（➡297ページ参照）を押すごとに、次の表示をします。

■オドメーター

ODO
76000

走行した総距離をkmの単位で表示します。

■トリップメーター

TRIP
A
76.0

2種類の区間距離（トリップA、トリップB）をkmの単位で表示します。

■照度調整

オプティトロンメーター／スポーツオプティトロンメーター装着車

設定しているメーター照明の明るさレベルが表示されます。（➡298ページ参照）

■航続可能距離（km）

km
200

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

●表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

●燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■平均燃費（km/L）

AVG. km/l.
16.7

リセットしてからの平均燃費を約10秒ごとに更新して表示します。

●バッテリーとの接続が断たれたときは、「ーー.ーkm/L」が表示されます。

●現時点からの数値を測定したい場合（リセットしたい場合）は、平均燃費表示中に情報表示切り替えボタンを長押しします。

●表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■瞬間燃費（km/L）

km/l.
- -.-

エンジンを始動して、走行を開始してからの瞬間燃費を約2秒ごとに更新して表示します。

●停車しているときは、「- -.-km/L」が表示されます。

■エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

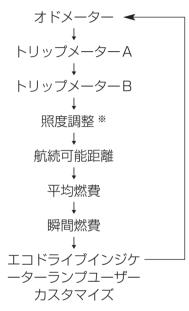
Eco On

EcoOFF

エコドライブインジケーターランプの点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ表示中に情報表示切り替えボタンを1秒以上押します。

情報表示切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■情報表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

※オプティトロンメーター／スポーツオプティトロンメーター装着車のみ表示されます。

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたいほうを表示させてから、トリップメーターリセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。

バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

メーター照度調整ボタン

オプティトロンメーター／スポーツオプティトロンメーター装着車

■メーター照度調整表示に切り替えるには

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき情報表示切り替えボタンを押すと、トリップメーターＢ表示のあとに照度調整表示に切り替わります。(➲295ページ参照)

■照度調整のしかた

照度調整画面表示中にボタンを約1秒以上押し続けます。
メーター照明の明るさレベルを下表のようにかえることができます。

- ●お好みの明るさになったら、スイッチから手を離します。
- ●ライト消灯時と点灯時で、それぞれの明るさレベルを設定できます。

<ライト消灯時>

	照度調整表示	照度のレベル
明↑		レベル1
		レベル2
		レベル3
↓暗		レベル4

<ライト点灯時>

	照度調整表示	照度のレベル
明↑		レベル1
		レベル2
		レベル3
		レベル4
↓暗		レベル5

知 識

照度調整表示について

次のような場合は、自動的に照度調整表示からオドメーター表示に切り替わります。

- ●照度調整表示に切り替えてから、約10秒以上、ボタンを操作しなかったとき。

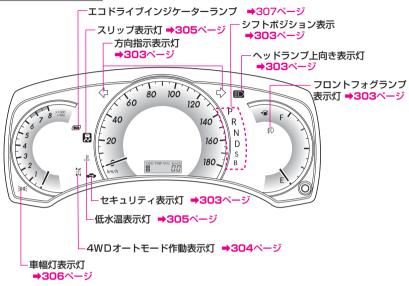
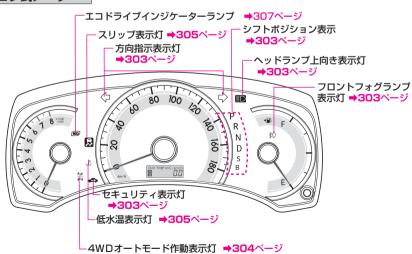
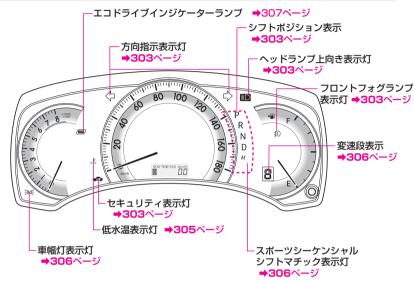
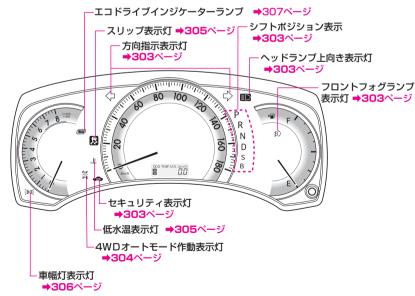
メーター照明の作動条件について

- ● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。
- ● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、アクセサリーモードまたはＯＦＦにすると消灯します。

表示灯

オプティトロンメーター

アナログ式メーター

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

スポーツオプティトロンメーター(7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車)

スポーツオプティトロンメーター(7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車)

図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯		低水温表示灯（青色）
	ヘッドランプ上向き表示灯	M	スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯（7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車）
	フロントフォグランプ表示灯（フロントフォグランプ装着車）	4	変速段表示（7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車）
	セキュリティ表示灯		車幅灯表示灯（オプティトロンメーター装着車）
AUTO	4WDオートモード作動表示灯（4WD車）	ECO	エコドライブインジケーターランプ
	スリップ表示灯（ＶＳＣ装着車）		

シフトポジション表示

選択しているシフトポジションが、次のように表示されます。
- ●7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車は「ＰＲＮＤＳＢ」
- ●7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車は「ＰＲＮＤＭ」

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
(➡332ページ、339ページ参照)

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。
(➡330ページ参照)

フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプ装着車

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。
(➡330ページ参照)

セキュリティ表示灯

盗難防止システムが作動状態になると点滅します。
(➡437ページ参照)

4WDオートモード作動表示灯

4WD車

●ＦＦモードのときに4WDオートモードスイッチを押すと数回点滅したあと、4WDオートモードになり点灯します。（➡340ページ参照）

●4WDオートモードのとき、4WDオートモードスイッチを押すとＦＦモードになり、消灯します。

表示灯について

●ＦＦモードのときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。4WDオートモードのときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯します。

●前後輪の回転速度の差が大きい場合などは、点滅が続くことがあります（点滅中はＦＦモードのままです）。
この場合には、一度、アクセルペダルから足を離してください。

●4WDオートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WDオートモード作動表示灯が点滅します。
作動表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、ＦＦモードとなります。
この場合には、ただちに安全な場所に停車し、エンジンをかけたままにしてください。しばらくして点滅から点灯にかわれば、4WDオートモードにもどります。

●4WDシステムに異常が発生したときには、4WDオートモード作動表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WDオートモードスイッチの位置にかかわらずＦＦモードとなります。

スリップ表示灯

VSC装着車

エンジン回転中の次のときに点滅します。

●TRCシステムが作動したとき。（TRCシステム）
➡429ページ参照

●車両が横すべりしそうになったとき。（VSCシステム）
➡428ページ参照

■VSC作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに断続音が鳴ります。

●運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

次のときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

表示灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

低水温表示灯（青色）

エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

注意

次のときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

暖機を十分続けていても表示灯が点灯したままのときは、温度センサーの異常が考えられます。**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車

シフトレバーをⓂにしてスポーツシーケンシャルシフトモードにすると点灯します。(➡280ページ参照)

⚠注意 **次のときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。**

表示灯が点滅したときは、スポーツシーケンシャルシフトマチックシステムの異常が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
この場合、機能的にはⒹにしているときと同じになります。

変速段表示

7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車

シフトレバーをⓂにしたときは選択している変速段（1～7）を表示します。
(➡280ページ参照)

車幅灯表示灯

オプティトロンメーター装着車

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯すると点灯します。
(➡328ページ参照)

ECO

エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているときに点灯してお知らせします。

●以下の2つの条件を満たすと作動します。

- シフトポジションをⒹで走行時（パドルシフト装着車は、パドルシフト未使用時）
- エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズで「Eco On」設定時（➡296ページ参照）

表示灯について

●必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。
●この機能を解除することもできます。（➡296ページの「エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ」を参照してください。）

警告灯

オプティトロンメーター
ABS&ブレーキアシスト警告灯 ➡311ページ
ABS警告灯 ➡312ページ
充電警告灯 ➡321ページ
SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯 ➡313ページ
ブレーキ警告灯 ➡318ページ
半ドア警告灯 ➡324ページ
運転席シートベルト非着用警告灯 ➡326ページ
パワーステアリング警告灯 ➡315ページ
スマートエントリー＆スタートシステム警告灯 ➡325ページ
油圧警告灯 ➡322ページ
高水温警告灯 ➡320ページ
VSC警告灯 ➡314ページ
燃料残量警告灯 ➡324ページ
ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯 ➡323ページ
4WD警告灯 ➡316ページ
エンジン警告灯 ➡317ページ
アナログ式メーター
ABS&ブレーキアシスト警告灯 ➡311ページ
ABS警告灯 ➡312ページ
充電警告灯 ➡321ページ
SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯 ➡313ページ
ブレーキ警告灯 ➡318ページ
半ドア警告灯 ➡324ページ
運転席シートベルト非着用警告灯 ➡326ページ
パワーステアリング警告灯 ➡315ページ
スマートエントリー＆スタートシステム警告灯 ➡325ページ
油圧警告灯 ➡322ページ
高水温警告灯 ➡320ページ
VSC警告灯 ➡314ページ
燃料残量警告灯 ➡324ページ
4WD警告灯 ➡316ページ
エンジン警告灯 ➡317ページ

スポーツオプティトロンメーター

図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

助手席シートベルト非着用警告灯
➡327ページ

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
ABS	ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯（ＶＳＣ装着車） ＡＢＳ警告灯（ＶＳＣ装着車を除く）		充電警告灯
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯		油圧警告灯
VSC	ＶＳＣ警告灯（ＶＳＣ装着車）		ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯（ディスチャージヘッドランプ装着車）
	パワーステアリング警告灯	警告灯 E	燃料残量警告灯
4WD	4WD警告灯（4WD車）		半ドア警告灯
	エンジン警告灯		スマートエントリー ＆スタートシステム警告灯
	ブレーキ警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
	高水温警告灯（赤色）	PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯

ＶＳＣ装着車

ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステム（➡424ページ参照）に異常があると点灯します。
警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

- ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシスト
- ＶＳＣ＆ＴＲＣ

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

⚠注意　ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、**トヨタ販売店**にご連絡ください。
この場合、ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ警告灯

ＶＳＣ装着車を除く

ＡＢＳ（➡424ページ参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

注意

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに安全な場所に停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、**トヨタ販売店**にご連絡ください。
この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

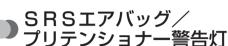
知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

販売店　**次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（➡408ページ参照）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（➡422ページ参照）に異常があると、点灯・点滅します。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

衝突したときなどにＳＲＳエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
- 走行中に点灯・点滅したとき

知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

VSC

ＶＳＣ警告灯

ＶＳＣ装着車

ＶＳＣシステム、ＴＲＣシステム、ＥＦＩシステムに異常があると点灯します。
警告灯が点灯しているときは、ＶＳＣおよびＴＲＣは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

販売店

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

点灯したときは、ハンドル操作力が重くなっていることがあるためハンドルをしっかり持って操作してください。

●警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、**トヨタ販売店**にご連絡ください。
この場合、ハンドル操作力が重くなっていることがありますので、ハンドルをしっかり持って操作をしてください。

●停車中に長時間、エンジンの空ぶかしを行うと警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなります。この場合、エンジンを再始動し走行を開始すれば消灯します。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

4WD警告灯

4WD車

4WDシステムに異常があると点灯します。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● " エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。

●走行中に点灯したとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

" エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、電子制御スロットルまたはオートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。

エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
- 警告灯が点灯しアクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。このときは、車体振動が増える場合もありますが、低速で走行できます。ただちに**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
  なお、この低速走行中に万一電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを止めて“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにするまでは、正常状態に復帰することはありません。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき。
- ●パーキングブレーキが解除されていても、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると、数秒間点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき。

●EBD（➡427ページ参照）に異常があると点灯します。

■**ブレーキ警告ブザー**

●パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。

●警告灯がABS警告灯、またはABS＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、ABS、EBD、またはブレーキアシスト（VSC装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードでパーキングブレーキをかけても点灯しないとき。
●パーキングブレーキが解除された状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき。
なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
●パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、警告ブザーが鳴ったときは、すみやかに停車し、パーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く磨耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

次の警告灯が点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

高水温警告灯（赤色）

エンジン回転中、エンジン冷却水温が異常に高くなったときに点滅します。

注意

警告灯が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。

ただちに安全な場所に停車し、➡528ページの「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置を行い、**トヨタ販売店**にご連絡ください。

知 識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

販売店 次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

注意 次のときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

エンジン回転中に点灯したときは、Ｖベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、**トヨタ販売店**へご連絡ください。

知 識

警告灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
（点検方法は➡485ページを参照してください。）

⚠注意

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止してエンジンオイル量を点検してください。

点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときやエンジンオイルを補給しても点灯するときは、

知 識

警告灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯

ディスチャージヘッドランプ装着車

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。（➡436ページ参照）

走行中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちに**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、残量が約8L以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

半ドア警告灯

■半ドア警告灯が点灯したとき

いずれかのドア（バックドア・センターロック※を含む）が確実に閉まっていません。

●ドアを閉めなおしてください。

■半ドア警告灯が点滅したとき

助手席側ドアのロック機構に異常があります。

●停車して、助手席側のフロントおよびスライドドアを閉めなおしてください。

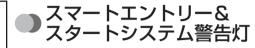
警告　**警告灯が点灯、または点滅したまま走行しないでください。**

●警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●警告灯が点滅したときは、ドアロック機構に異常があり、確実にドアがロックされていないため思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
助手席側ドアを閉めなおしても警告灯が点滅する場合は、ただちに**トヨタ販売店**へご連絡ください。

※センターロックとは、助手席側フロントドアとスライドドアを結合させるロック機構です。

次の警告灯が点滅したときは、すみやかに対処してください。

スマートエントリー&スタートシステム警告灯

P.138を参照してください。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

運転席シートベルト非着用警告灯

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20Km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。)

●シートベルトを装着すると消音します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

助手席シートベルト非着用警告灯

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードで、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20Km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

●シートベルトを装着すると消音します。

知識

警告灯について

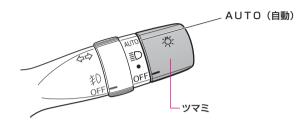
●センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。

●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

スイッチの使い方

ライトスイッチの使い方

コンライトの使い方

コンライト装着車

ツマミをＡＵＴＯにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドランプ・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

●エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、再び点灯します。

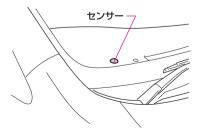
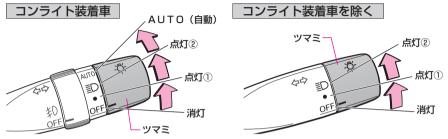
知 識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

コンライトセンサー について

●自動で使用しているときのランプの点灯・消灯が早いまたは遅いと感じたときは感度の調整ができますので **トヨタ販売店**にご相談ください。

●コンライトのセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

ランプの点灯・消灯

ツマミの位置	点灯するランプ
点灯①	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明
点灯②	①のランプ+ヘッドランプ

コンライト装着車

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。
●ＡＵＴＯにまわすと、自動で点灯・消灯します。（前ページ参照）

コンライト装着車を除く

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

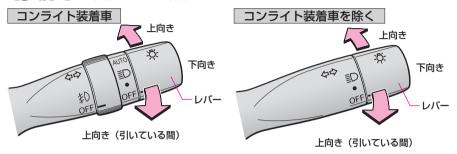
作動条件について

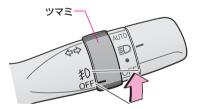
● “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。（ＡＵＴＯで使用するとき）
● “エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。（点灯①・点灯②で使用するとき）

便利機能について

ライト消し忘れ警告ブザー

ライトスイッチが点灯①・点灯②のまま、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして、運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。（➡303ページ参照）

フロントフォグランプの点灯・消灯★

ツマミを ≢D にまわすと点灯し、ＯＦＦにまわすと消灯します。

知 識

フロントフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

車幅灯が点灯しているとき使用できます。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ハロゲンヘッドランプ（ロービーム）の光軸上下調整 のしかた

ハロゲンヘッドランプ（ロービーム）装着車

ヘッドランプのロービームに装着されています。
ダイヤルをまわすと、ヘッドランプ（ロービーム）の光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。
●通常は0（ゼロ）の位置（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

知 識

光軸上下調整について

●荷物や人をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもと違う（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。荷物や人をおろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしておいてください。
●乗車人数やラゲージルームの積載状況に応じて、下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

乗員やラゲージルームの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
運転席と助手席、およびサードシートに2名乗車時	1
7名乗車時	2
7名乗車時でかつラゲージルーム満載時	2
運転席のみ乗車時でかつラゲージルーム満載時	3

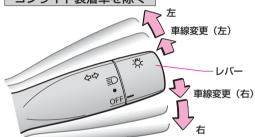
●車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを0（ゼロ）の位置（一番上向きの位置）にしてから行ってください。

作動条件について

ヘッドランプ（ロービーム）が点灯しているときに使用できます。

方向指示レバーの使い方

コンライト装着車

コンライト装着車を除く

●レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

●車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知 識

作動条件について

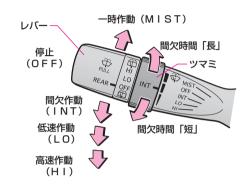
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

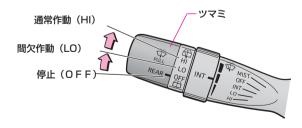
ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーを停止（ＯＦＦ）から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと停止（ＯＦＦ）にもどります。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

注意 ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

知 識

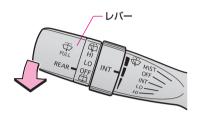
作動条件について

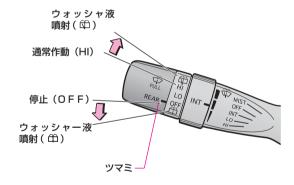
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。
●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●低速作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを通常作動（HI）から上の側にまわします。

●ツマミを停止（ＯＦＦ）から下の側にまわしている間、ウォッシャー液が噴射されます。

⚠注意　寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

●寒冷時はウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させるとガラスを傷付けるおそれがあります。
●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、**トヨタ販売店**にご相談ください。

知 識

作動条件について

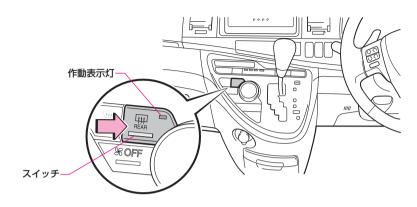
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、➡486ページを参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチの使い方

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

連続して長時間使用しないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

知 識

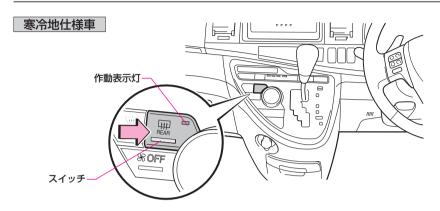
リヤウインドゥデフォッガーについて

バックドアガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。寒冷地仕様車は、フロントワイパーデアイサーとミラーヒーター（➡338ページ参照）も同時に作動します。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

フロントワイパーデアイサースイッチ・ミラーヒータースイッチの使い方

寒冷地仕様車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

作動中はフロントウインドゥガラス下部と運転席側フロントピラー部、およびドアミラーの表面が熱くなりますので、手でふれないでください。

やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用しないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

知 識

フロントワイパーデアイサーについて

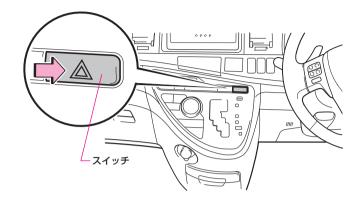
フロントウインドゥガラス下部と運転席側フロントピラー部の表面を暖めて、ガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。
リヤウインドゥデフォッガー（➲337ページ参照）も同時に作動します。

ミラーヒーターについて

ドアミラーの鏡面を暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。
リヤウインドゥデフォッガー（➲337ページ参照）も同時に作動します。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。

●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。

エンジンが停止しているときに連続して長時間使用しないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

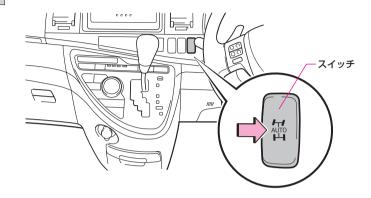
非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

4WDオートモードスイッチの使い方

4WD車

4WDオートモードスイッチを押すことにより、4WDオートモードとＦＦモードを切り替えることができます。

●スイッチを押すとメーター内の4WDオートモード作動表示灯が点灯します。

<table>
<tr><th></th><th>スイッチの状態</th><th>作動表示灯</th></tr>
<tr><td>4WDオートモード</td><td rowspan="2"></td><td>点灯</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ＦＦモード</td><td>点滅</td></tr>
<tr><td></td><td>消灯</td></tr>
</table>

知識

モードについて

4WDオートモード

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、後輪への駆動力（トルク）配分を自動的に制御します。

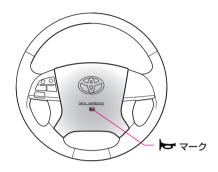
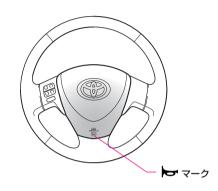
●脱輪やスタックなどにより、車輪の空転状態が継続した場合、駆動系保護のため4WDシステムが停止状態（ＦＦモード固定）になります。

ＦＦモード

ＦＦ走行状態です。ＦＦモードにすることにより燃費性能を高めます。

ホーンの使い方

4本スポークステアリング装着車

3本スポークステアリング装着車

ハンドルの マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

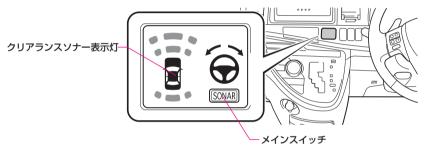
作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

クリアランスソナー&バックソナー（ステアリング感応式）の使い方★

車庫入れや縦列駐車などの低速（約10km/h以下）で運転しているときに、超音波センサーで車両と障害物とのおおよその間隔を感知して、障害物への接近・回避目安をハンドルの操作量（タイヤの切れ角）に応じてクリアランスソナー表示灯とブザーで運転者に知らせる補助装置です。使用する場合は、必ず車両周辺（とくに車両側面など）、ソナー感知可能範囲外（➡351ページ参照）の安全を直接目で確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

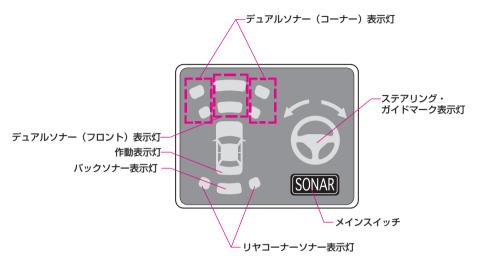
使用するときは

■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとにＯＮとＯＦＦに切り替わります。

● “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたあとでメインスイッチをＯＮにすると、クリアランスソナー表示灯が全点灯し、ブザーが約1秒間鳴り、その後、作動表示灯が点灯します。

●メインスイッチがＯＮのときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦ、またはアクセサリーモードからイグニッションＯＮモードにしたときは、作動表示灯が点灯します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■クリアランスソナー表示灯

表示灯の見方は➡346ページをご覧ください。

知 識

作動条件について

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

●メインスイッチがONで次の条件のときに作動します。

- デュアルソナー（フロント）は、シフトレバーがⓅ、Ⓡ以外の位置で、車速が約10km/h以下のときに作動します。
- デュアルソナー（コーナー）は、シフトレバーがⓅ以外の位置で、車速が約10km/h以下のときに作動します。
- リヤコーナーソナーおよびバックソナーは、シフトレバーがⓇの位置で作動します。

システムによる判定について

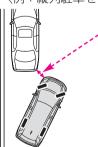
このシステムは、車庫入れや縦列駐車などの低速（約10km/h以下）で運転しているときに、超音波センサーで車両と障害物とのおよその間隔を感知して、ハンドルの操作量（タイヤの切れ角）に応じて、次のような3種類の判定をしています。
運転者には、判定の結果をクリアランスソナー表示灯とブザーでお知らせします。

■いかなるハンドル操作によっても障害物を回避できない場合（接触判定時）

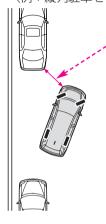
〈例：縦列駐車をするとき〉

どんなハンドル操作をしても、障害物が約25cm以内に接近すると判定されたときです。
この判定をされたときの表示灯とブザーについては、➡346ページをご覧ください。

■ハンドル操作による回避が可能な場合（回避判定時）

〈例：縦列駐車をするとき〉

ハンドル操作をすれば、約25cm以内への障害物への接近を回避できると判定されたときです。
この判定をされたときの表示灯とブザーについては、➡346ページをご覧ください。

■現在のハンドル状態でも障害物まで約25cm以内に接近しない場合（絶対回避判定時）

〈例：縦列駐車をするとき〉

ハンドル操作をしなくても、約25cm以内への障害物への接近を回避できると判定されたときです。
この判定をされたときは、次のように表示灯が点灯します。（ブザーは鳴りません）

警告　ステアリング・ガイドマーク表示灯（矢印）は、運転者への指示ではありません。

- ●ステアリング・ガイドマーク表示灯（矢印）は、障害物に対するおおよその目安を示したものであり、指示ではありません。車を前進・後退するときは必ず車両周辺部の安全を確認しながらゆっくり運転してください。
- ●壁などの長尺障害物の形状・条件によって、障害物への車両の接近にともない、「絶対回避判定」→「回避判定」、「絶対回避判定」→「接触判定」、「回避判定」→「接触判定」へと感知状態が変わることがあります。車両を前進・後退させるときは、必ず車両周辺部の安全を確認しながら、ゆっくり運転してください。

クリアランスソナー表示灯の見方とブザーの鳴り方（接触判定時および回避判定時）

クリアランスソナー＆バックソナー作動中は、表示灯とブザーが次のように作動します。

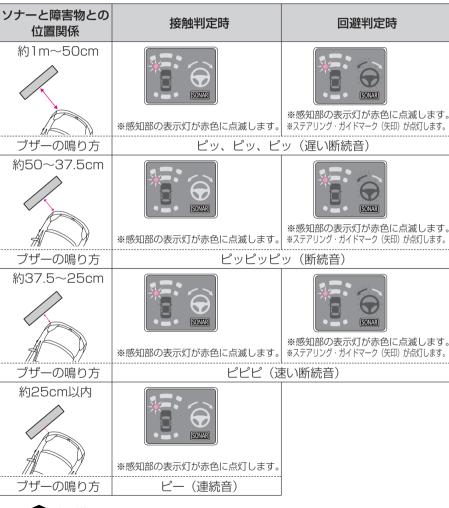
■デュアルソナー（フロント・コーナー）表示灯＆ステアリング・ガイドマーク表示灯

●低速（約10km/h以下）で前進しているときに、障害物がデュアルソナーから約1m以内に感知されると、作動します。

ソナーと障害物との位置関係	接触判定時	回避判定時
約1m～50cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。 ※ステアリング・ガイドマーク（矢印）が点灯します。
ブザーの鳴り方	ピッ、ピッ、ピッ（遅い断続音）	
約50～37.5cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。 ※ステアリング・ガイドマーク（矢印）が点灯します。
ブザーの鳴り方	ピッピッピッ（断続音）	
約37.5～25cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。 ※ステアリング・ガイドマーク（矢印）が点灯します。
ブザーの鳴り方	ピピピ（速い断続音）	
約25cm以内	※感知部の表示灯が赤色に点灯します。	
ブザーの鳴り方	ピー（連続音）	

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

●低速（約10km/h以下）で後退しているときに、障害物がデュアルソナー（コーナー）から約1m以内に感知されると、作動します。

ソナーと障害物との位置関係	接触判定時	回避判定時
約1m〜50cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。 ※ステアリング・ガイドマーク（矢印）が点灯します。
ブザーの鳴り方	ピッ、ピッ、ピッ（遅い断続音）	
約50〜37.5cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。 ※ステアリング・ガイドマーク（矢印）が点灯します。
ブザーの鳴り方	ピッピッピッ（断続音）	
約37.5〜25cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。 ※ステアリング・ガイドマーク（矢印）が点灯します。
ブザーの鳴り方	ピピピ（速い断続音）	
約25cm以内	※感知部の表示灯が赤色に点灯します。	
ブザーの鳴り方	ピー（連続音）	

後退しているときの障害物の感知について

シフトレバーを🅡にするとコーナーのみ障害物の感知を行います。

リヤコーナーソナー作動中は、表示灯とブザーが次のように作動します。

■**リヤコーナーソナー表示灯**

●低速（約10km/h以下）で後退しているときに、障害物がリヤコーナーソナーから約60cm以内に感知されると、作動します。

ソナーと障害物との位置関係	感知時
約60cm〜37.5cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。
ブザーの鳴り方	ピッピッピッ（断続音）
約37.5cm〜25cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。
ブザーの鳴り方	ピピピ（速い断続音）
約25cm以内	※感知部の表示灯が赤色に点灯します。
ブザーの鳴り方	ピー（連続音）

⚠注意 **後退するときは、必ず車両の後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**

リヤコーナーソナーは障害物へ約25cm以内に接近するおそれの有無、ハンドル操作による回避可能の判断を行っていません。後退するときは、必ず車両の後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

バックソナー作動中は、表示灯とブザーが次のように作動します。

■バックソナー表示灯

●低速（約10km/h以下）で後退しているときに、障害物がバックソナーから約1.5m以内に感知されると、作動します。

ソナーと障害物との位置関係	感知時
約1.5m～60cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。
ブザーの鳴り方	ピッ、ピッ、ピッ（遅い断続音）
約60cm～45cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。
ブザーの鳴り方	ピッピッピッ（断続音）
約45cm～35cm	※感知部の表示灯が赤色に点滅します。
ブザーの鳴り方	ピピピ（速い断続音）
約35cm以内	※感知部の表示灯が赤色に点灯します。
ブザーの鳴り方	ピー（連続音）

注意

後退するときは、必ず車両の後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

バックソナーは、障害物へ約25cm以内に接近するおそれの有無、ハンドル操作による回避可能の判断を行っていません。後退するときは、必ず車両の後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

障害物を車両前後の複数箇所で同時に感知したときのブザーの鳴り方

以下のようにブザー音がかわります。

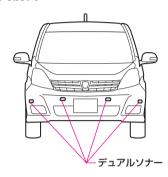
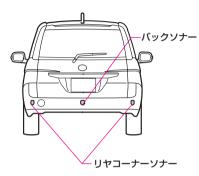
●すでに車両前方もしくは後方にて障害物をデュアルソナー、リヤコーナーソナーで約25cm以内、バックソナーで約35cm以内に感知している状態（ピー：断続音）で、新たにもう一方の部位で障害物を感知すると、ブザー音がピピピピピピ（断続音を6回）ピー（連続音）にかわり、約1.5秒周期で繰り返し鳴り続けます。

●すでに車両前方もしくは後方にて障害物をデュアルソナー、リヤコーナーソナーで約25cm以内、バックソナーで約35cm以内に感知している状態（ピー：断続音）で、新たにもう一方の部位もデュアルソナー、リヤコーナーソナーで約25cm以内、バックソナーで約35cm以内に障害物を感知すると、ブザー音がピピ（断続音を2回）ピー（連続音）にかわり、約0.5秒周期で繰り返し鳴り続けます。

下図は障害物を車両の左側前後で複数感知した場合の例です。

障害物を感知した距離	クリアランスソナー表示灯	ブザー音
25cm以内 25cm以上	点灯 SONAR 点滅	ピピピピピピ（断続音）ピー（連続音）ピピピ…（1.5秒周期）の繰り返し
25cm以内 25cm以内	点灯 SONAR 点灯	ピピ（断続音）ピー（連続音）ピピピー…（0.5秒周期）の繰り返し

センサー部

■車両前側

■車両うしろ側

感知可能範囲

※感知距離を変更することができます。（下記参照）

ソナーが感知できる範囲は、上図のように限られています。
必ず車両周辺（とくに車両側面など）、ソナー感知可能範囲外の安全を直接目で確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

知 識

感知の距離の変更について

デュアルソナー（フロント、コーナー）の感知距離を約1m、または約50cm、バックソナーの感知距離を約1.5m、または約60cmに変更することができます。
詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

車両を前進・後退するときは必ず車両周辺の安全を確認しながらゆっくり運転してください。

●ソナーの感知範囲、作動速度には限界があります。車両を前進・後退するときは、必ず車両周辺（とくに車両側面など）ソナー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくりと運転してください。

- ソナーの感知範囲は車両前部バンパー周辺、後部バンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなったり、感知できない場合があります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーがでるまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーがでる前に、障害物まで約25cm以内に接近するおそれがあります。
- 路面状況（雨、砂利など）により、制動距離が変化します。

●センサー部に泥や氷雪が付着すると、クリアランスソナー＆バックソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。センサー部についた異物を取り除いてください。

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取りつけないでください。クリアランスソナー＆バックソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

次の場合、装置が正常に作動しないことがあります。注意して運転してください。

●次の場合、装置が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
- ●センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）。
- ●センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）。
- ●センサーを手でふさいだとき。
  ※とくに低温時には凍結などにより異常表示が出る、障害物があっても感知しない場合があります。
  ※異常表示が出ている場合、まずセンサーの状態を確認してください。泥、氷雪がないのに異常表示が出る場合はセンサーの故障が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
- ●車両姿勢が大きく傾いたとき。
- ●炎天下や寒冷時。
- ●凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など。
- ●他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナー＆バックソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき。
- ●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき。
- ●市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車につけたとき。
- ●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき。
- ●標識等の物体によっては検知距離が短くなることがあります。
- ●バンパーの真下付近は感知しません。センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- ●センサーに障害物が近づきすぎると、作動しないことがあります。

●次のようなものは感知しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
- ●針金、フェンス、ロープなどの細いもの。
- ●綿、雪などの音波を吸収しやすいもの。
- ●鋭角的な形を持つもの。
- ●背が高く上部が張り出しているもの。
- ●背の低いもの。

注意　**次の場合、装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。**

●センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
●バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。早めに **トヨタ販売店**で点検を受けてください。
●メインスイッチをＯＮにしたときに作動表示灯が点灯しない、またはブザーが鳴らないときは、装置の故障が考えられます。 **トヨタ販売店**で点検を受けてください。
●障害物を感知していない状態で、クリアランスソナー表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったときは装置の故障が考えられます。 **トヨタ販売店**で点検を受けてください。
なお、低温時、センサー部に雪氷や泥が付着したときでもデュアルソナー表示灯、リヤコーナーソナー表示灯、バックソナー表示灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。センサー部についた異物を取り除いてください。
●ブザー音がしないのに表示灯が点灯したままのときは、装置の故障が考えられます。早めに **トヨタ販売店**で点検を受けてください。
●指定されていないサイズのタイヤを装着した場合。
●ハンドルの中立位置が正しく学習できなかった場合は、 **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知 識

ブザーの音量について

オーディオの音量や、エアコンの風量などにより、ブザーが聞こえにくい場合があります。その場合、ブザーの音量を調整することができますので、詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

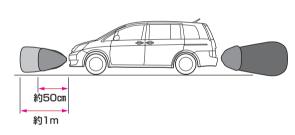
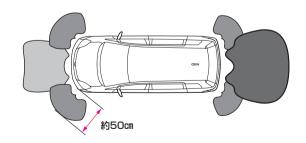
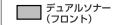
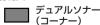
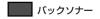
システムのセルフチェック機能について

システムの作動前に、下記のような異常がないかをあらかじめチェックします。

●表示灯やブザーの異常
●各ソナーの異常

ソナーによる感知距離が短くなる場合

下記のような場合は、デュアルソナー（コーナー）の障害物を感知する距離が変わります。（下記参照）このとき、障害物の約25cm以内に接近するおそれの有無、ハンドル操作による回避可能の判断は行いません。また、ステアリング・ガイドマーク表示灯（矢印）が点灯もしくは点滅します。（➲356ページ参照）

●バッテリー電圧の極端な低下などにより、車両情報が正しく得られないとき。
●ステアリングセンサーの異常を検出したとき。
●ステアリングセンサーの情報が正しく受信できない場合。
●デュアルソナー、リヤコーナーソナーのいずれか1つでも異常を検出したとき。
●ハンドルの直進状態が正しく検出できないとき。

ステアリングセンサー異常時の表示

■ステアリングセンサーの中間位置が不明のとき

バッテリーの脱着などでバッテリー端子を再接続したときは、ステアリングセンサーの初期化が完了するまで、ステアリング・ガイドマーク表示灯が点灯します。
この場合、次のどちらかの操作が必要となります。

ステアリング・ガイドマーク表示灯が点灯します。

- ●車を止めた状態で、ハンドルを左いっぱいにまわしたあと、右いっぱいにまわします。（左右どちらが先でも可）
- ●できるだけ曲り角・カーブなどがなく、渋滞していない道路を前進で5分間以上走行します。

ステアリング・ガイドマーク表示灯（矢印）が消灯すれば、ハンドルの直進状態（中立位置）の設定は終了です。
ステアリング・ガイドマーク表示灯（矢印）が消灯しないときは、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

■ステアリングセンサーに異常が発生しているとき

ステアリングセンサーに異常が発生したときはステアリング・ガイドマーク表示灯（矢印）が点滅します。**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

ステアリング・ガイドマーク表示灯が点滅します。

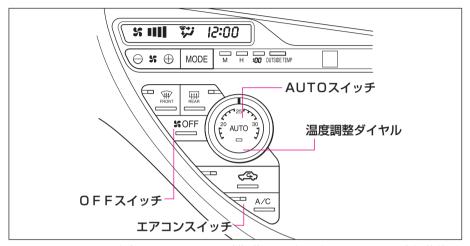
ステアリング・ガイドマーク表示灯（矢印）が点滅または点灯する場合

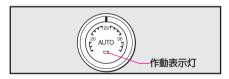
デュアルソナー（コーナー）の感知距離が短くなります。（➡355ページ参照）
詳しくは**トヨタ販売店**にご相談ください。

5 室内装備の取り扱い

エアコンの取り扱い

フロントエアコンの使い方

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

ＡＵＴＯスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口・風量が自動的に調整され設定温度となります。

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

温度を調整する

温度調整ダイヤルで調整します。上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。

●設定温度を１８℃～３２℃の間で調整することができます。

目次
警告
基本操作早わかり
運転する前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エアコンをＯＮにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

●作動を停止させることができます。

⚠注意　バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

●バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。
●エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをＯＦＦにしてから、もう一度ＯＮにしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチをＯＦＦにして**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。

●吹き出し口が または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。

●吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。

●吹き出し口が のとき、冬場などの窓ガラスが曇りやすいときには、自動的に に切り替わることがあります。

ＭＯＤＥスイッチ、またはファンスイッチを操作したときは

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているときに

●ＭＯＤＥスイッチ（➲364ページ参照）を操作したときは設定した吹き出し口になり、ＡＵＴＯスイッチの作動表示灯が消灯します。
（風量は自動調整を継続します。）

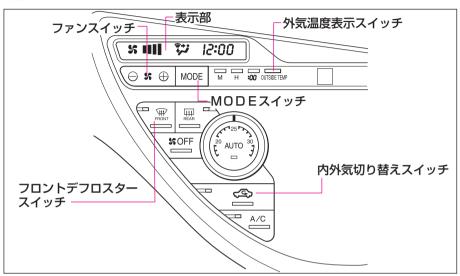
●ファンスイッチ（➲364ページ参照）を操作したときは設定した風量になり、ＡＵＴＯスイッチの作動表示灯が消灯します。
（吹き出し口は自動調整を継続します。）

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

お好みの状態にするには

各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファンスイッチで風量を4段階に切り替えます。
風量を強くするときは+側、弱くするときは−側を押します。

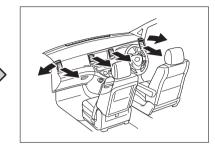
- 表示部に選択している風量が表示されます。
- ファンが停止しているときに、スイッチを押すと、ファンが作動します。

吹き出し口をかえる

ＭＯＤＥスイッチで吹き出し口を切り替えます。(➲次ページ参照)

- スイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。
- 表示部に選択している吹き出し口が表示されます。

■吹き出し口選択の目安

上半身に送風するときは

表示部の表示

上半身と足元に送風するときは

表示部の表示

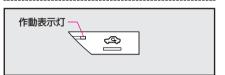
足元に送風するときは

表示部の表示

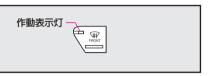
＊⇧はＡＵＴＯスイッチがＯＮのときのみ送風されます。

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

表示部の表示

外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えスイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。

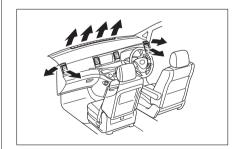
作動表示灯	モード
点灯	**内気循環** 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。
消灯	**外気導入** 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

ガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押し、内外気切り替えスイッチを外気導入にします。

●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。

●フロントデフロスタースイッチを押すとエアコンが自動的にＯＮになります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

＜吹き出し口＞

外気温度を表示する

外気温度表示スイッチ

OUTSIDE TEMP

●スイッチを押してすぐに手を離すと、表示部に外気温度が表示され、数秒後に時計表示に切り替わります。

●スイッチを約1秒以上押し続けると、外気温度が表示され続けます。
もう一度スイッチを押すと、時計表示に切り替わります。

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

エンジン停止中に作動させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

内外気切り替えについて

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る操作（➡366ページ参照）と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す。（ファンスイッチを操作する。）
●設定温度を上げる。（温度調整ダイヤルを操作する。）

外気温度表示について

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき表示させることができます。
●ほかの計測装置により、計測した外気温度とは異なることがあります。
●次の場合は、正しい外気温度が表示されないことがあります。
- 外気温度が約ー30℃以下、または約50℃以上のとき。
- 停車しているときや低速走行（約20km／h以下）しているとき。
- 外気温度が急激に変化したとき（トンネルの出入口付近など）。

●実際の外気温度が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。

ＰＴＣヒーターについて

寒冷地仕様車（2.0Ｌ車）

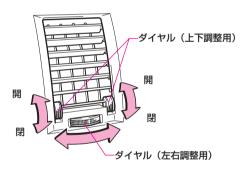
エンジン冷間時の暖房効果を高めます。
ファンが作動中、コンピューターが急速暖房が必要と判断した場合にＰＴＣヒーターが作動します。
エンジンが暖まると自動的に作動が停止します。

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

フロント吹き出し口の調整

左側吹き出し口
中央吹き出し口
右側吹き出し口

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

●ダイヤルをまわして、風向きの調整ができます。

知 識

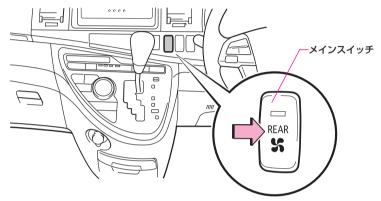
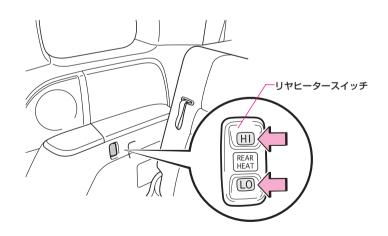
吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

リヤヒーターの使い方

寒冷地仕様車

操作部

■前席操作部

■後席操作部

エンジン停止中に作動させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

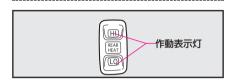
通常の使い方

リヤヒーターをONにする

メインスイッチを押します。

●作動中は、作動表示灯が点灯します。

●作動を止めたいときは、もう一度スイッチを押します。

風量をかえる

リヤヒータースイッチの上側（HI）を押すと風量が「強」になります。
スイッチの下側（LO）を押すと風量が「弱」になります。

●押した側のスイッチの作動表示灯が点灯します。

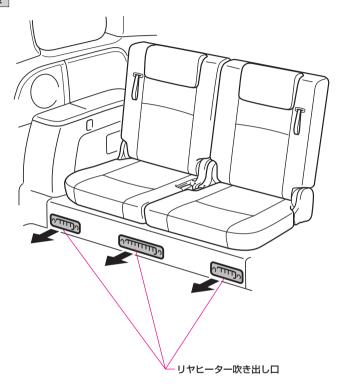
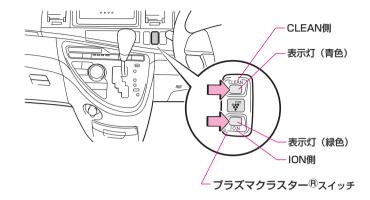
●停止するときは、スイッチを中立の位置にもどします。

知 識

メインスイッチについて

メインスイッチを押すことにより、リヤヒーターの作動・停止をすることができます。

リヤヒーター吹き出し口

寒冷地仕様車

プラズマクラスター®の使い方★

スイッチを押すと、下表のように作動します。

モード	スイッチ	表示灯	作動
クリーンモード	CLEAN 側を押します。	青色	同量のプラスイオンとマイナスイオンを放出して、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。
ＯＦＦ	中立の位置にします。	消灯	作動停止
イオンコントロールモード	ION 側を押します。	緑色	マイナスイオンの比率を高く放出して空気中のイオンバランスを整えます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告 **プラズマクラスター®イオン発生器は高電圧を利用しています。**

危険ですので、修理等は必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。

注意 **プラズマクラスター®の取り扱いについては、次の点にご注意ください。**

●プラズマクラスター®イオンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）には、スプレー（洗浄剤、整髪料など）の噴霧、また棒などの異物を挿入しないでください。故障の原因となります。
●運転席側吹き出し口付近に汚れが付着することがあります。この場合は、プラズマクラスター®イオンをＯＦＦにして清掃してください。
●プラズマクラスター®イオン発生器作動時には、微少な作動音が発生する場合がありますが、これはプラズマクラスター®イオン生成時に電子が電極に衝突する際に発生するもので、故障ではありません。

知 識

作動条件について

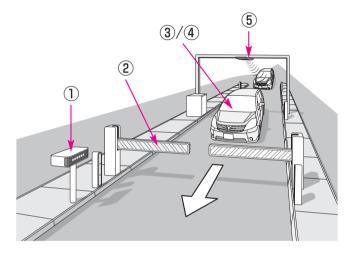
フロントエアコンのファンが作動中のとき使用できます。（➡361ページ参照）

プラズマクラスター®について

●エアコンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）からの送風にプラズマクラスター®イオンを含ませ、車内の空気質を整えます。
●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

ＥＴＣの取り扱い★

ＥＴＣシステムについて

ＥＴＣ（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。
路側無線装置と車両のＥＴＣユニットとの間で無線通信を行い、料金はお客様が登録した銀行口座から後日引き落とされます。

①路側表示器
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。進入車両に対し、適切に通行したかどうかなどのメッセージが表示されます。

②発進制御装置（開閉バー）
料金精算を確実にするために、料金所のＥＴＣレーンに必要に応じて設置されています。通過車両の発進を制御するもので、踏み切りの遮断機のようなものです。通信が正常に行われると開きます。

③ＥＴＣユニット
車両に装着されています。ＥＴＣカードに格納されている料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

④ＥＴＣカード
ＥＴＣユニットに装着します。ＩＣチップを搭載した、ＥＴＣ機器用カードのことです。ＥＴＣカードでは、このＩＣチップに料金精算に必要なデータが保持されています。

⑤路側無線装置
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。料金精算のため、車両のＥＴＣ機器との通信を行うためのアンテナです。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＥＴＣを利用する前に

ＥＴＣシステムを利用する際には、以下の点に注意してください。

安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き差し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。

安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き差し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

注意　サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

その他、ＥＴＣユニットを用いたサービス（スマートＩＣなど）には、様々な制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

ＥＴＣカードを挿入する前に

注意　ＥＴＣカードの有効期限切れにご注意ください。

ＥＴＣカードの有効期限切れにご注意ください。ＥＴＣカードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちのＥＴＣカードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

ＥＴＣカードを挿入したあとに

注意　ＥＴＣカードを確実に挿入し、正常に作動していることを確認してください。

●ＥＴＣを利用する際は、あらかじめＥＴＣカードが確実にＥＴＣユニットに挿入されていることと、ＥＴＣユニットが正常に作動していることを確認してください。
●ＥＴＣユニットがＥＴＣカードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前でのＥＴＣカードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

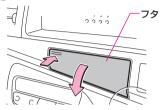
料金所を通過するときは

注意　ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20 km/h以下の安全な速度で進入してください。

●ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20 km/h以下の安全な速度で進入してください。
●ＥＴＣレーンに設置されている開閉バーは、ＥＴＣユニットと路側無線装置の間の通信、あるいはＥＴＣユニットとＥＴＣカードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますので、ご注意ください。
●ＥＴＣレーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

ＥＴＣの使い方

本書では、メーカーオプションのＥＴＣユニットの操作のみを説明しています。

ＥＴＣユニットについて

ＥＴＣユニットは、エアコン操作部の上側にあります。

●操作するときは、矢印部分を押してフタを開けてください。

はじめてＥＴＣシステムをご利用される前に、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きが必要です。トヨタ販売店にご相談ください。（セットアップ手続きには別途費用が発生します。）

注意　ＥＴＣユニットのアンテナ上方には物を置かないでください。

●通信のさまたげにならないよう、ＥＴＣユニットのアンテナ（インストルメントパネル中央から運転席付近に内蔵されています。）上方には物を置かないでください。
また、フロントガラスの汚れや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。
●ＥＴＣユニットの内部に異物などを入れないでください。ＥＴＣユニットが故障するおそれがあります。
●ＥＴＣユニットに衝撃を与えないでください。ＥＴＣユニットが故障、破損するおそれがあります。
●濡れた手でＥＴＣユニットに触れたり、水（液体など）を付着させないでください。ＥＴＣユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
●汚れたときは、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ＥＴＣユニットが変形・故障する場合があります。
●ETCユニットを使用していないときはフタを閉めておいてください。シフト操作をする時にフタに手や指が当たるなど、けがをするおそれがあります。また、急ブレーキをかけたときや衝突時に、フタに体が当たるなどのおそれがあり危険です。
●車両１台に対して複数のＥＴＣユニットを取りつけると、ゲートの開閉バーが開かない場合があります。

知 識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのときに使用できます。

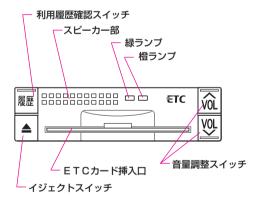
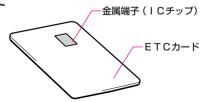
製品に貼られているシールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼りつけられているシールはその証明ですので、はがさないでください。また、本製品を分解・改造すると法律により、罰せられることがあります。

お車のナンバープレートを変更する場合は

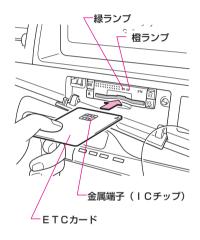
お車のナンバープレートが変更になった場合は、ＥＴＣユニットに変更手続きが必要となりますので、**トヨタ販売店**にご相談ください。

各部の名称

■ＥＴＣユニットについて

■ＥＴＣカードについて

注意　ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。

- ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。
- ＥＴＣカードには有効期限があります。有効期限内のＥＴＣカードをご利用ください。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってあるＥＴＣカードや、金属端子（ＩＣチップ）が汚れているＥＴＣカードは使用しないでください。ＥＴＣユニットが正常に作動しなくなったり、ＥＴＣカードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

使用するときは

■乗車時の操作

1 **エンジンを始動します。**

●ＥＴＣユニットの電源が入り、緑ランプと橙ランプが同時に点灯した後、しばらくすると消灯します。

2 **左図のように正しい挿入方向でＥＴＣカードをＥＴＣユニットにしっかりと挿し込みます。**

「ピッ」と音がして、緑ランプが点滅します。

3 **ＥＴＣカードを認証します。**

●正しく認証された場合

音声案内	「ポーン ＥＴＣカードが挿入されました」
ＥＴＣユニット	緑ランプが点灯したまま

ＥＴＣシステムは、この状態でご利用ください。

●正しく認証されなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（➡389ページ参照）を音声でお知らせします。

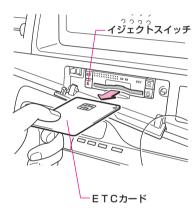
ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。

ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（➡389ページ参照）の記載にしたがって対処してください。

知識

ＥＴＣユニットについて

●橙ランプが点灯しているときは、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。
●有効期限切れや解約済みのＥＴＣカードは使用できません。これらのカードをＥＴＣユニットに挿入してもエラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

■降車時の操作

1 **停車させて、エンジンを停止する前にＥＴＣユニットのイジェクトスイッチを押します。**

●ＥＴＣカードを抜く前にエンジンを停止すると、カードの抜き忘れをお知らせする音声が出力されます。
（➡次ページ参照）

2 **ＥＴＣユニットからＥＴＣカードを抜きます。**

3 **エンジンを停止します。**

注意 **緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。**

●緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。
●ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅します。状況に応じて、次のように対応してください。
- 統一エラーコード（01～07）が音声出力された場合は、「統一エラーコード一覧」（➡389ページ参照）に記載されている処置にしたがってください。
- エンジン始動時にエラーが発生した場合は、いったんエンジンを停止させ、再度始動してみてください。それでもエラーが続くときは、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
- ＥＴＣカード挿入時にエラーが発生した場合は、いったんＥＴＣカードを抜き、挿入方向を確認して再度差し込んでみてください。それでもエラーが続くときは、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

●ＥＴＣカードを放置してお車から離れないでください。
車内の温度上昇により、ＥＴＣカードが変形したり、ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

■ＥＴＣの作動状態を知るには

ＥＴＣユニットの作動状態	ランプの点灯状態
●電源がＯＦＦのとき（エンジンが停止） ●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで、ＥＴＣカードが未挿入のとき	緑ランプ：消灯 橙ランプ：消灯
ＥＴＣが正常に作動しているとき ●ＥＴＣカードが正しく認証されたとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できたとき ●ＥＴＣゲートで正常に精算処理ができたとき	緑ランプ：点灯
ＥＴＣの作動に異常があったとき ●ＥＴＣカードとは種類の異なるカードを挿入したとき ●挿入したＥＴＣカードが正しく認識されなかったとき ●ＥＴＣシステムに異常があるとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できなかったとき ●ＥＴＣゲートで精算処理ができなかったとき ●ＥＴＣのアンテナに異常があるとき	橙ランプ：点滅
ＥＴＣがセットアップ手続きされていないとき	橙ランプ：点灯

■有効期限切れ通知

ＥＴＣと連動するナビゲーションシステムを装着されている場合、ＥＴＣカードを挿入したとき、またはＥＴＣカード挿入状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションON モードにすると、次のように有効期限切れ通知が行われます。ただし、装着されたナビゲーションシステムの機種によっては通知が行われない場合があります。

[有効期限当月の場合]

音声案内

「ポーン　ＥＴＣカードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」

画面表示

「ＥＴＣカードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」

[有効期限切れの場合]

音声案内

「ポーン　ＥＴＣカードの有効期限が切れています」

画面表示

「ＥＴＣカードの有効期限が切れています」

＊ エンジン始動後、すぐにＥＴＣカードを挿入すると音声案内および画面表示がされないことがあります。

有効期限切れＥＴＣカードでは開閉バーは開きません。

有効期限切れＥＴＣカードでは開閉バーは開きません。有効期限内のＥＴＣカードをご利用ください。

知 識

ＥＴＣカードの取り扱いについて

●ＥＴＣカードを放置してお車から離れないでください。ＥＴＣカードが盗難にあうおそれがあります。

●ＥＴＣカードを挿入しているときは、盗難を防止するためフタを閉めておくことをおすすめします。

●ＥＴＣカードを紛失してしまった場合は、すみやかにＥＴＣカード発行会社に連絡してください。

カード抜き忘れ警告について

●ＥＴＣカードを抜く前にエンジンを停止すると、ＥＴＣユニットから **「ピー　カードが残っています」** と音声が出力されます。

●カード抜き忘れ警告の音声を出力しないようにすることもできます。

- 音声を出力をさせない場合は、車を停車させ、ＥＴＣユニットにＥＴＣカードが挿入され緑ランプが点灯している状態で、「履歴」と「 VOL 」スイッチを同時に約2秒間押し続けます。操作をするごとに「音声出力する／音声出力しない」が切り替わり、選択した設定が保持される（設定が切り替わる）とＥＴＣユニットから **「ピッピッ」** と音がします。
- ＥＴＣユニットの音声案内を中止（音量0）に設定した場合は、**「ピー」** とブザー音のみ出

走行中の表示と音声案内について

走行中は、次のようにＥＴＣユニットのランプ表示と音声案内が行われます。ただし、安全のため運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。

■ＥＴＣゲート（入口）、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過します。

予告アンテナ／
ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ
ＥＴＣゲート（入口）・検札所
車両
車両
進行方向
緑ランプ
橙ランプ
履歴
ETC
VOL
VOL

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※	「ピンポン」

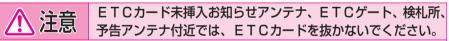
※ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。

●通信が正常に行われなかった場合

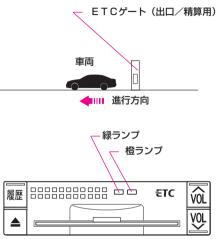
橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（➡389ページ参照）の記載にしたがって対処してください。

ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。

ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

知 識

ＥＴＣゲートを通過するときは

ＥＴＣカードが未挿入の状態で、予告アンテナやＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、**「ピー　ＥＴＣをご利用できません」**と案内されます。これはＥＴＣが利用できないことをお知らせするもので、ＥＴＣユニットが故障したわけではありません。

■ＥＴＣゲート（出口／精算用）を通過します。

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	「ピンポン」
音声案内	通行料金を通知

●通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（➡389ページ参照）の記載にしたがって対処してください。

注意　ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。

- ●ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。
- ●ＥＴＣゲート通過時は、ＥＴＣゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。
- ●ＥＴＣゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示にしたがってください。
- ●その他、道路事業者の発行する利用方法にしたがってください。
- ●必ず、ＥＴＣゲート（入口）で使用したＥＴＣカードで、ＥＴＣゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
- ●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。
  ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

知 識

通行料金の音声案内について

通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。

知 識

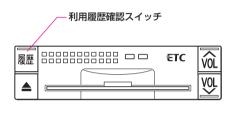
ゲート通過時の通知について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1つのゲートで2回通知されることがあります。

道路設備について

●予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、ＥＴＣゲートを利用できるかどうかをＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、正しくＥＴＣカードが挿入されていない場合にＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●予告アンテナ・ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

利用履歴の確認について

ＥＴＣユニットの利用履歴確認スイッチで、有料道路の利用日および通行料金が音声で確認できます。
ＥＴＣカードが挿入され、緑ランプが点灯した状態で、停車中に利用履歴確認スイッチを押すと、最新の利用履歴が音声で案内されます。

●利用履歴確認スイッチを押すごとに、古い利用履歴に切り替わります。なお、最も古い利用履歴の次は、最新の利用履歴に切り替わります。
●利用履歴案内終了後、約1秒以上利用履歴確認スイッチを押さないと、次にスイッチを押したときは最新の利用履歴から案内されます。

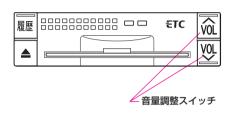
ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ付近では、利用履歴の確認を行わないでください。

ＥＴＣゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

利用履歴について

●利用履歴はＥＴＣカードに記録されるため、最大記録件数は使用するＥＴＣカードにより異なります。（最大100件）
●利用履歴の最大記録件数を超えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
●利用履歴がない場合は、**「利用履歴はありません」**と案内されます。
●利用日の情報が正しくない場合は、**「利用日付は不明です」**と案内されます。
●通行料金の情報が正しくない場合は、**「料金は不明です」**と案内されます。

音量調整について

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を調整することができます。

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を8段階に調整することができます。

音量を
●大きくするときはスイッチの VOL 側
●小さくするときはスイッチの VOL 側
を押します。

音量を調整すると、調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1〜8	「音量○○です」
0	「音声案内を中止します」

知 識

音量調整について

●音量調整は、以下のような案内に有効です。
- 未セットアップ状態の通知
- エラー発生時のブザー音
- カード抜き忘れ警告（➡383ページ参照）
- 利用履歴の確認
- 音量調整時の案内

●音量調整を中止（音量0）に設定してあっても、エラー発生時には音量1で出力されます。
●ＥＴＣユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ＥＴＣユニットを消音（音量0）にすると出力されません。

エラーコードについて

統一エラーコード一覧

エラーが発生すると、橙ランプが点滅するとともに統一エラーコードが音声出力されます。この場合は、以下の表にもとづき、処置をしてください。

（例）エラー03が発生したときは、次のように音声で案内されます。
音声案内：「ピッピッ　カードを読めません　エラー03」

コード	異常状態	想定される要因	処置
01	ＥＴＣカード挿入異常	●ＥＴＣカードが通信時に挿入されていない ●ＥＴＣカードの挿入状態が悪い	ＥＴＣカードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。
02	データ処理異常	●ＥＴＣカードへの読出し、書込みエラー ●ＥＴＣカードとユニットの接点不良（ＥＴＣカードアクセス中の瞬断） ●読出し中、書込み中カードのイジェクト	**ＥＴＣカード挿入時：** 挿入されたＥＴＣカードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。それでも異常のときは、トヨタ販売店へお問い合わせください。 **ＥＴＣゲート通過前：** 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。 **ＥＴＣゲート通過後：** 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 料金所係員のいる一般レーン（ＥＴＣ／一般共用レーンを含む）へ進入してください。
03	ＥＴＣカード異常	●ＥＴＣカードが故障している ●ＩＣカード以外のカードが挿入され、通信しない ●ＥＴＣカードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 それでも異常のときは、**トヨタ販売店**へお問い合わせください。

コード	異常状態	想定される要因	処置
04	ユニット故障	自己診断結果により、ユニットが故障している	再度エンジンを始動してみてください。それでも異常のときは、**トヨタ販売店**へお問い合わせください。
05	ＥＴＣカード情報の異常	●ＥＴＣカードとの認証エラー ●ＥＴＣカード以外のＩＣカードが挿入 ●認証中ＥＴＣカードのイジェクト ●未セットアップ状態でのＥＴＣカードの挿入	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 それでも異常のときは、**トヨタ販売店**へお問い合わせください。
06	ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。料金所係員の指示にしたがってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了	

知識

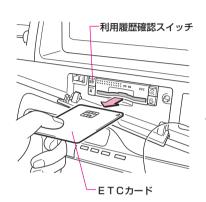
統一エラーコードについて

●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナなどと通信したときに、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。
●ＥＴＣユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。

ＥＴＣゲート通過後のエラー発生時は

ＥＴＣゲート通過後にエラーが発生した場合、ＥＴＣカードを抜くとエラー音が停止します。再度、ＥＴＣカードを挿入すると**「ポーン ＥＴＣカードが挿入されました」**の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

記録されているエラーコードを確認するには

ＥＴＣユニットは、最後に発生した統一エラーコードを記録しています。コードの確認をする場合は、次のように行います。

1 **ＥＴＣカードを抜きます。**

2 **利用履歴確認スイッチを約2秒以上押します。**

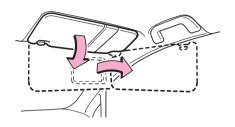
●最後に案内された統一エラーコードが音声で案内されます。

知識

音声案内について

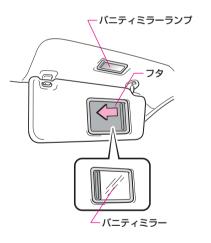
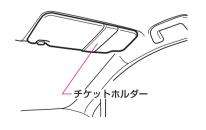
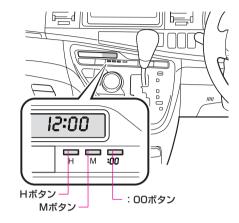
ＥＴＣユニットの音声案内を中止（音量0）に設定した場合は、音声案内されません。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

知 識

便利機能について

バニティ（化粧用）ミラー
サンバイザーの裏側にミラーがついています。
フタをスライドさせて使用します。
●バニティミラーランプ装着車は、フタをいっぱいまでスライドさせるとランプが点灯します。

運転席チケットホルダー
運転席サンバイザーの表側にあります。
チケットなどを収納できます。

時計

“時”“分”を調整するときは

Hボタンを押すと“時”、Mボタンを押すと“分”が早送りされます。

時報に合わせるときは

時報と同時に：00ボタンを押すと時報に合わせることができます。

●0 ～ 29分は切り下げられます。

●30 ～ 59分は切り上げられます。

(例) 1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。

知 識

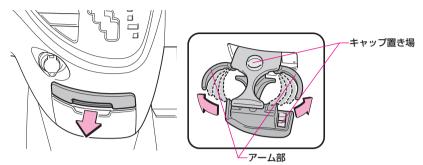
時計の表示について

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態がアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき、時刻が表示されます。

●秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。

- Mボタンを押して分を調整後、Mボタンから手を離したとき
- ：00ボタンを押したとき

カップホルダー

■フロント

使用するときは引き出します。
●アーム部は、ボトルの大きさに応じて4段階に調整できます。
●ペットボトルのキャップ置き場（2個分）があります。

■リヤ★

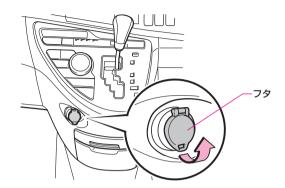
中央席背もたれを引いて手前に倒して使用します。

警告　カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときは収納してください。

注意　カップホルダーに手をついたりしないでください。

カップホルダーを破損から守るため、カップホルダーに手をついたりしないでください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

アクセサリーソケット

車内で電気製品を使用することができるソケットです。
使用するときはフタを開けます。

注意

アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水等がかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
● エンジンが止まった状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。

知 識

作動条件について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

アクセサリーソケットについて

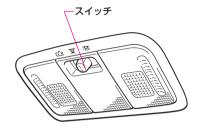
●使用する電気製品は、必ずＤＣ12Ｖで最大電流10Ａ（最大消費電力120W）以下の電気製品を使用してください。
●規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

室内灯

フロントパーソナルランプ

矢印の部分を押すと点灯します。

- 点灯中に、矢印の部分を押すと消灯します。

ルームランプ（フロント）

- スイッチが の位置のとき点灯します。
- スイッチが の位置のとき消灯します。
- スイッチが の位置のときは、ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。詳しくは「イルミネーテッドエントリーシステム」（153ページ参照）をご覧ください。

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

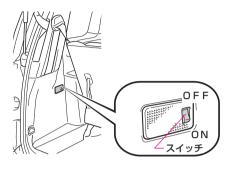
“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

ルームランプ（センター）

●スイッチがＯＮの位置のとき点灯します。

●スイッチがＯＦＦの位置のとき消灯します。

●スイッチがＤＯＯＲの位置のときは、ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。詳しくは「イルミネーテッドエントリーシステム」（➡153ページ参照）をご覧ください。

ラゲージルームランプ

●スイッチがＯＦＦの位置のときは消灯します。

●スイッチがＯＮの位置のときはバックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

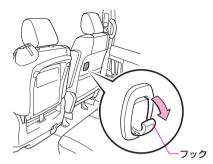
注意　**エンジン停止中に長時間点灯させないでください。**

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

買い物フック（運転席）

使用するときは、フックを引き起こします。
●買い物袋などを吊り下げておくことができます。

注意 重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。

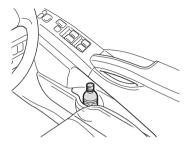
●重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。
最大荷重………………4kｇ

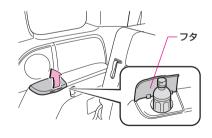
●フックを使用しないときは、格納しておいてください。
指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

ボトルホルダー★

フロントシート

ドア（両側）にあります。

セカンドシート

ドア（両側）にあります。

サードシート

クォータートリム（両側）にあります。
●使用するときは、フタを開けます。

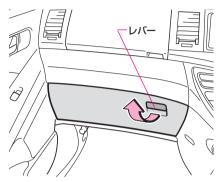
知識

ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから、収納してください。
●走行するとき、ドアを開閉するときは、ジュースなどがはいっている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

収納スペース

■グローブボックス

レバーを引いて開けます。

●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

■運転席ロアボックス

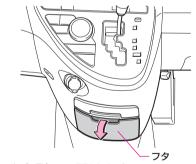
ツマミを下げて開けます。

●閉めるときは、フタを押して確実に閉めます。

■アッパーグローブボックス

凹部を持ち上げて開けます。

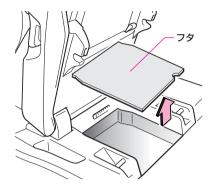
●閉めるときはそのままフタを下におろし確実に閉めます。

■センターロアボックス

フタを引いて開けます。

●閉めるときはフタを押して確実に閉めます。

⚠警告　収納スペースのフタを開けたまま走行しないでください。

収納スペースのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする
前に
運転をする
ときに
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■助手席アンダーフロアボックス

使用するときは、フタを取りはずします。

助手席アンダーフロアボックスに、大きな物を入れたまま、クッションを後方に倒さないでください。

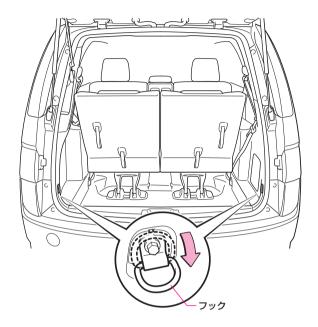
助手席アンダーフロアボックスに、ボックス凹面から飛び出すような大きい物を入れたまま、シートクッションを後方に倒さないでください。ボックスが破損するおそれがあります。

⚠注意

助手席シートをタンブルさせたときは、シートを軽くゆさぶり、確実に固定されているか確認してください。

●助手席アンダーフロアボックスを使用するときに助手席シートをタンブルさせたときは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されているか確認してください。固定されていないとシートが後方に倒れたときなどにセカンドシートの乗員が足を挟むなどしてけがをするおそれがあります。

●アッパーグローブボックス内にメガネやライターを放置したまま、車から離れないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起すことがあります。

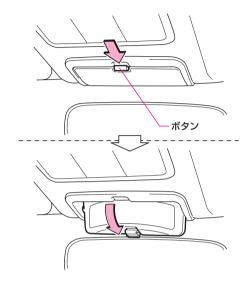
デッキフック

使用するときは、フック（2カ所）を起こします。

フックを使用しないときは、格納しておいてください。

フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

デッキフックについて

ネットやロープを併用して荷物を固定することができます。

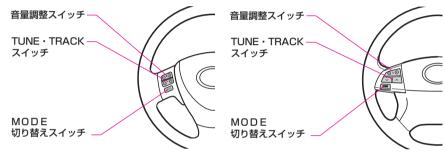
後席確認ミラー

ボタンを押してミラーを開きます。
●使用しないときはミラーを収納します。

後席確認ミラーは、走行中に使用しないでください。

走行中に使用するとわき見運転となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ステアリングスイッチ★

ハンドル左側にあるスイッチで、トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムやオーディオを操作することができます。
モードの切り替えや、CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。
●販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、商品に付属の各取扱書をご覧ください。

3本スポークステアリング　　4本スポークステアリング

電源を入れる

ＭＯＤＥ切り替えスイッチを押します。
スイッチを押し続けるとオーディオの電源がＯＦＦになります。
●装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

音量を調整する

音量を大きくするときは音量調整スイッチの＋側、小さくするときは－側を押します。
●スイッチを押してすぐに手を離すと、音量を1ステップずつ調整できます。
●スイッチを1秒以上押し続けると、音量を連続して調整できます。

安全運転に支障がないように適度な音量でお聞きください。

モードを切り替える

MODE切り替えスイッチを押します。

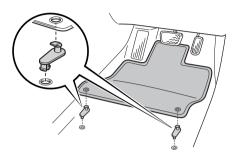
●電源がＯＮのときMODE切り替えスイッチを押すごとに（ＣＤ、ラジオなど）が切り替わります。

選局・選曲する

TUNE・TRACKスイッチを押します。

●スイッチを押して、お聞きになりたい放送局やCDなどで再生したい曲を選択します。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

警告

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

安全・快適装備の解説と注意

6

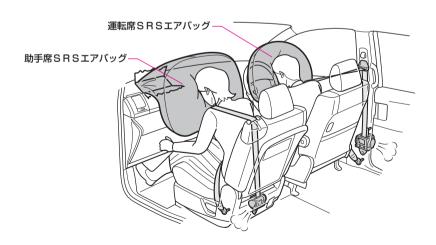
ＳＲＳ ※エアバッグ

ＳＲＳエアバッグとは？

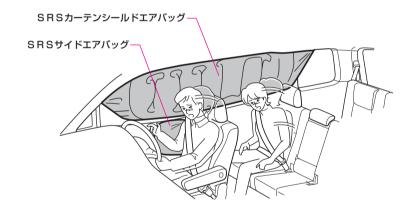
ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグとは？

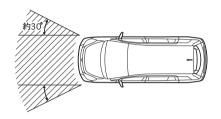
運転席ＳＲＳエアバッグ・助手席ＳＲＳエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散、緩和させる働きをするものです。
助手席ＳＲＳエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグとは？★

ＳＲＳサイドエアバッグは前席乗員、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは前後席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を側方から車両客室部に受けたときに、衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバッグ、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、ＳＲＳサイドエアバッグは前席乗員の胸などの上体に、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは前後席乗員のおもに頭部に作用する衝撃力を分散、緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグの作動のしくみ

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグの作動

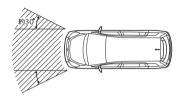
車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、運転席・助手席ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送りＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、運転席・助手席ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動★

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃はフロント・クォーター・センターピラーに取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

ＳＲＳエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

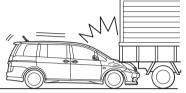
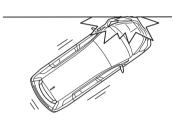
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しにくい場合

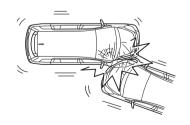
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合

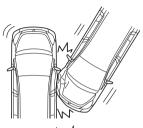
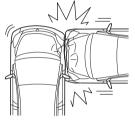
●衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約35km/h以下の場合

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合

●斜め前方から衝撃を受けた場合

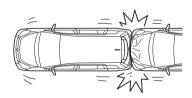
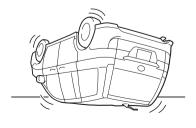
衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約60km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ★

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合

●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合

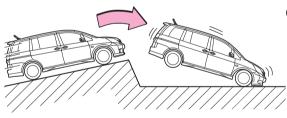
本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合
（運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ）

●車両が横転・転覆した場合

車両下部に衝突を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告 ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

乗車するときには必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、➡236ページをお読みください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

<運転者の方は>

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員の方は>

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。
シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整、正しい姿勢については➡192ページをお読みください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、ドアにもたれかかったり、フロント・センターピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされたり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。
  助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
  助手席サンバイザーに同内容の警告文があります。併せてご覧ください。
  （➡49ページ参照）
  なお、やむを得ず助手席に前向きに子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置を一番うしろにして取りつけてください。

- お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。**

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。

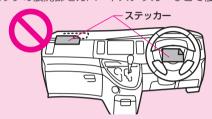
- ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理などが必要なときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロント・センター・クォーターピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし、取りつけなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

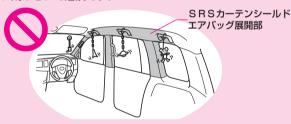
●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。

- インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロント・センターピラーおよびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイク・ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。

- 無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、**トヨタ販売店**にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、**トヨタ販売店**にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド・インストルメントパネル上部、フロントシート側面などなどＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。**

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

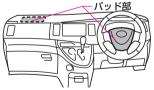
●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

●衝突時などに助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ず **トヨタ販売店**で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部およびフロント・センターピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず **トヨタ販売店**で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給が停止され、燃料漏れを最小限におさえます。燃料の供給は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを一度ＯＦＦにもどすと開始されますが、エンジンを再始動する場合は、車両の下を点検し、燃料漏れのないことを確認してください。万一、燃料漏れをしている場合は、絶対に再始動をしないで、 **トヨタ販売店**などにご連絡ください。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー＆フォースリミッター付 シートベルト

フロントシートベルト

- ●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
- ●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルト

3点式シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

警告 **プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。**

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、プリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用する。(➡236ページ参照)
- シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。(➡192ページ参照)

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ず **トヨタ販売店**で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、シートベルトがロックされ、引き出すことも巻き取ることもできなくなります、作動後、シートベルトは再使用することができないため、必ず **トヨタ販売店**で交換してください。

注意 **車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ず トヨタ販売店にご相談ください。**

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

知 識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。
次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。
●コンクリートの壁に約30km/h以下の速度で正面衝突したとき。
なお、次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。
●側面や後方から衝撃を受けたとき。
●車両が横転、転覆したとき。

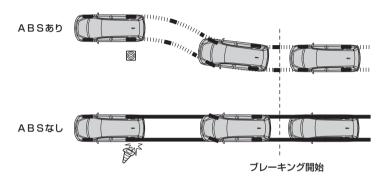
作動後について

プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ＥＢＤ※1付ＡＢＳ※2＆ブレーキアシスト

ＡＢＳ、ブレーキアシストとは？

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、
●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
などのブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ドライバーのペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。

ドライバーの踏力での制動力 ＋ ブレーキアシストの制動力 ＋ ＡＢＳの効果 ＝ ブレーキ性能の十分な発揮

※1 ＥＢＤは、Electronic Brake force Distribution（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）の略で「電子制動力配分制御」の意味。

※2 ＡＢＳは、Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳ、ブレーキアシストについて

ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。
また、ＡＢＳは車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、➡77ページの「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＡＢＳやブレーキアシストが作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳやブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ速く、強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む。

踏み続ける。

ゆるめたり、ポンピングはしない。

作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ＡＢＳの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

ＶＳＣ装着車

ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。

ＶＳＣ装着車を除く

ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤ※の働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、4輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。

警告　ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。**
ＥＢＤ付ＡＢＳが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。
  ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。**
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●**ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。**

知 識

作動条件について

●ＡＢＳ、ブレーキアシスト（ＶＳＣ装着車）は、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

●エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
●ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。（ＶＳＣ装着車を除く）

※ ＥＢＤは、Electronic Brake force Distribution（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）の略で「電子制動力配分制御」の意味。

ＶＳＣ・ＴＲＣ★

ＶＳＣ※とは？

4WD車

ＶＳＣは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、➡77ページの「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告 ＶＳＣを過信しないでください。

ＶＳＣを過信しないでください。ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（➡305ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

●ＶＳＣは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。

●ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯（➡311ページ参照）が点灯しているときは、ＶＳＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

※ Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

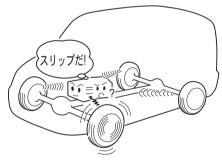
TRC※とは？

TRCの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し、エンジンに対して出力を一瞬下げるようにし、また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。

- ＴＲＣが作動すると、スリップ表示灯（➡305ページ参照）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

TRCのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取りつけられたセンサーからの信号を比較し、いずれかの信号のみほかの車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

※ Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

TRCとタイヤの関係について

TRCは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断したりします。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、➡77ページの「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告 **TRCを過信しないでください。**

TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（➡305ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

●通常は（“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると）、TRCが作動可能状態になります。
●VSC警告灯（➡314ページ参照）が点灯しているときは、TRCは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

アクティブトルクコントロール4WD

アクティブトルクコントロール4WDとは？

4WD車

コンピューターにより、通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、ＦＦ走行状態から直結4WD走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性と走行安定性の確保に貢献するとともに、良好な燃費性能を実現した4ＷＤです。

●4WDオートモードスイッチをＯＮにすると制御を行います。スイッチについては、➡340ページの「4WDオートモードスイッチの使い方」を参照してください。

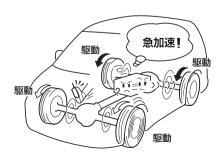
アクティブトルクコントロール4ＷＤの取り扱い上の注意が➡69ページの「4ＷＤ車についての注意」に記載されています。よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

4WD走行

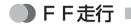
4WDオートモードスイッチがＯＮのときに作動します。

■安定走行（ほぼＦＦ走行）

安定走行（平坦な郊外の道路を一定の速度で走行しているときなど）は、ほぼＦＦ状態で走行します。

■加速時や雪道などの走行（4ＷＤ走行）

コーナリング時や登坂時、発進時、加速時、雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、最適な駆動力（トルク）を後輪へ配分し、ＦＦ走行から4ＷＤ走行までを自動的に制御します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＦＦ走行

4WDオートモードスイッチがＯＦＦの状態です。
より燃費のいい走行が可能です。

タイヤについて

アクティブトルクコントロール4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、➡77ページの「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
  - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（➡463ページ参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（➡499ページ参照）

トランスミッション

Super ＣＶＴ-ｉとは？

Super　ＣＶＴ-ｉは、無段変速システムやロックアップシステム、登降坂変速制御システムとの統合制御などにより、なめらかで快適な走行と燃費性能を両立させた電子制御無段変速機です。

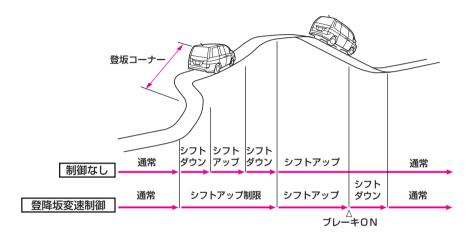
無段変速システムの働き

無段変速システムは、一対のプーリーと金属ベルトによって無段に変速を行います。そのため、変速ショックの少ないスムーズな走行が可能です。
また、エンジンの出力を効率よく引き出すことができるため、優れた低燃費性を実現しています。

ロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
●シフトレバーが7速スポーツシーケンシャルシフトマチック非装着車ではⒹまたはⓈ・Ⓑ、7速スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車ではⒹまたはⓂにあれば、自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーをⒹまたはⓈにして走行しているときに登坂していると判断された場合、シフトアップを制限し、スムーズな走行を実現します。
また、降坂時では降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的にシフトダウンしエンジンブレーキがかかります。

走行中、エンジン警告灯（➡317ページ参照）が点灯したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられます。

ディスチャージヘッドランプ★

ディスチャージヘッドランプとは？

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

警告 **ディスチャージヘッドランプを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。**

ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ず**トヨタ販売店**にご相談ください。
電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知 識

オートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

● 荷物の積みおろし時などの車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。
●エンジンを始動してはじめてヘッドランプを点灯したとき、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、これはシステムが正常に作動している現象で異常ではありません。

ディスチャージヘッドランプのシステム異常時について

システムの異常により電圧がディスチャージヘッドランプの作動電圧範囲からはずれた場合は、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
●点灯中に作動電圧範囲からはずれた場合は消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
●点灯操作をするときに作動電圧範囲からはずれている場合は、ライトスイッチを操作しても点灯しません。

盗難防止システム

盗難防止システムとは？

車両の盗難防止のために、電子キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録された電子キー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

●電子キーに登録された信号は車ごとに異なります。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすると、システムが作動し、セキュリティ表示灯（➡303ページ参照）が点滅します。
●登録された電子キーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。
●車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

⚠注意　故障を防ぐために次のことをお守りください。

●電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。
- 電子キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
- 電子キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。

●盗難防止システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

知識

メンテナンスについて

盗難防止システムのメンテナンスは不要です。

7 車との上手な付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告 **すべりやすい路面では、慎重に運転してください。**

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

警告 **冠水した道路を走行しないでください。**

冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ず **トヨタ販売店**で下記の項目などを点検してください。

●ブレーキの効き具合。
●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
●プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。(➡498ページの「推奨するエンジンオイル」参照)

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

冷却水の濃度を調整するときは、次のことに注意してください。

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

●タイヤを取り替えるときは、必ず➡77ページの「タイヤについての注意」を参照してください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。 **トヨタ販売店**で各車指定のブレードをお求めください。
●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

運転する前に

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。

注意 **ガラスに付いた氷を除去するときは次のことに注意してください。**

フロントウインドゥガラスに付いた氷を除去するために、たたいて割らないでください。
フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ランプ類についた雪や霜は

ランプ類についた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にもときどき点検してください。

足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”のつく操作はしない

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

警告　エンジン回転数の急激な変化は、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ず➡77ページの「タイヤについての注意」を参照してください。

警告　冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
●タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

■タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。

シフトレバーをⓅにし、エンジンを止めます。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。

（➡506ページの「ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

●輪止めについては、**トヨタ販売店**にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 ホイールキャップ装着車は、ホイールキャップをはずします。

（➡517ページの「タイヤ交換のしかた」参照）

⚠警告　タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、30km／hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので慎重に運転してください。

⚠注意　タイヤチェーンを取りつけるときは、ディスクホイールやホイールキャップに傷をつけないよう注意してください。

●スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくことがあります。

●アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけるとディスクホイールに傷がつくことがあります。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

⚠警告　エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにします。

●輪止めについては **トヨタ販売店**にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

⚠警告　必ず輪止めをしてください。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする
前に
運転をする
ときに
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

経済的な運転

環境に配慮した経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。
5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65ccの節約。
▶CO_2 約420g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。
10kgの荷物をおろして50km走ると、ガソリン約15ccの節約。
▶CO_2 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。
空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6ccの節約。
▶CO_2 約1150g削減（300回／月）

エアコンは少し控えめに。
エアコンを6分間停止して、ガソリン約70ccの節約。
▶CO_2 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。
適正値で50km走ると50kPa｛0.5kg/㎠｝減のときに比べて、ガソリン約150ccの節約。
▶CO_2 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。
急発進を1回やめてガソリン約17cc、急加速を1回やめて約11ccの節約。
▶CO_2 約360g削減（各20回／月）

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

経済速度でロスなし走行。
一般道路で40～50km/h、高速道路では80km/hがベスト。
100km/hを80km/hにして、燃費が約10～30%向上。
●法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば下り坂、減速
早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも
アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、低燃費となります。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務づけられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は､冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は**トヨタ販売店**にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充てんをしてください。

8 メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に1度はワックスがけを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

注意 **塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。**

●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
- ・海岸地帯を走行したあと
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
- ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、科学物質などの落下が多い場所を走行したあと
- ・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナは取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
●ときによりブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
●リヤスポイラー装着車は、洗車機によってはスポイラーがひっかかり洗車できない場合や、傷ついたり破損するおそれがあります。

高圧洗車機を使うときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、車内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行います。

警告

エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。
ブレーキ装置内に水が入ると凍結して、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり走行できなくなる場合があります。

●洗車後はブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。
ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。

●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。

●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。

●目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。

※素地部＝塗装されていないドアミラーなどの樹脂部分。

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告 **車内に水をかけないでください。**

- 車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。前席フロアにＳＲＳエアバッグの配線があるため、水がかかるとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあり危険です。また、オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意 **クリーナーに含まれる成分に注意してください。**

- 内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
- 芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- バックドアガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
- ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

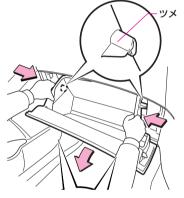
エアコンガス（冷媒）の点検

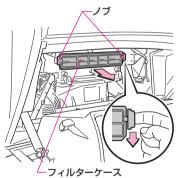
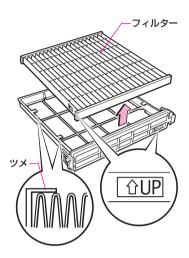
冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充をしてください。

クリーンエアフィルターの交換

1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにします。

2 グローブボックスをはずします。

グローブボックスを開け、側面を内側に押して上部のツメを片方ずつはずし、グローブボックスを軽く手前に引きながら徐々に下げます。

3 フィルターケースをはずします。

フィルターケースの左右にあるノブを手前に引いて、フィルターケースを取りはずします。

4 **フィルターを交換します。**

取りはずしたフィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

●フィルターケースのツメにフィルターを確実に取りつけます。

●フィルターを取りつけるときは、「⇧UP」のマークの矢印が上になるようにして取りつけます。

5 **フィルターケースを取りつけます。**

フィルターケースにある「⇧UP」の矢印が上になるように確実に取りつけます。

6 **グローブボックスを取りつけます。**

グローブボックス下部のツメがはずれてしまっているときは、切り欠きをシャフトの面に合わせてはめ込み、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片方ずつはめて、グローブボックスを閉めます。

⚠注意　エアフィルターの清掃・交換は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。

●エアフィルターの清掃・交換は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
●エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
●エアフィルターの清掃は必ずエアブローにより、裏面から行ってください。
水洗いやブラシでこすっての清掃は行わないでください。
●エアフィルターの裏と表を間違えないように、フィルターケースに確実にを取りつけてください。
●必ずエアフィルターを装着した状態でエアコンを使用してください。エアフィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

知識

エアフィルターの清掃・交換について

エアコンにはエアフィルターが取りつけられています。
快適にお使いいただくため定期的な清掃・交換をおすすめします。
エアフィルターの交換は、お客さまご自身で交換することもできますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、**トヨタ販売店**での交換をおすすめします。
エアフィルターについては**トヨタ販売店**にご相談ください。

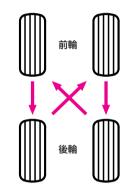
清掃の目安……………………………**15,000km【7,500km】ごと。**
交換の目安……………………………**30,000km【15,000km】ごと。**
【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

タイヤローテーション

タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

●タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表（➡489ページ参照）、またはメンテナンスデータ（➡499ページ参照）でご確認ください。

⚠警告 タイヤローテーションをしたあとは、指定空気圧に調整してください。

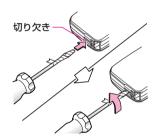
タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。
とくに16インチホイール装着車は、前後のタイヤで指定空気圧が異なるため、タイヤローテーションを行ったあとに必ず指定空気圧に調整してください。
指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

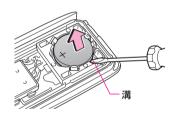
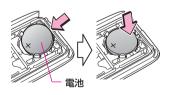
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

⚠注意 日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。
（➡77ページ「タイヤについての注意」参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ディスクホイール取りつけナットを交換するときは、**トヨタ販売店**にご相談ください。（➡90ページの「その他の注意」参照）

キーの電池交換

1 メカニカルキーを取り出します。
ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを引き出します。

2 キーカバーをはずします。
市販のマイナスドライバーの先端を電子キーの切り欠きに差し込み、ひねりながらカバーをはずします。
●傷つき防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

3 電池をはずします。
市販の精密ドライバーなどを溝に挿入し、電池を取り出します。

4 新しい電池を取りつけます。
電池を斜めに挿入し、上から押さえつけ、確実に取りつけます。
●電池の⊕側を上にして取りつけます。

5 キーカバーを取りつけます。

6 メカニカルキーを取りつけます。

7 作動確認をします。
いずれかのスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

●電池交換時にはネジなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
●電池以外の部品に触れたり、動かしたりしないでください。
●電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
●電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
●基盤などの内部部品を取り出さないでください。

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ1632
電池は **トヨタ販売店**、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

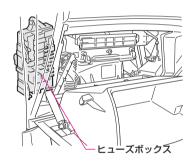
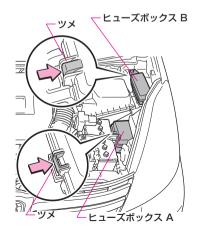
電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、 **トヨタ販売店**での交換をおすすめします。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。
●ヒューズについては トヨタ販売店にご相談ください。

ヒューズの点検・交換のしかた

1 "エンジン スタート ストップ" スイッチをＯＦＦにします。

2 ヒューズボックスを開けます。

■助手席側ヒューズボックス
点検・交換前にグローブボックスをはずす必要があります。グローブボックスのはずし方については、➡460ページの「エアコンの手入れ」をご覧ください。
●ヒューズラベルがグローブボックス裏面に表示してあります。

■エンジンルーム内ヒューズボックス
カバー横のツメを押しながらカバーを持ち上げ、カバーをはずします。
●ヒューズラベルがカバー裏面に表示してあります。

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

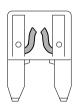
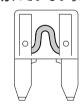
4 ヒューズを交換します。

ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。

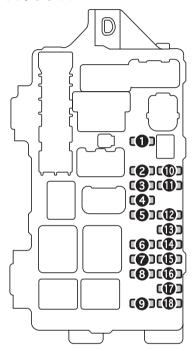
●以下の場合は **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

- 取り替えても再びヒューズが切れるとき。
- 取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

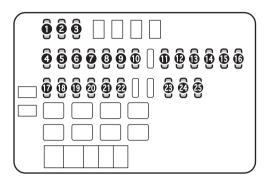
切れた状態

切れていない状態

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

ヒューズの受け持つ装置

■助手席側ヒューズボックス

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＩＧＮ	10A	イグニッション
❷	ＴＡＩＬ1	15A	尾灯
❸	ＦＲ ＦＯＧ	15A	フロントフォグランプ
❹	ＡＭ 1	25A	“エンジン スタート ストップ”スイッチ
❺	ＴＡＩＬ2	7.5A	尾灯
❻	ＲＲ ＷＩＰＥＲ	15A	リヤワイパー
❼	Ｐ－ＰＯＩＮＴ	15A	アクセサリーソケット
❽	Ａ／Ｃ	7.5A	エアコン
❾	ＡＣＣ	7.5A	オーディオ
❿	ＴＡＩＬ3	7.5A	尾灯
⓫	ＦＲ ＤＥＦ	20A	フロントワイパーデアイサー
⓬	ＲＲ Ｐ／Ｗ	30A	パワーウインドウ
⓭	ＤＯＯＲ	25A	電気式ドアロック
⓮	ＷＩＰＥＲ	20A	ワイパー＆ウォッシャー
⓯	ＥＣＵ－ＩＧ	10A	ＡＢＳコンピューター
⓰	ＲＲ ＤＥＦ	25A	リヤウインドゥデフォッガー
⓱	ＧＡＵＧＥ	10A	後退灯
⓲	ＳＴＯＰ	7.5A	制動灯

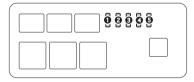
＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■エンジンルーム内ヒューズボックスA

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ACC－B	25A	アクセサリーソケット
❷	DOOR	25A	電気式ドアロック
❸	RR HTR	15A	リヤヒーター
❹	AM2 NO.2	7.5A	“エンジン スタート ストップ”スイッチ
❺	ECU－B2	10A	スマートエントリー&スタートシステム
❻	ETCS	10A	エンジンコンピューター
❼	TURN－HAZ	10A	方向指示灯、非常点滅灯
❽	HORN	10A	ホーン
❾	IG2	15A	エンジンコンピューター
❿	IGT/INJ	15A	エンジンコンピューター
⓫	STR LOCK	20A	ステアリングロック
⓬	EFI MAIN	20A	エンジンコンピューター
⓭	DOOR NO2	25A	電気式ドアロック
⓮	PBD	30A	パワーバックドア
⓯	SHORT	－	－

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
⑯	AM2	30A	“エンジン スタート ストップ”スイッチ
⑰	PSD RH	30A	パワースライドドア（右）
⑱	PSD LH	30A	パワースライドドア（左）
⑲	H－LP RH	15A	右側ヘッドランプ
⑳	H－LP LH	15A	左側ヘッドランプ
㉑	EFI NO.1	10A	エンジンコンピューター
㉒	EFI NO.2	10A	エンジンコンピューター
㉓	ECU－B	10A	メーター、エンジンコンピューター
㉔	DOME	10A	ルームランプ、ラゲージルームランプ
㉕	RAD NO.1	20A	オーディオ

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

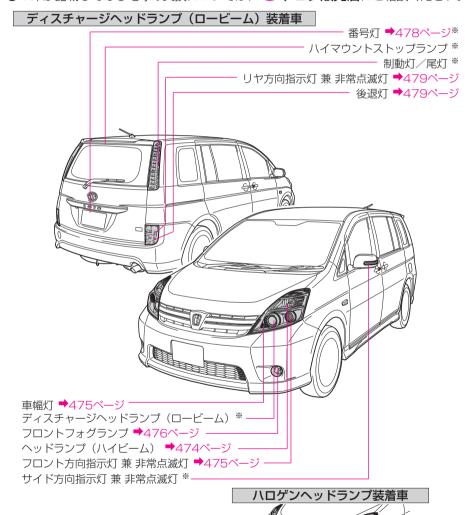
■エンジンルーム内ヒューズボックスB

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	H－LP LH LWR	15A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
❷	H－LP RH LWR	15A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
❸	H－LP LH UPR	10A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
❹	H－LP RH UPR	10A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
❺	4WD	10A	4WDコンピューター

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告 **電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。**

電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

注意 **電球は十分注意して取り扱ってください。**

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
●必ず同じワット数の電球を使用してください。(➡495ページ参照)
●電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。

知識

ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、**トヨタ販売店**にご相談ください。

ヘッドランプ

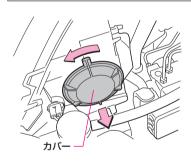
ハイビーム

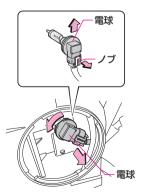
■取りはずしかた

ボンネットを開け、電球を矢印の方向にまわして取りはずし、ノブを押しながら電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときと逆の手順で取りつけます。

ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

■取りはずしかた

1 ボンネットを開け、カバーを矢印の方向にまわして取りはずします。

2 電球を矢印の方向にまわして取りはずし、ノブを引きながら電球を抜き取ります.

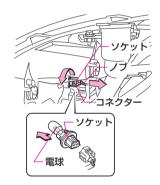
■取りつけかた

取りはずしたときと逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

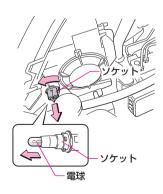
ロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）の電球を交換をするときは、必ず トヨタ販売店にご相談ください。

ロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）の電球を交換するときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。ディスチャージヘッドランプの電球を交換するときに誤って点灯操作などをすると、瞬間的に20,000Ｖの高電圧が発生するため、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずしかた

1 ボンネットを開け、ノブを押してソケットからコネクターを取りはずします。

2 ソケットを矢印の方向にまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

車幅灯

■取りはずしかた

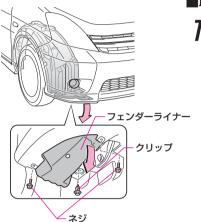
ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして取りはずし、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときと逆の手順で取りつけます。

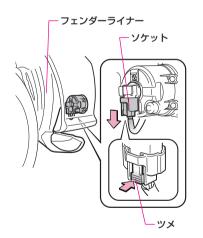
※ 図は運転席側で説明しています。

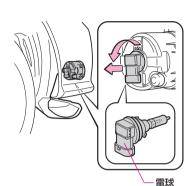
フロントフォグランプ

フロントフォグランプ装着車

■取りはずしかた

1 ネジとクリップをはずし、フェンダーライナーをずらします。

ネジ（2本）とクリップ（1本）をはずし、フェンダーライナーとバンパーの間から手が入れられるように、フェンダーライナーをうしろ側へずらします。

●バンパー側固定部はクリップにより固定されており、ネジをはずすとクリップが取れることがあります。

2 ツメを押して電球からソケットを取りはずします。

※ 図は運転席側で説明しています。

3 電球を矢印の方向にまわして取り出します。

※ 図は運転席側で説明しています。

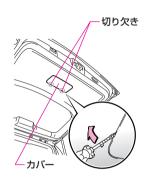
■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

注意

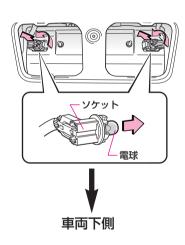
フロントフォグランプの電球を交換するときは、けがなどをしないよう十分に注意してください。

めくったフェンダーライナーとバンパーとの隙間に手を入れて作業するときは、フェンダーライナーやボディの角などで手を切らないよう軍手などを着用し、けがをしないよう注意してください。

番号灯

■取りはずしかた

1 バックドアを開け、カバーを取りはずします。

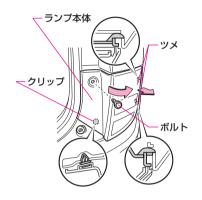
カバーの切り欠きにマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

●カバーの傷付きを防止するため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 電球を取りはずします。

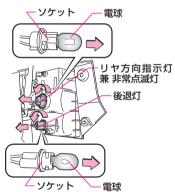
ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときと逆の手順で取りつけます。

リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯／後退灯

■取りはずしかた

1 バックドアを開け、ボルトを取りはずします。

2 ランプ本体を矢印の方向に回転させながら、クリップおよびツメのかん合をはずします。

3 ランプ本体から電球を交換したい方のソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときと逆の手順で取りつけます。

ランプ本体のクリップが固くてはずれないときは、無理に取りはずさずにトヨタ販売店にご相談ください。

ランプ本体のクリップが固くてはずれないときは、無理に取りはずさずに **トヨタ販売店** にご相談ください。ランプ本体はクリップでしっかりと固定されているため、取りはずすときにランプ本体を無理に回転させると、ランプ本体を損傷させたり思わぬけがをするおそれがあります。

※ 図は運転席側で説明しています。

日常点検

日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

- 基準値については、➡494ページの「メンテナンスデータ」を参照してください。
- 点検方法および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

冷却水リザーバータンク（ラジエーター補助タンク） ➡484ページ

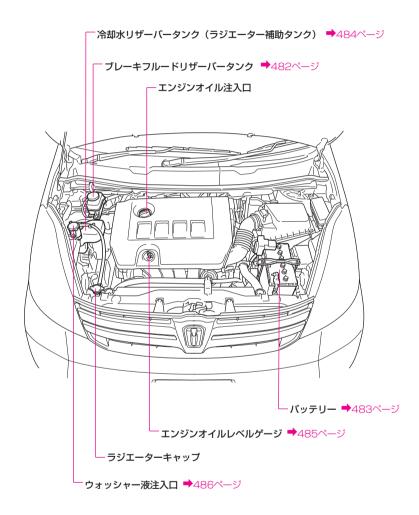
ブレーキフルードリザーバータンク ➡482ページ

エンジンオイル注入口

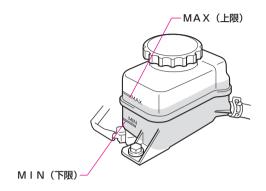
バッテリー ➡483ページ

エンジンオイルレベルゲージ ➡485ページ

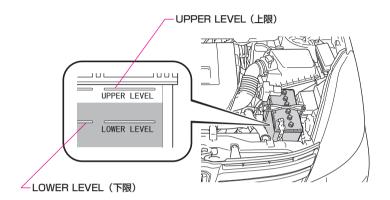
ラジエーターキャップ

ウォッシャー液注入口 ➡486ページ

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。

万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

ブレーキフルードの量を定期的に点検してください。

ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

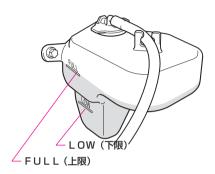
注意　バッテリー液の量を定期的に点検してください。

バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

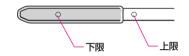
知識

バッテリーについて

UPPER LEVEL・LOWER LEVELの表示は搭載されるバッテリーにより、意匠・表示されている場所が異なります。

冷却水の量

冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

注意	冷却水の量を定期的に点検してください。

冷却水の量が不足していると、ラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。
また、水のみで使用していると寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ず冷却水を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

警告

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを停止してください。
- ●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

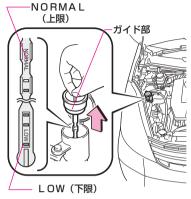
●エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。
●エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

注意

エンジンオイルは定期的に点検・交換してください。

●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
- ●エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

●エンジンオイルオイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
●エンジンオイルオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように布などを当てて点検してください。
万一、エンジンオイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャー液注入口のキャップを開け、液面がＮＯＲＭＡＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあることを、ガイド部についているレベルゲージで確認します。

●液面がＬＯＷに近づいたらウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するには

1　キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2　ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ガイド部をもとにもどし、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

警告　エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

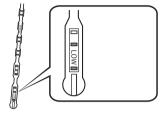
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意　ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。

塗装のしみになるおそれがあります。

知識

ゲージの使い方

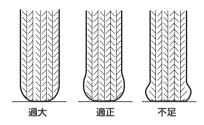
ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

リヤワイパーのウォッシャー液の補給

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、➡77ページの「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態で、タイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）をみて、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

警告　必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

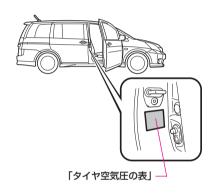
知識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（➡499ページ参照）でご確認ください。

●スペアタイヤも点検してください。

●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。

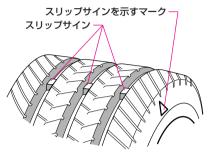
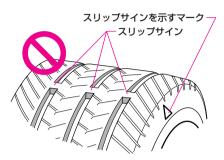
●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤのき裂・損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

警告　タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかに **トヨタ販売店**で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※

〈例：スリップサインが出ている状態〉※

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現れていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※ 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

警告 **摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。**

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。

ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

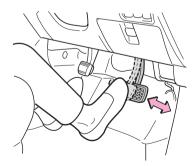
運転席に座っての点検

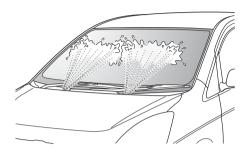
パーキングブレーキの踏みしろ

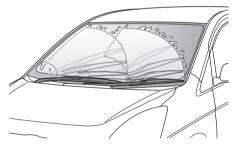
パーキングブレーキペダルが止まるまでゆっくりと踏み、“カチカチ”音が基準値の範囲（➡494ページ参照）で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射状態を点検します。

ワイパーの払拭状態

ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

⚠注意	フロントワイパーアームを立てるときは、必ず助手席側のワイパーアームから立ててください。
洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、フロントワイパーアームを立てるときは、必ず助手席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、運転席側のワイパーアームからもどしてください。	

灯火装置・方向指示器の作用

各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

警告 **警告音が発生したまま走行しないでください。**

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちに **トヨタ販売店**で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

点検基準値

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th>メンテナンスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ブレーキペダル</td><td colspan="2">遊び［mm］（負圧なしの状態）</td><td>1～6</td></tr>
<tr><td rowspan="2">踏み込んだときの
床板とのすき間
［mm］
〔踏力500N｛50kgf｝〕
（エンジンＯＮの状態）</td><td>2.0Ｌ車</td><td>95以上</td></tr>
<tr><td>1.8Ｌ車</td><td>90以上</td></tr>
<tr><td>パーキング
ブレーキ</td><td colspan="2">踏みしろ［ノッチ※］
〔操作力300Ｎ｛30kgf｝〕</td><td>7～10</td></tr>
<tr><td>Ｖベルト</td><td colspan="2">たわみ量［mm］</td><td>7.6～10.0</td></tr>
</table>

※ノッチとはパーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

電球のワット数

項　　目		メンテナンスデータ
電　　球	W（ワット）数	ヘッドランプ ハロゲンヘッドランプ装着車 ●ハイビーム……60W （バルブタイプ：HB3） ●ロービーム……55W （バルブタイプ：H11） ディスチャージヘッドランプ装着車 ●ハイビーム……60W （バルブタイプ：HB3） ●ロービーム……35W （バルブタイプ：D4S） 車幅灯……5W フロントフォグランプ★……55W （バルブタイプ：H11） フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1……21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯……LED※2 番号灯……5W 制動灯 兼 尾灯……LED※2 リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1……21W 後退灯……16W ルームランプ（フロント）……8W ルームランプ（センター）……8W フロントパーソナルランプ……5W バニティミラーランプ★……8W ラゲージルームランプ……5W ハイマウントストップランプ……LED※2

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

冷却水・油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>銘　柄</th></tr>
<tr><td rowspan="4">冷却水</td><td rowspan="2">1.8L車</td><td>寒冷地仕様車を除く</td><td>6.4</td><td rowspan="4">トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
●凍結保証温度
濃度30%　−12℃
濃度50%　−35℃</td></tr>
<tr><td>寒冷地仕様車</td><td>7.9</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2.0L車</td><td>寒冷地仕様車を除く</td><td>6.4</td></tr>
<tr><td>寒冷地仕様車</td><td>7.9</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オートマチックトランスアクスルフルード（FF車）</td><td colspan="2">1.8L車</td><td>8.1</td><td rowspan="3">トヨタ純正
CVTフルードTC</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.0L車</td><td>8.7</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オートマチックトランスアクスルフルード・トランスファーオイル（4WD車）</td><td colspan="2">トランスアクスル</td><td>8.0</td></tr>
<tr><td colspan="2">トランスファー</td><td>0.8</td><td>トヨタ純正キャッスルギヤオイルスーパー
（API GL−5,
SAE75W−90）</td></tr>
<tr><td colspan="3">リヤディファレンシャルオイル（4WD車）</td><td>0.5</td><td>トヨタ純正ハイポイドギヤオイルSX
（API GL−5,
SAE85W−90）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ブレーキフルード</td><td>——</td><td>トヨタ純正
ブレーキフルード
2500H</td></tr>
</table>

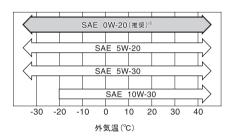
<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">項　　目</th><th colspan="2">容量［L］（参考値）</th><th rowspan="2">銘　柄</th></tr>
<tr><th>オイルのみ
交換時
充てん量</th><th>オイルとオイルフィルター
交換時
充てん量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンオイル</td><td>3ZR－FAE</td><td rowspan="2">3.9</td><td rowspan="2">4.2</td><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル
ＳＭ 0W-20
（API SM，EC/ILSAC
GF-4，SAE 0W-20）※
トヨタ純正モーターオイル
ＳＭ 5W-30
（API SM，EC/ILSAC
GF-4，SAE 5W-30）
トヨタ純正モーターオイル
ＳＭ 10W-30
（API SM，EC/ILSAC
GF-4，SAE 10W-30）
トヨタ純正モーターオイル
ＳＬ 5W-20
（API SL，EC
SAE 5W-20）
トヨタ純正モーターオイル
ＳＬ 10W-30
（API SL，EC
SAE 10W-30）</td></tr>
<tr><td>2ZR－FAE</td></tr>
</table>

※ 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■推奨するエンジンオイル
ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークがついています。

ＡＰＩマーク

ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

注意 **必ずトヨタ純正ＣＶＴフルードＴＣを使用してください。**

オートマチックトランスアクスルフルードは必ずトヨタ純正ＣＶＴフルードＴＣを使用してください。他のフルードを使用したり、混合して使用すると、故障の原因となります。詳しくは**トヨタ販売店**にご相談ください。

ウォッシャータンク容量

項　目		容　量［L］（参考値）
ウォッシャータンク	寒冷地仕様車を除く	2.5
	寒冷地仕様車	3.5

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする 前に
運転をする ときに
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

燃料の量と種類

項　　目	容　量［L］（参考値）	指定燃料
燃料 （フューエルタンク）	60	無鉛レギュラー ガソリン

タイヤ・ホイールの仕様

タイヤサイズ ＼ 項目		ホイールサイズ			
		リムサイズ		P.C.D.	オフセット量
		スチール ホイール	アルミ ホイール		
標準 タイヤ	195／65R15　91S	15×6J	15×6J	114.3mm ×5（穴）	50mm
	205／55R16　89V		16×6.5J		45mm
応急用 スペア タイヤ	T125／70D16　96M	16×4T			50mm
	T135／80D16　101M	16×4T			

タイヤの種類			タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm²}]	
			前輪	後輪
標準 タイヤ	195／65R15　91S	1.8L FF	250 {2.5}	
		2.0L FF	230 {2.3}	
		1.8L 4WD		
	205／55R16　89V		210 {2.1}	230 {2.3}
応急用スペアタイヤ			420 {4.2}	

車両仕様

名　称	型　式	エンジン	駆動方式	グレード
アイシス	ＺＧＭ１１Ｇ	３ＺＲ－ＦＡＥ （2.0Ｌガソリン）	ＦＦ （前輪駆動）	G
	ＺＧＭ１１Ｗ			PLATANA
	ＺＧＭ１０Ｇ	２ＺＲ－ＦＡＥ （1.8Ｌガソリン）		L
				G
	ＺＧＭ１０Ｗ			PLATANA
	ＺＧＭ１５Ｇ		４ＷＤ （４輪駆動）	L
				G
	ＺＧＭ１５Ｗ			PLATANA

初期設定が必要な機能

初期設定について

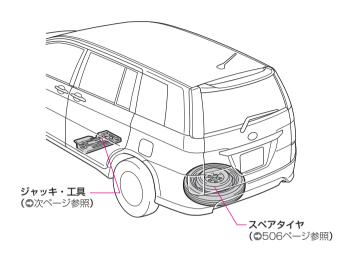
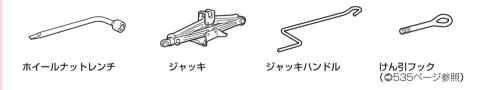
以下の項目は、バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるため初期設定が必要です。参照ページをお読みになり、初期設定を行ってください。

項目	初期設定が必要なとき	参照ページ
パワースライドドア	バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたとき	P.164
パワーバックドア★	バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたとき	P.177
パワーウインドゥ	バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたとき	P.180
クリアランスソナー★	バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたとき	P.356

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

9 万一のとき

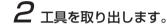
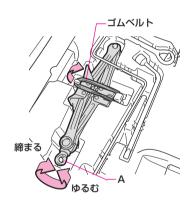
工具・スペアタイヤ・発炎筒

ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所

●ジャッキ・工具は、助手席側セカンドシート足下の床下に格納されています。
- 以下の工具があります。

●スペアタイヤはラゲージルーム下に格納されています。
(➲506ページ参照)

ジャッキ、工具の種類、発炎筒の使い方（➲512ページ参照）などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

工具・ジャッキの取り出し方

1 フタをはずします。

2 工具を取り出します。

3 ジャッキを取り出します。

ジャッキを固定しているゴムベルトをはずし、ジャッキのA部をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。
格納するときは、ジャッキが固定するようにA部をまわして締め、ゴムベルトを引っ掛けて固定してください。

⚠警告　工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

- ●工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意　ジャッキを使用するときは、次のことをお守りください。

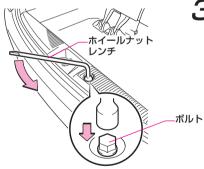
車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外に使用しないでください。

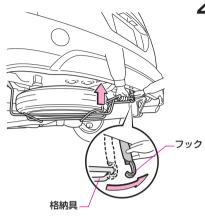
スペアタイヤの取りはずし方

取りはずすときは

1 バックドアを開けます。

2 **ラゲージルーム後部にあるキャップをはずします。**

ホイールナットレンチの先端をキャップの切り欠きに差し込み、下方にこじってはずします。

3 **ホイールナットレンチでボルトをゆるめます。**

ホイールナットレンチを使用して、ボルトを格納具がフックから取りはずせるくらいまでゆるめます。

※上図はFF車のものです。

4 格納具をフックからはずします。

格納具を少し持ち上げて、フックを格納具からはずします。

5 格納具を地面におろし、スペアタイヤを両側から持ち、手前に引き出します。

スペアタイヤを少し引き出すと、スペアタイヤが格納具から落下します。そのまま引き出してください。

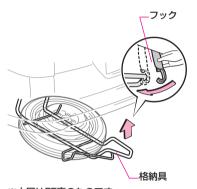
6 格納具をもとにもどします。

格納具をフックにかけ、床上のボルトを十分に締めつけて、もとにもどします。

警告　タイヤを取り出すときは、格納具に手や腕、足を挟まないように注意してください。

- ●タイヤを取り出すときは、格納具からタイヤを落とすなどして手や腕、足を挟まないように注意してください。
- ●スペアタイヤはジャッキアップする前に必ず取りはずしてください。ジャッキアップしたあとにスペアタイヤを取りはずすと、作業中にジャッキがはずれるなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

取りつけるときは

1 タイヤを格納具にのせます。

※上図はFF車のものです。

2 格納具を持ち上げてフックにかけます。

タイヤを格納具の上にのせ、格納具を持ち上げてタイヤがボディ側におさまっていることを確認してからフックをかけてください。

3 床上のボルトを締めつけます。

タイヤが確実に固定されていることを確認します。

4 キャップを取りつけます。

⚠注意　タイヤが確実に固定されていることを確認してください。

●タイヤを格納したあとは、タイヤが確実に格納具に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
●必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または➡499ページで正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
●スペアタイヤの取りはずしは、ジャッキアップ前に行ってください。
●スペアタイヤを脱着するときは、インパクトレンチを使用しないでください。インパクトレンチを使用すると格納具が損傷するおそれがあります。

応急用タイヤについて

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

⚠ 警告　応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。

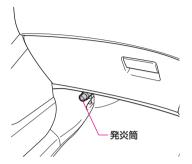
- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa ｛4.2kg/㎠｝
- 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

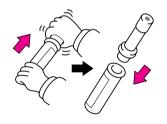
⚠注意	応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するものです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、約100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急用タイヤは、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は、標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると、車をぶつけるおそれがあります。
●応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
●応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト（ＶＳＣ装着車）
- ＶＳＣ・ＴＲＣ
- クリアランスソナー
- バックソナー

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- アクティブトルクコントロール4WD

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方

1 **発炎筒を組み立てます。**
本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 **着火します。**
キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。

⚠警告　発炎筒は正しく取り扱ってください。

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　発煙筒をトンネル内などで使用しないでください。

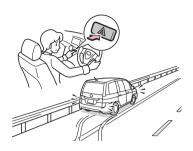
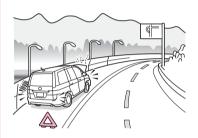
発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

知 識

発炎筒について

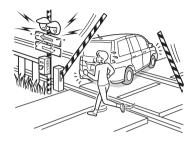
- 発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。
  本体に表示してある有効期間の切れる前に **トヨタ販売店**でお求めください。

故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（➡339ページの「非常点滅灯スイッチの使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務づけられています。）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。（➡512ページの「発炎筒の使い方」参照）

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃにしてパーキングブレーキを解除し、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒（➡512ページ参照）を使用してください。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃにしてパーキングブレーキを解除し、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●困ったときは、**トヨタ販売店**へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、➡77ページの「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換するまえに

1 平らな場所に移動します。

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 エンジンを停止します。

シフトレバーをⓅにし、エンジンを止めます。

4 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチを用意します。

（➡504ページ参照）

6 輪止めを用意します。

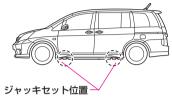
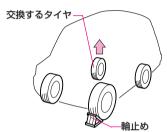
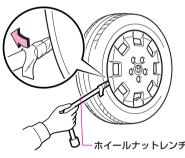
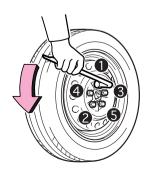
ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。

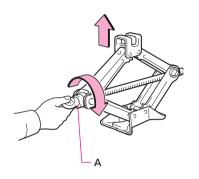
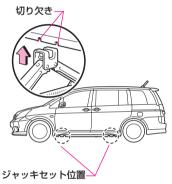
輪止めについては、**トヨタ販売店**で購入できますので**トヨタ販売店**にご相談ください。

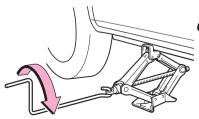
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 スペアタイヤを用意します。

（➡506ページの「スペアタイヤの取りはずし方」参照）

タイヤ交換のしかた

1 ジャッキを置きます。
取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

2 輪止めをします。
ジャッキアップする位置と対角にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。（図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。）

3 ホイールキャップをはずします。
スチールホイール装着車は、ホイールナットレンチの先をホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。（2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。）
傷つき防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。

4 ナットをゆるめます。
ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

5 **ジャッキを上げます。**
ジャッキのＡの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

6 **ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。**
ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。
●サイドマッドガード装着車はサイドマッドガードにジャッキがかからないようにしてジャッキセット位置にかけます。

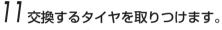
7 **ジャッキハンドルを取りつけます。**
ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

8 **ジャッキアップします。**
ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

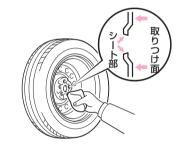
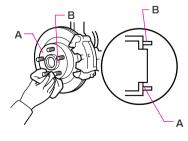
9 ナットを取りはずします。

手でナットを左にまわして、取りはずします。

10 タイヤを取りはずします。

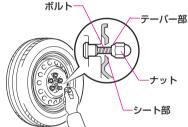
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

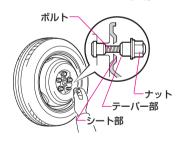
11 交換するタイヤを取りつけます。

●タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。

●図のＡ・Ｂ面の汚れを拭き取ります。

12 ナットを仮締めします。

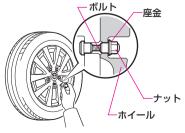
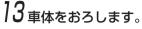
タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

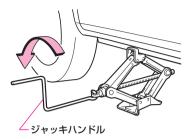
ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

■スチールホイールからスチールホイール（応急用タイヤを含む）にかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

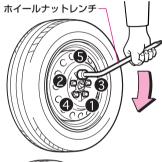
■アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

●応急用タイヤに交換する場合も、装着されていたホイール取りつけナットをそのまま使用することができます。

■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。

13 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

14 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締めつけます。

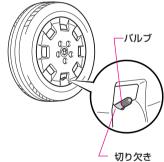
●締めつけトルク：
　約103N・m ｛1050kgf・cm｝

15 ホイールキャップを取りつけます。

スチールホイール装着車で、ホイールキャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせて、確実にホイールキャップを取りつけます。

●応急用タイヤに、ホイールキャップを取りつけることはできません。

16 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

17 タイヤの空気圧を点検してください。

（➡499ページ参照）

警告　パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

警告 パンクしたまま走行しないでください。

●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと、車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（➡517ページ参照）にかかっていることを確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。

●ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
●ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後は **トヨタ販売店**で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約103N・m ｛1050kgf・cm｝
●ナットを取りつけるときは、必ずテーパー部を内側にして取りつけてください。（➡80ページ参照）
●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、 **トヨタ販売店**などで点検を受けてください。
つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
●後輪のタイヤ交換などをするときは、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、誤ってスライドドアハンドルなどにふれたとき、パワースライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

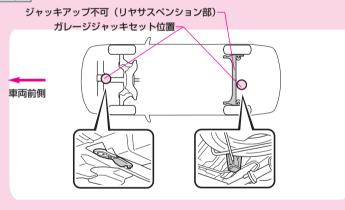
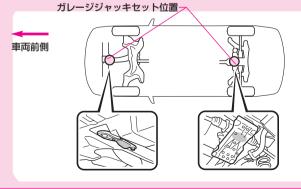
パンクしたまま走行しないでください。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷させたり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、**トヨタ販売店**にご相談ください。

また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ＦＦ車

4WD車

目次
警告
基本操作早わかり
運転する前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

パンクしたまま走行しないでください。

●ＦＦ車は、車両後輪を持ち上げるときにリヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。
●ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

注意

ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
●ホイールキャップは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
●ホイールキャップ装着車のホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール・ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
●ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
●アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
●傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、**トヨタ販売店**でタイヤのバランスの点検を受けてください。
●約1,000km走行したあとに、再度ホイール取りつけナットを締めつけ、ゆるみがないことを確認してください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは？

次のような状態が、バッテリーあがりです。

●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
●ヘッドランプがいつもより暗い。
●ホーンの音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 **ブースターケーブルをつなぎます。**

バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車のバッテリーの⊕端子
②救援車のバッテリーの⊕端子
③救援車のバッテリーの⊖端子
④次ページの図で指示している箇所（アースを取る。）

2 **バッテリーを充電します。**

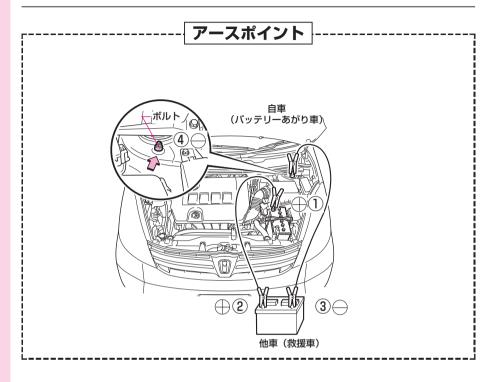
救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 **自車のエンジンをかけます。**

4 **ブースターケーブルをはずします。**

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

アースポイント

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプをつけたり、オーディオ・エアコンなどを使わないようにしてください。

●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

火気をバッテリーに近づけないでください。

●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ④の接続（➡前ページ参照）は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。

●充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。

注意

救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。

●バッテリーがあがりやすい場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知 識

バッテリー端子を脱着したときは

助手席側スライドドアを開けることができなくなります。次の手順でドアを開けてください。

❶助手席側フロントドアを開けてから

❷助手席側スライドドアを開ける。

バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは？

次のような状態が、オーバーヒートです。

- ●高水温警告灯（赤色）が点滅したり、エンジンの出力が低下する。
- ●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合はＯＦＦにします。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

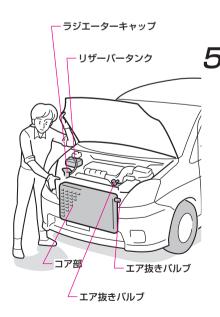
■ボンネットから蒸気が出ていない場合

ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

■ボンネットから蒸気が出ている場合

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

3 **冷却用ファンを確認します。**
ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはエンジンを停止して、**トヨタ販売店**に連絡してください。

4 **エンジンを停止します。**
高水温警告灯（赤色）が消灯したら、エンジンを止めます。

5 **冷却水量などを確認します。**
エンジンが十分冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 **冷却水を補給します。**

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 **トヨタ販売店で点検を受けます。**

早めに最寄りの**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

●移動途中で再び高水温警告灯（赤色）が点滅したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告 やけどなどしないように十分気をつけてください。

- ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包みゆっくりと開けてください。
- エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意 冷却水はエンジンが熱いときに入れないでください。

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

けん引してもらうときは、できるだけ トヨタ販売店、またはＪＡＦなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引前にまず トヨタ販売店へご連絡ください。

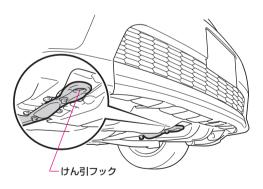
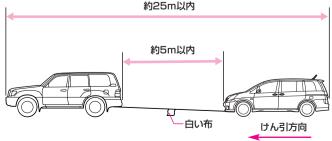
●エンジンがまわっているのに車が動かない。

●異常な音がする。

けん引してもらうときは

このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

1 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。

2 エンジンをかけます。

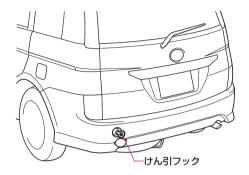
エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにします。

3 発進します。

シフトレバーをⓃにして、パーキングブレーキを解除します。

4 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引するときは

リヤ側のけん引フック取りつけ穴は、リヤバンパーの助手席側にあります。

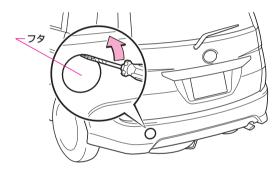
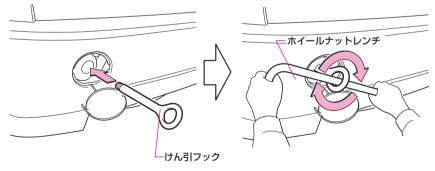
●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。

●自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

●トーイング装置を装着する場合は、制動灯からの電源の取り方に注意してください。

リヤ側けん引フックの取りつけ方

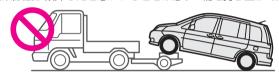
1 **けん引フック、ホイールナットレンチを用意します。**
（➡504ページ参照）

2 **けん引フック取りつけ部のフタを取りはずします。**
フタとバンパーのすき間にはいる程度の薄刃のマイナスドライバー先端に、バンパー傷つき防止のために薄手のテープを巻いて、フタをはずします。

3 **ホイールナットレンチを使用してけん引フックを確実に取りつけます。**

けん引が終わったら
ホイールナットレンチを使用してけん引フックを取りはずし、所定の格納場所（➡504ページ参照）に格納してください。
●けん引フック取りつけ部のフタを確実に取りつけます。

けん引される車は慎重に運転してください。

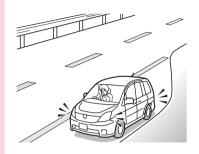
- けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

⚠注意 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●4WD車の場合、ＦＦモード・4WDモードにかかわらず4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

●けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
●スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
●スタック※したときは、無理にけん引せず、**トヨタ販売店**やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。
●固縛用フックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。けん引に使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロント

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 **続発事故を防止します。**
ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 **負傷者がいる場合は、応急手当を行います。**
医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 **警察への届け出をします。**

4 **相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。**

5 **ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。**

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトレバーをⓃに入れます。**

■シフトレバーがⓃに入った場合

3 **減速後、車を安全な道路脇に停めます。**

4 **エンジンを停止します。**

■シフトレバーがⓃに入らない場合

3 **ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。**

4 **"エンジン スタート ストップ" スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止します。**

5 **車を安全な道路脇に停めます。**

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

さくいん

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。

さ

し

す

ま

み

む

め

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

警告灯さくいん